

飯田市議会要覧

令和2年6月

飯田市議会事務局

飯田市市民憲章

わたくしたちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化に
つまれた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進してい
ます。

わたくしたちは、このまちの市民としての誇りをもち、明るく健康で豊かな
市民生活を築くために、全市民のねがいをこめてこの憲章をかかげ、たがい
はげましあい、手をとりあって進みます。

わたくしたちは

- 1 自然を大切にし、美しい環境の飯田市をつくります。
- 2 心身をきたえ、健康で明るい飯田市をつくります。
- 3 伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります。
- 4 善意を広め、思いやりの心で幸せな飯田市をつくります。
- 5 楽しく働き、豊かな産業の飯田市をつくります。

(昭和52年7月5日 施行)

市章 ～市章の象形～
平仮名「い」を組み合わせ
「田」を形どり「いいだ」
を象形する。



目次

I	沿革	
1	沿革	1
2	人口と世帯の推移	3
3	飯田市自治基本条例	4
II	市議会の構成	
1	構成	10
2	議員名簿	12
3	正副議長及び各委員会委員名簿	13
4	監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿	13
5	議会選出の各種委員等	14
6	各会派及び各会派の代表者氏名	16
III	市議会の活動	
1	市議会の活動状況	
	(1) 市議会招集回数 10 か年比較表	17
	(2) 議会開会状況	17
	(3) 議会審議状況	18
2	報酬・その他	19
3	定期刊行物	20
4	市議会会議録	20
5	議会事務局の事務分掌	21
IV	飯田市の概要	
1	令和2年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要	22
2	飯田市行政組織機構図	30
3	職員の定数	32

【 資料編 】

V	市議会のあゆみ	
1	市議会議員選挙執行状況	33
2	歴代市議会議員	
(1)	歴代議長	34
(2)	歴代副議長	35
(3)	歴代総務常任委員会正副委員長	36
(4)	歴代社会文教常任委員会正副委員長	37
(5)	歴代産業建設常任委員会正副委員長	38
(6)	歴代予算決算常任委員会正副委員長	38
(7)	歴代建設環境常任委員会正副委員長	39
(8)	歴代議会運営委員会正副委員長	40
(9)	歴代監査委員（議会選出）	41
(10)	歴代事務局長	42
(11)	歴代市議会議員	43
3	1年間の記録	
(1)	付議事件及び議決結果一覧表	50
(2)	議会において執行した選挙・選任等	59
(3)	委員会活動開催状況	59
(4)	請願陳情	60
(5)	定例会の質問事項	61
(6)	本会議等傍聴状況	94
4	市議会のあゆみ（昭和46年から）	95
VI	参考資料	
1	都市宣言	112
2	市制提携に関する覚書	116
3	友好都市締結	116
4	飯田市の主要年表	117

I 沿革

1-1 飯田市の沿革

飯田市は、長野県の最南端に位置する伊那谷の中心都市である。諏訪湖に源を發し、伊那谷を南下して太平洋に注ぐ天竜川の全長のほぼ中央に位置し、東に南アルプス国立公園、西に中央アルプス県立公園をひかえ、豊かな自然、優れた景観及び四季に富んだ暮らしやすい温暖な気候に恵まれている。伊那盆地の河岸段丘に位置する市街地から南アルプスの山懐に抱かれる遠山郷までにわたる658.66平方キロメートルの市域に101,111人（平成31年4月1日現在）の人口を擁し、地域に根ざした特色ある文化や産業活動が幅広く展開されている。

現在の飯田市街は飯田城の城下町であり、街並みの様相から「小京都」と呼ばれてきたが、昭和22年4月に市街地の3分の2を焼失する大火に見舞われた。以後面目を改め、防火モデル都市、さらに近年は環境モデル都市として注目されている。

近世の太宰春台、近代の菱田春草、河竹繁俊、日夏耿之介等学芸の士の生誕地であり、りんご並木のまち、人形劇のまちとして親しまれ、名勝天龍峡があり、豪快な天竜川下りが楽しめるほか、遠山郷の霜月まつり、各地に伝わる獅子舞など、伝統文化が豊富な地である。

昭和12年4月1日に飯田町と上飯田町が合併して市制を施行、以来、15町村と合併し、今日の飯田市の市域を成している。



「伊那谷の夜明け」とまで言われ、多くの市民が期待していた中央自動車道西宮線は、昭和50年8月23日に中津川一駒ヶ根間が開通し、昭和57年11月10日に全線開通となり、飯田地方と中京圏、首都圏との経済、文化の交流が飛躍的に拡大した。

また、東海地域と飯田を結ぶ三遠南信自動車道においては、平成6年3月29日に矢筈トンネルが、平成20年4月13日には飯田山本IC一天龍峡IC間が開通し、その後も全線開通を目指しての建設が進行している。

さらに、2027年開業予定のリニア中央新幹線については、平成25年9月にルート及び長野県駅が飯田市上郷飯沼に設置される計画が公表され、長野県の南の玄関口及び三遠南信地域の北の玄関口にふさわしいリニア駅とその周辺整備に向けた準備が進められている。

三遠南信地域連携ビジョン等ともあいまって、激的に近くなる首都圏と中京圏との連結地域として本市の果たす役割が期待される。

1-2 市議会の沿革

飯田市議会は、昭和31年に1市7か村を廃し、その区域をもって市制を施行したことに伴い、旧市村の議員が引き続き市議会議員（総員149人）として在任、同年10月8日に臨時会が開かれ、初代議長に代田源六郎氏、初代副議長に伊藤清氏が選出された。

市議会議員の定数は、昭和32年3月12日の定例会において「飯田市議会議員の選挙区及び各選挙区における議員の数に関する条例」（小選挙区制）を可決、以後、議員定数の見直しと合併による増員などの変遷を経てきた。

平成19年5月、新しい時代にふさわしい地方議会の在り方を模索する中で、市民にとってわかりやすく開かれた議会を目指し「議会改革検討委員会」を設置した。委員会では、「議員の在り方の変革を目指して」ほか5項目を議論する中、平成21年4月19日執行の議員選挙から定数を29人から23人に削減し、常任委員会の所属についても複数所属とし、一人の議員が二つの常任委員会に所属することとした。平成25年4月21日執行の議員選挙後は委員会活動をさらに充実させるため、議員は一つの常任委員会に所属することとした。

飯田市議会の近年の取組として最も注目されるのは、「飯田市自治基本条例」の制定である（平成19年4月施行）。その端緒は、平成15年5月、政策立案型議会への転換を目指した議会議案検討委員会の設置にある。翌16年5月20日には、市民を委員として「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が発足、同会議は条例の制定に向けた研究を行い、同年12月28日にその成果を最終答申書にまとめ、議長に提出した。市議会は翌17年5月に自治基本条例特別委員会を設置し、2度にわたる地区懇談会及び議会によるパブリックコメントの実施を経た後、自治基本条例の案を平成18年9月21日に議会議案として提案し、全会一致で可決した。

この条例の制定を契機に、平成20年度から「議会による行政評価」がスタートし、開かれた議会を実現するための「議会活動報告会」も同年度から開催され、「議会報告会」と名称変更して継続している。平成23年1月から、条例中の「議会の役割」について議会による検証が開始され、平成24年3月には、これまでの検討を踏まえ「議会改革・運営ビジョン」を取りまとめ、常設の機関として「議会改革推進会議」を設置した。議会改革推進会議では、1年をかけ課題として整理した29項目すべてを検討し、平成25年3月に「議会改革・運営ビジョン実現に向けた取組み（まとめ）」として取りまとめた。

その後、平成25年4月には議会報告会を含む広報広聴活動を充実させるため、「広報広聴委員会」を設置している。

平成30年12月、議会による予算決算審査のあり方についての研究を目的とした予算決算審査検討プロジェクトを発足した。以降、約半年間にわたるプロジェクト会議等を経て、令和元年5月の臨時会において常任委員会として「予算決算委員会」を設置した。

令和元年度からは「議会による行政評価」を予算決算委員会の所管とし、「いいだ未来デザイン2028」に掲げられた平成30年度戦略計画を中心に評価及び検証を行った。評価にあたっては執行機関側からの説明を受けた上で、委員会分科会での専門的な評価を経て最終とりまとめを行い、令和元年9月に市長へ提言書を提出した。



人形劇フェスタのイメージキャラクター「ぼお」です。太り気味の妖精でリンゴ並木に住んでいるそうです。

2 人口と世帯の推移

(単位：世帯・人・km²)

年 月	世帯数	人口	男	女	面積
昭和31. 9	14,627	69,235			199.78
昭和36. 3	16,018	69,538			206.07
昭和39. 3	19,179	79,541			293.03
昭和54. 4	20,870	77,860	36,794	41,066	〃
昭和59. 4	21,872	78,665	37,331	41,334	〃
昭和60. 4	26,458	92,132	43,776	48,356	299.23
昭和61. 4	26,469	92,096	43,709	48,387	〃
昭和62. 4	26,573	92,179	43,783	48,396	〃
昭和63. 4	26,709	92,050	43,810	48,240	〃
平成 1. 4	26,824	91,846	43,778	48,068	〃
平成 2. 4	27,033	91,806	43,721	48,085	298.90
平成 3. 4	27,277	91,723	43,739	47,984	〃
平成 4. 4	27,467	91,612	43,695	47,917	〃
平成 5. 4	27,732	91,684	43,819	47,865	〃
平成 6. 4	32,507	106,104	50,754	55,350	325.35
平成 7. 4	32,829	106,233	50,841	55,392	〃
平成 8. 4	33,183	106,472	50,991	55,481	〃
平成 9. 4	33,577	106,495	50,971	55,524	〃
平成10. 4	33,975	106,695	51,142	55,553	〃
平成11. 4	34,233	106,464	51,093	55,371	〃
平成12. 4	34,519	106,479	51,135	55,344	〃
平成13. 4	34,870	106,456	51,093	55,363	〃
平成14. 4	35,056	106,161	50,947	55,214	〃
平成15. 4	35,382	106,078	50,893	55,185	〃
平成16. 4	35,656	105,846	50,728	55,118	〃
平成17. 4	35,807	105,411	50,511	54,900	〃
平成18. 4	37,190	107,593	51,640	55,953	658.76
平成19. 4	37,395	106,993	51,253	55,740	〃
平成20. 4	37,787	106,770	51,138	55,632	〃
平成21. 4	37,682	105,867	50,693	55,174	〃
平成22. 4	37,801	105,372	50,407	54,965	658.73
平成23. 4	37,886	104,771	50,146	54,625	〃
平成24. 4	38,087	104,291	49,931	54,360	〃
平成25. 4	39,040	105,750	50,445	55,305	〃
平成26. 4	39,108	104,954	50,076	54,878	〃
平成27. 4	39,358	104,284	49,884	54,400	658.66
平成28. 4	39,656	103,712	49,623	54,089	〃
平成29. 4	39,711	103,023	49,343	53,680	〃
平成30. 4	39,735	102,012	48,859	53,153	〃
平成31. 4	39,896	101,111	48,630	52,481	〃
令和 2. 4	39,962	100,008	48,150	51,858	〃

※平成25.4以後は住民基本台帳法の改正により外国人を含む数字

特記事項

- ・昭和31年 9月 : 飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村及び下久堅村の1市7か村を合併
- ・昭和36年 3月 : 川路村を編入合併
- ・昭和39年 3月 : 上久堅村、千代村及び龍江村を編入合併
- ・昭和59年12月 : 鼎町を編入合併
- ・平成 5年 7月 : 上郷町を編入合併
- ・平成17年10月 : 上村及び南信濃村を編入合併
- ・平成22年 2月 : 天龍村との境界を修正
- ・平成26年10月 : 国土地理院が、計測方法を変更したことによる面積の修正

飯田市自治基本条例

平成18年9月21日条例第40号

一部改正：平成23年11月30日条例第25号

一部改正：平成25年3月25日条例第2号

目次

前文

第1章 総則(第1条—第3条)

第2章 自治の基本原則(第4条—第7条)

第3章 市民等の役割(第8条—第10条)

第4章 地域自治(第11条—第15条)

第5章 市政運営(第16条—第21条)

第6章 市議会の役割(第22条—第27条)

第7章 市の執行機関の役割(第28条—第34条)

第8章 住民投票(第35条)

第9章 条例の見直し(第36条)

附則

わたくしたちの住む飯田市は、美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、これまで互いに助け合い協力し、特色のある地域活動やまちづくりを実践してきました。

わたくしたちは、分権型社会や少子高齢社会の到来により、社会構造が大きく変化する中で、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神を、次の時代へ確実に引き継がなくてはなりません。

わたくしたちは、飯田市市民憲章にうたわれた市民としての心構えと理念を尊重し、協働して、市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、ここに、新たな自治の仕組みを定める飯田市自治基本条例を制定します。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、本市の自治の基本的な原則及びまちづくりに関する市民、市議会及び市の執行機関の役割を明らかにするとともに、市政運営についての基本的な指針を定めることにより、市民が主体のまちづくりを協働して推進することを目的とします。

(条例の位置付け)

第2条 この条例は、自治及び市政に関する基本的な原則を定めた最高規範であり、市民及び市は、この条例を誠実に遵守するものとします。

2 市は、条例、規則等を解釈し、又は制定、改廃する場合には、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

3 市は、基本構想等の計画の策定、政策の立案及び実施に当たっては、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

(用語の定義)

第3条 この条例において使用する用語の意義は、次のとおりとします。

- (1) 市民 市内に住所を有する人(以下「住民」といいます。)、市内で働き、若しくは学ぶ人又は市内において活動する人若しくは団体をいいます。
- (2) 市民組織 市民により自主的に形成され、まちづくりのために、互いに協力し多様な活動を行う組織をいいます。
- (3) 事業者 市内で、事業を営む個人及び法人その他の団体をいいます。
- (4) 市 市議会及び市の執行機関で構成する地方公共団体をいいます。
- (5) 市の執行機関 市長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいいます。
- (6) まちづくり 「ムトス」の言葉に象徴される、まちを活気のある明るく住みよくするための事業や活動を総称します。
- (7) 自治 市民が市政に参加し、その意思と責任に基づき市政が行われることのほか、地域の公共的活動を自ら担い、主体的にまちづくりを推進することをいいます。
- (8) 協働 まちづくりのために、市民と市とが情報を共有し、それぞれの役割を担いながら対等の立場で協力し、共に考え行動することをいいます。
- (9) 基本構想 本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本となる考え方をいいます。

第2章 自治の基本原則

(自治の基本原則)

第4条 市民と市とは、この章に掲げる自治の原則に基づき、協働して自治を推進するものとします。

(市民主体の原則)

第5条 まちづくりは、市民一人ひとりが主体となり、市民相互及び市と協調することにより推進します。

2 市民は、地域社会の一員として尊重され、その個性や能力を十分発揮することができます。

(情報共有の原則)

第6条 まちづくりは、市政についての情報が市民に公開され、市民が市政について意見を提出し、その情報や意見を市民と市とが共有することにより推進します。

(参加協働の原則)

第7条 まちづくりは、市民に市政への多様な参加の場と機会とが保障され、市民と市とが適切に役割分担し、協働することにより推進します。

第3章 市民等の役割

(市民の権利)

第8条 市民は、まちづくりの主体として、まちづくりに参加する権利を有します。

2 市民は、市政に関する計画や政策の立案段階から参加する権利を有し、意見を述べるすることができます。

- 3 市民は、市政についての情報を知る権利を有し、市に対し市が保有する情報の公開を求めることができます。

(市民の役割)

第9条 市民は、まちづくりの主体として、市と協働し、地域社会の発展に寄与するよう努めます。

- 2 市民は、互いの活動を尊重し、自らの発言と行動に責任を持つものとします。

(事業者の役割)

第10条 事業者は、地域社会の一員として、地域社会との調和を図るとともに、従業員の行う地域活動にも配慮し、まちづくりに寄与するものとします。

第4章 地域自治

(市民組織の尊重)

第11条 市は、市民組織の自主性及び自立性を尊重し、市民組織が活動するために必要な支援を行います。

- 2 市民は、市民組織がまちづくり推進の主要な担い手であることを認識し、市民組織を尊重し、守り育てるものとします。

(地域自治の推進)

第12条 市は、地域の特性と自主性が活かされた、個性豊かで魅力ある地域のまちづくりを推進するため、自治の基本原則に基づき、分権によるまちづくりの仕組みを目指します。

(地域自治区)

第13条 市は、市民に身近な事務事業を市民の意見を反映させて処理するとともに、地域の自治を促進するため、法律に基づく地域自治区を設けます。

- 2 地域自治区に置かれる地域協議会は、地域の住民により構成され、地域の意見を調整し、協働によるまちづくりを推進します。

(まちづくりのための委員会等)

第14条 市は、市民組織が地域のまちづくりに取り組むため組織する委員会等の自主的及び自立的な運営を尊重します。

(自治活動組織)

第15条 市民は、地域社会の一員として、自治活動組織(地域市民により形成され、まちづくりに取り組む市民組織をいいます。)の役割について理解を深め、協力するとともに、自治活動組織への加入に努めます。

- 2 市民は、可能な範囲内で、自治活動組織の活動に参加し、地域社会において個性や意欲を發揮することができるものとします。
- 3 自治活動組織は、地域市民の加入や参加が促進されるために必要な環境づくりに努めます。

第5章 市政運営

(協働して行う市政運営)

第16条 市は、市政に関する計画や政策の立案段階から市民の参加を促進し、市民と協働して市政運営を行います。

2 市は、市民の多様な参加の機会を整備し、協働のまちづくりを推進し、自治の拡充を図ります。

(市民意見の公募)

第17条 市は、別に定めるところにより、重要な計画及び政策の策定又は変更について事前に案を公表し、市民の意見を求めます。

2 市は、市民から提出された意見を尊重し、意見についての考え方を公表します。

(附属機関の委員の任命)

第18条 市の執行機関は、特定事項について審議又は調査等を行う附属機関に、市民の多様な意見が反映されるように委員を任命します。

(情報の公開)

第19条 市は、公正で開かれた市政の実現を図るため、市政についての情報の公開に関する総合的な施策に基づき、積極的に情報を公開します。

2 市は、市民の必要とする情報について、適切かつ速やかな提供に努めます。

(個人情報保護)

第20条 市は、市民の個人情報に関する権利を保障するとともに、個人情報を適正に管理します。

(基本構想等)

第21条 市は、まちづくりの理念に基づき、市議会の議決を経て基本構想を定め、総合的かつ計画的な市政運営に努めます。

2 市は、基本構想、基本計画その他市の施策の基本となる計画を策定するに当たっては、市民参加の機会を保障します。

第6章 市議会の役割

(市議会の責務)

第22条 市議会は、市民の代表機関として、市という団体の意思決定機関であり、法律若しくはこれに基づく政令又は条例の定めるところにより議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるよう活動します。

2 市議会は、市の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努めます。

3 市議会は、政策の立案、提言の内容の充実を図るための調査研究活動に努めます。

4 市議会は、合議体として論点、課題等について議論を深めるため、議員相互間の自由な討議を重んじて活動します。

(開かれた議会運営)

第23条 市議会は、市議会が保有する情報を公開するとともに、会議及び委員会等を公開し、並びに議会活動について市民に説明することにより、市民との情報の共有に努めます。

- 2 市議会は、市民の意見を聞くため議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営に努めます。
- 3 市議会は、議会報告会の開催等を通じ、前2項に規定することの実現に努めます。

(市議会議長の責務)

- 第24条 市議会議長は、市議会を代表し、公正中立に職務を遂行するとともに、円滑かつ効率的な議会運営を図るよう努めます。
- 2 市議会議長は、市議会に関する事務を統一的に処理するため、議会事務局の職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(市議会議員の責務)

- 第25条 市議会議員は、市民の意向把握や情報収集に努め、市民全体の利益を優先して政策提言を行います。
- 2 市議会議員は、政治倫理の確立に努め、公正かつ誠実に責務を遂行し、市民の負託にこたえます。
 - 3 市議会議員は、市議会の役割及び責務を自覚し、その誠実な遂行のため自己研鑽に努めます。

(政策の調査、審議のための機関)

- 第26条 市議会は、政策の調査、立案のために必要な専門的事項に係る調査、審議を、学識経験を有する者等に求めることができます。
- 2 市議会は、前項の学識経験を有する者等の指定に当たっては、市民の多様な意見が反映されるようにします。

(市議会事務局職員の責務)

- 第27条 市議会事務局職員は、市議会の持つ権能が十分発揮されるよう、全力をあげて市議会の活動を補佐します。
- 2 市議会事務局職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第7章 市の執行機関の役割

(市長の責務)

- 第28条 市長は、市の代表者として公正かつ誠実に市政を運営します。
- 2 市長は、自治の基本原則に基づき、市の計画及び政策の策定、実施、評価等を行います。

(市の執行機関の責務)

- 第29条 市の執行機関は、条例、予算その他の議会の議決に基づく事務及び法令、規則その他の規程に基づく事務を適正に管理、執行します。

(市の執行機関の組織運営)

- 第30条 市の執行機関は、行政組織について効率的かつ機能的なものとするとともに、相互の連携を図り、最小の経費で最大の行政効果を上げるよう運営します。
- 2 市の執行機関は、職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

(説明責任)

第31条 市の執行機関は、行政運営の透明性を高めるため、市政について、市民に分かりやすく説明する責任を果たします。

2 市長その他の執行機関は、市議会に対して、市政に関する意思決定の過程及び行政運営の状況を随時報告するものとします。

(行政評価)

第32条 市の執行機関は、市の施策や事務事業の執行状況を、基本構想等に基づき検証し、継続的な見直しを行い、効果的に執行します。

2 市の執行機関は、施策や事務事業の達成状況を公表し、市民から理解を得られる行政運営を進めます。

(財政状況の公表)

第33条 市長は、市の財源の確保とその効率的かつ効果的な運用により、財政の健全性に努めます。

2 市長は、財政状況を市民にわかりやすく公表するように努めます。

(市の執行機関の職員の責務)

第34条 市の執行機関の職員は、全体の奉仕者として、公平、公正かつ誠実に、全力をあげて職務を遂行します。

2 市の執行機関の職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第8章 住民投票

(住民投票)

第35条 市は、市政の特に重要な事項について、直接住民の意思を確認する必要があるときは、市議会の議決を経て住民投票を実施することができます。

2 市は、住民投票の結果を尊重します。

3 住民投票の実施に関し必要な事項は、その都度条例で定めます。

第9章 条例の見直し

(条例の見直し)

第36条 市は、社会の変化に対応して、本条例が第1条の目的を達成するために必要があるときは、条例の見直しを行います。

附 則

この条例は、平成19年4月1日から施行します。

附 則(平成23年11月30日条例第25号)

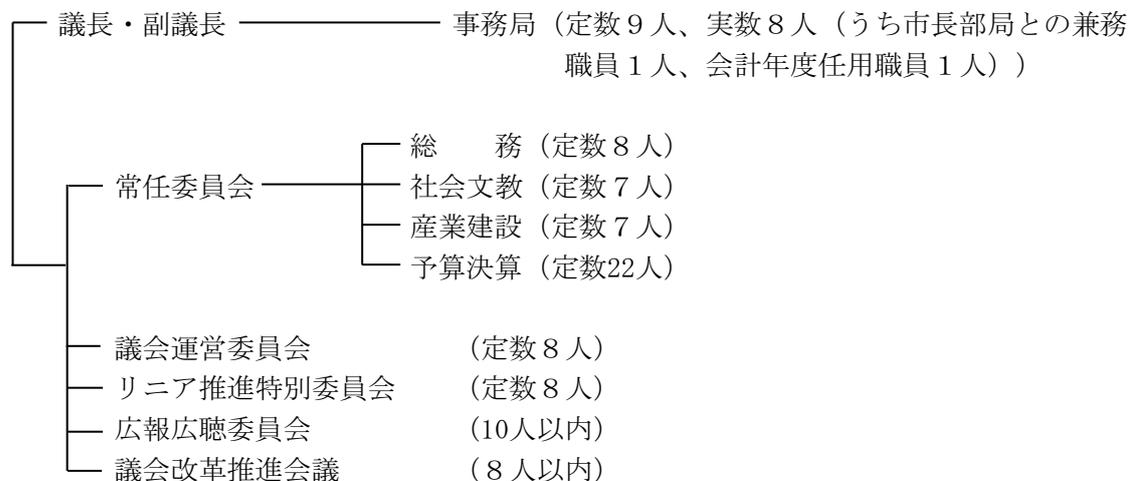
この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成25年3月25日条例第2号)

この条例は、公布の日から施行する。

II 市議会の構成（令和2年5月31日現在）

1 構成



(1) 常任委員会

ア 所管事項

- (ア) 総務委員会：総務部、総合政策部、市民協働環境部、市長公室、危機管理室、会計管理者、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会及び固定資産評価審査委員会の所管に属する事項並びに他の委員会の所管に属さない事項
- (イ) 社会文教委員会：健康福祉部及び教育委員会の所管に属する事項並びに病院事業に関する事項
- (ウ) 産業建設委員会：リニア推進部、産業経済部、建設部、上下水道局、水道局及び農業委員会の所管に属する事項
- (エ) 予算決算委員会：予算、決算及び行政評価に関する事項

イ 任期 2年

(2) 議会運営委員会

ア 所管事項

- (ア) 議会の運営に関する事項
- (イ) 議会の会議規則、委員会条例等に関する事項
- (ウ) 議長の諮問に関する事項

イ 任期 2年

(3) リニア推進特別委員会

ア 所管事項

リニア中央新幹線の推進に関する諸課題の研究調査に関する事項

イ 任期 2年

(4) 広報広聴委員会（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 議会広報紙の編集及び発行に関する事項
- (イ) 議会ホームページの管理運営に関する事項
- (ウ) インターネットを利用した会議公開に関する事項

- (エ) 会議傍聴の推進に関する事項
 - (オ) 市民への講座等の開催に関する事項
 - (カ) 議会報告会の企画運営及び市民意見の取扱いに関する事項
 - (キ) その他議会の広報に関する事項
- イ 任期 2年

(5) 議会改革推進会議（協議又は調整を行うための場）

ア 所管事項

- (ア) 飯田市議会の改革に関する調査研究
- (イ) 議会改革・運営ビジョン（平成22年3月22日決定）の実践状況の検証
- (ウ) 議長又は議会運営委員会から諮問された事項に関する調査審議
- (エ) その他推進会議の設置の目的のために必要な事項

イ 任期 2年

(6) 議員

ア 任期 平成29年4月28日から令和3年(2021年)4月27日まで

イ 条例定数 23人

ウ 現員数 23人

(ア) 党派別

公明党 3人 日本共産党 2人 無所属 18人

(イ) 会派別

会派のぞみ 13人 公明党 3人 会派みらい 3人
日本共産党 2人 市民パワー 2人

2 議員名簿

番号	氏名	会派	期数	郵便番号	住所	自宅電話等
1	清水 優一郎	会派のぞみ	1	〒399-2223	千栄532番地	27-4858
2	岡田 倫英	会派のぞみ	1	〒395-0023	江戸浜町3661番地12	48-6074
3	塚平 一成	会派のぞみ	1	〒399-2563	時又1037番地1	26-9137
4	竹村 圭史	会派のぞみ	2	〒395-0244	山本1407番地	25-2247
5	小林 真一	公明党	1	〒399-2601	虎岩2207番地1	29-8167
6	福澤 克憲	市民パワー	1	〒395-0025	東中央通5丁目20番地4	53-1285
7	古川 仁	日本共産党	2	〒395-0803	鼎下山677番地5	53-3792
8	木下 徳康	会派のぞみ	2	〒395-0813	毛賀366番地	24-4932
9	山崎 昌伸	会派のぞみ	2	〒395-0817	鼎東鼎292番地7	23-0204
10	熊谷 泰人	会派のぞみ	2	〒395-0075	白山通り3丁目391番地1	53-4150
11	湯澤 啓次	会派のぞみ	3	〒395-0001	座光寺2570番地1	24-6698
12	永井 一英	公明党	4	〒395-0077	丸山町2丁目6725番地14	23-4021
13	福沢 清	会派みらい	3	〒395-0029	二本松333番地1	22-5620
14	木下 容子	市民パワー	5	〒395-0063	羽場町1丁目5番地7	22-5973
15	後藤 荘一	日本共産党	5	〒395-0156	中村1221番地	25-7857
16	湊 猛	会派のぞみ	3	〒399-1311	南信濃和田1343番地1	0260-34-2248
17	新井 信一郎	会派のぞみ	4	〒395-0151	北方3330番地1	25-5181
18	清水 勇	会派のぞみ	4	〒399-2221	龍江2453番地1	27-2569
19	吉川 秋利	会派のぞみ	4	〒395-0807	鼎切石4375番地	24-8268
20	木下 克志	会派のぞみ	5	〒395-0803	鼎下山665番地	24-5645
21	村松 まり子	公明党	5	〒395-0814	八幡町489番地2	24-6884
22	井坪 隆	会派みらい	6	〒395-0004	上郷黒田1826番地	23-6421
23	原 和世	会派みらい	6	〒395-0244	山本4703番地1	25-1216

年齢別議員数

(令和2年5月31日現在)

年齢	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
人員	0	1	4	3	11	4	23

当選回数別議員数

(令和2年5月31日現在)

当選回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	計
人員	5	5	3	4	4	2	23

3 正副議長及び各委員会委員名簿

(1) 議長及び副議長

(令和元年5月14日改選)

議 長	湯澤 啓次	副 議 長	原 和世
-----	-------	-------	------

(2) 委員会

(令和元年5月15日改選)

◎印……委員長 ○印……副委員長

委 員 会 名	委 員			
総務委員会 (8人)	◎山崎 昌伸 古川 仁	○吉川 秋利 永井 一英	岡田 倫英 福沢 清	福澤 克憲 新井信一郎
社会文教委員会 (7人)	◎村松まり子 木下 容子	○湊 猛 清水 勇	塚平 一成 原 和世	竹村 圭史
産業建設委員会 (7人)	◎熊谷 泰人 木下 徳康	○後藤 荘一 木下 克志	清水優一郎 井坪 隆	小林 真一
予算決算委員会 (22人)	◎原 和世	○村松まり子	ほか議長を除く全議員	
議会運営委員会 (8人)	◎福沢 清 吉川 秋利	○永井 一英 木下 克志	山崎 昌伸 村松まり子	熊谷 泰人 井坪 隆
リニア推進特別委員会 (8人)	◎井坪 隆 永井 一英	○新井信一郎 木下 容子	竹村 圭史 清水 勇	木下 徳康 吉川 秋利
広報広聴委員会 (8人)	◎竹村 圭史 古川 仁	○福澤 克憲 永井 一英	清水優一郎 新井信一郎	塚平 一成 井坪 隆
議会改革推進会議 (8人)	◎木下 徳康 山崎 昌伸	○岡田 倫英 福沢 清	清水優一郎 木下 容子	小林 真一 後藤 荘一

4 監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿

(1) 監査委員 (選任に同意)

(令和元年5月15日選任)

推 薦 基 準	任 期	氏 名
議員から1人を推薦 市長が議会の同意を得る。	4 年	清水 勇

(2) 南信州広域連合議会議員

(令和元年5月15日選任)

推薦基準	任期	氏名
議員から12人 正副議長(2) 3常任委員長(3) 会派按分(7)	4年(議員の任期) (2年で改選)	湯澤 啓次 原 和世 山崎 昌伸 村松まり子 熊谷 泰人 竹村 圭史 木下 徳康 永井 一英 後藤 莊一 清水 勇 木下 克志 井坪 隆

3常任・・・総務、社会文教、産業建設

5 議会選出の各種委員等

(1) 附属機関等の委員名簿

(令和元年5月15日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
民生委員推薦会 (2人)	社文正副委員長	在職期間	村松まり子 湊 猛
都市計画審議会 (5人)	総務1・社文1 産建2・ リニア1	在職期間	山崎 昌伸 村松まり子 熊谷 泰人 後藤 莊一 井坪 隆
国民保護協議会 (3人)	3常任委員長	在職期間	山崎 昌伸 村松まり子 熊谷 泰人

3常任・・・総務、社会文教、産業建設

(2) その他の団体の役員(地区出身議員のみの団体は除く)

(令和元年5月15日選任)

名称	推薦基準	任期	氏名
天竜川上流治水促進 期成同盟会	議長	在職期間	【理事】湯澤 啓次
一般国道151号(飯田～豊 橋)改良促進期成同盟会	議長	在職期間	【理事】湯澤 啓次
一般国道153号改良期成 同盟会	議長	在職期間	【理事】湯澤 啓次
国道153号飯田南バイパス 整備促進期成同盟会	議長	在職期間	【監事】湯澤 啓次
長野県南部国道連絡会	議長	在職期間	湯澤 啓次
J R線活性化期成同盟会	議長	在職期間	【副会長】湯澤 啓次
リニア中央新幹線建設 促進飯伊地区期成同盟会 (7人)	正副議長 監査委員 3常任・リニア 推進特別委員長	在職期間	【副会長】湯澤 啓次 【理事】原 和世 【監事】清水 勇 山崎 昌伸 村松まり子 熊谷 泰人 井坪 隆
国道152号整備促進 期成同盟会(2人)	議長 産建委員長	在職期間	【理事】湯澤 啓次 熊谷 泰人

国道256号改良促進 期成同盟会（3人）	正副議長 産建委員長	在職期間	【理事】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人
国道418号整備促進 期成同盟会（4人）	正副議長 産建正副委員長	在職期間	【理事】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人 後藤 莊一
三遠南信自動車道飯喬道 路3工区建設促進期成同 盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	在職期間 在任期間	【顧問】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人 後藤 莊一 【地区】小林 眞一 清水 優一郎
三遠南信道路建設促進 南信地域期成同盟会 （3人）	正副議長 監査委員	在職期間	【副会長】湯澤 啓次 【理事】原 和世 【監事】清水 眞一
主要地方道飯田富山佐久 間線改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅・千代・龍江	在職期間 在任期間	【監事】湯澤 啓次 【理事】原 和世 熊谷 泰人 後藤 莊一 【地区】小林 眞一 清水 優一郎
主要地方道飯島飯田線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 座光寺・上郷・橋北 ・橋南・羽場・丸山・ 東野・鼎・伊賀良	在職期間 在任期間	【理事】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人 後藤 莊一 【地区】井坪 隆岡 田倫英 福澤 克憲 岡田 福沢 清一 木下 容子 永井 昌英 古川 仁 山崎 昌伸 吉川 秋利 木下 克志 新井 信一郎
主要地方道飯田南木曾線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・ 丸山・東野	在職期間 在任期間	【理事】湯澤 啓次 【監事】原 和世 【理事】熊谷 泰人 後藤 莊一 【地区】岡田 倫英 福澤 木下 福沢 清一 永井 克憲 永井 一英
県道上飯田線改良促進期 成同盟会	議長 地区出身議員 座光寺	在職期間 在任期間	【理事】湯澤 啓次
都市計画道路羽場大瀬木 線改良促進連絡協議会	正副議長 地区出身議員 橋北・橋南・羽場・ 丸山・東野・鼎・ 伊賀良	在職期間 在任期間	【相談役】湯澤 啓次 原 和世 【地区】岡田 倫英 福澤 克憲 福沢 清一 熊谷 泰人 木下 容子 永井 一英 古川 仁 山崎 昌伸 吉川 秋利 木下 克志 後藤 莊一 新井 信一郎
広域幹線林道千遠線 開設期成同盟会（2人）	議長 産建委員長	在職期間	【委員】湯澤 啓次 熊谷 泰人
松尾浄化管理センター 連絡協議会	正副議長 産建委員長 地区出身議員	在職期間	【委員】湯澤 啓次 原 和世 熊谷 泰人 村松まり子 【地区】木下 徳康
伊那テクノバレー地域 センター（1人）	議長	在職期間	【地域評議員】湯澤 啓次

3 常任…総務、社会文教、産業建設

(3) 議員による任意の団体

名 称	基準	任期	氏 名
森林・林業・林産業活性化 促進議員連盟 (林業活性化推進飯田市 議員連盟)	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】湊 猛 【副会長】福沢 清 【幹 事】塚平 一成 小林 真一 福澤 克憲 後藤 荘一 【会 員】全市議会議員
スポーツ振興議員連盟	各会派1 ※5名以上の会 派は2	2年	【会 長】熊谷 泰人 【副会長】原 和世 【幹事長】古川 仁 【事務局長】岡田 倫英 【幹 事】小林 真一 木下 容子 【会 員】全市議会議員
三遠南信、浜松三ヶ日・豊 橋道路建設促進議員協議会	賛同議員	在任期間	【会 員】全市議会議員

6 各会派及び各会派の代表者氏名

会 派 名	代表者名	議員数	会 派 名	代表者名	議員数
会 派 の ぞ み	木下 克志	13	公 明 党	村松まり子	3
会 派 み ら い	井坪 隆	3			
日 本 共 産 党	後藤 荘一	2	市 民 パ ワ ー	木下 容子	2

Ⅲ 市議会の活動

1 市議会の活動状況

(1) 市議会招集回数10か年比較表

区 分		年 次									
		平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元
招集回数	定例会	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	臨時会	0	2	0	1	1	1	0	1	0	1
会期日数		102	105	101	101	93	102	98	100	99	97
本会議日数		17	18	17	19	18	18	17	19	17	19
議案件数		199	287	218	228	226	208	172	173	194	198

(2) 議会開会状況（平成31年1月から令和元年12月まで）

	会 議	会 期	会期日数	本会議日数
1	第1回定例会	平成31年 2月26日 ～ 3月20日	23	4
2	第1回臨時会	令和元年 5月14日 ～ 5月15日	2	2
3	第2回定例会	令和元年 6月05日 ～ 6月27日	23	4
4	第3回定例会	令和元年 8月27日 ～ 9月20日	25	4
5	第4回定例会	令和元年 11月25日～12月18日	24	5
計			97	19

(3) 議会審議状況（令和元年1月から令和元年12月まで）

区分		会別	第1回 定例会	第1回 臨時会	第2回 定例会	第3回 定例会	第4回 定例会	計
市長 提出議案	予算・決算		21	1	3	16	8	49
	条例		15	1	25	11	7	59
	その他		22	9	4	8	10	53
	計(A)		58	11	32	35	25	161
議員又は 委員会 提出議案	条例		0	1	0	0	0	1
	その他		0	0	0	5	1	6
	計(B)		0	1	0	5	1	7
報 告	専決処分		1	9	2	3	2	17
	その他		0	0	12	1	0	13
	計(C)		1	9	14	4	2	30
審議件数(A+B+C)			59	21	46	44	28	198
議決状況	原案可決（同意・認定・承認を含む）		58	12	32	40	26	168
	報告（議決を要しないもの）		1	9	14	4	2	30
	修正可決							0
	否 決							0
	継続審査							0
	審議未了							0

2 報酬その他

(1) 報酬

(令和2年4月1日時点)

役 職	報酬月額	役 職	給料月額
議 長	499,000 円	市 長	925,000 円
副議長	436,000 円	副市長	760,000 円
議 員	407,000 円	教育長	669,000 円
改定日	平成 11 年 4 月 1 日	改定日	平成 27 年 12 月 24 日

報酬額の改定推移

(単位：千円)

種 別	改定年月日									
	S61 4.1	S62 4.1	S63 4.1	H 1 4.1	H 3 4.1	H 4 4.1	H 5 4.1	H 7 10.1	H 9 7.1	H11 4.1
議 長	331	339	352	369	413	437	469	485	494	499
副 議 長	278	285	296	310	352	372	410	424	432	436
議 員	259	266	277	290	325	343	383	396	403	407

(2) 期末手当

6 月期支給額 報酬×1.45×170/100

12月期支給額 報酬×1.45×170/100

(3) 費用弁償

(6)の表の規定に基づき往復の交通費のみ支給する。

(4) 研修旅費

議 員 1 人 当 り 年 額	
常 任 委 員 会	実 費
議 会 運 営 委 員 会	実 費
海 外 研 修 視 察	所要額の 3 / 4 (交付金)

(5) 政務活動費

議員 1 人当り年額140,000円

(6) 飯田市議員等の旅費額

(平成3年4月1日改正)

旅費の区分 職務の区分	車 賃		日 当	宿 泊 料		食卓料 (1夜につき)
	交通機関 のある場 合	交通機関 のない場 合(1キロメ ートルにつき)		県内	県外	
議員、教育委員、選挙管理委員、 公平委員、監査委員、農業委員、 選挙長、固定資産評価審査委員及 び固定資産評価員	実費	円 37	円 2,600	円 11,800	円 13,100	円 2,600

3 定期刊行物

(1) 飯田市議会だより

ア 創刊 昭和46年4月1日

イ 発行回数 年4回(4月、7月、10月及び1月(定例会終了の翌月)。このほか臨時号)

ウ 発行部数 各33,000部

エ 印刷 オフセット印刷(A4版 1回平均12ページ)160号から表紙、裏表紙のみカラー刷り

(2) 飯田市議会要覧

ア 発行回数 年1回(例年6月発行)

イ 発行部数 150部

4 市議会会議録

(1) 各定例会及び臨時会の会議録

ア 発行回数 年4回(次回定例会の招集日までに発行)

イ 発行部数 31部

ウ 印刷 オフセット印刷(A4版)

(2) 全員協議会、常任委員会及び特別委員会の会議録

発行部数 1部

(3) 会議録検索システム

ア 平成4年第2回定例会以降の本会議、全員協議会、各委員会のデータが検索可能

イ 平成15年11月から、インターネットによる会議録検索に対応

5 議会事務局の事務分掌

(1) 庶務係

- ア 公印の管理に関する事。
- イ 文書の収受、発送及び保存に関する事。
- ウ 予算及びその経理に関する事。
- エ 議員の身分、人事、福利厚生、共済等に関する事。
- オ 議員の報酬、費用弁償等に関する事。
- カ 議長会等に関する事。
- キ 儀式及び交際に関する事。
- ク 議会関係各室の管理に関する事。
- ケ 職員の人事、服務、給与等に関する事。
- コ 議決証明等に関する事。
- サ 物品の出納保管に関する事。
- シ 議会乗用車の管理に関する事。
- ス 他の係の所管に属さない事項に関する事。

(2) 議事係

- ア 本会議に関する事。
- イ 常任委員会、特別委員会、協議会等に関する事。
- ウ 議会において行う選挙等に関する事。
- エ 公聴会、参考人等に関する事。
- オ 議案その他付議事件に関する事。
- カ 議員の出欠席に関する事。
- キ 議事日程及び諸報告に関する事。
- ク 請願及び陳情に関する事。
- ケ 会議録その他の会議記録の調製及び保管に関する事。
- コ 議会の傍聴に関する事。
- サ その他議事に関する事。

(3) 調査係

- ア 議会、委員会等から命じられた事項の調査に関する事。
- イ 市政の調査及び研究に関する事。
- ウ 各種資料の収集、整理及び発行に関する事。
- エ 議員の研修に関する事。
- オ 条例、規則等の制定及び改廃に関する事。
- カ 法令等の調査研究に関する事。
- キ 議会広報に関する事。
- ク 照会事項の回答に関する事。
- ケ 議会図書室に関する事。
- コ 視察に関する事。

IV 飯田市の概要

1 令和2年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要

令和2年度 飯田市各会計予算の総額

会 計 名		予 算 額		比 較	
		2年度 (A)	元年度 (B)	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
一 般 会 計		45,880,000	46,350,000	△ 470,000	△ 1.0
国民健康保険特別会計	事業勘定	8,848,000	8,952,500	△ 104,500	△ 1.2
	直診勘定	4,800	6,300	△ 1,500	△ 23.8
後期高齢者医療特別会計		1,485,100	1,404,900	80,200	5.7
介護保険特別会計		11,946,700	11,691,800	254,900	2.2
地方卸売市場事業特別会計		16,000	15,500	500	3.2
駐車場事業特別会計		70,500	70,500	0	0.0
墓地事業特別会計		29,800	16,900	12,900	76.3
介護老人保健施設事業特別会計		701,000	699,100	1,900	0.3
ケーブルテレビ放送事業特別会計		78,000	76,700	1,300	1.7
病院事業会計		15,876,000	15,523,000	353,000	2.3
水道事業会計		4,123,800	4,166,100	△ 42,300	△ 1.0
下水道事業会計		6,016,000	6,125,000	△ 109,000	△ 1.8
特別会計の計		49,195,700	48,748,300	447,400	0.9
計		95,075,700	95,098,300	△ 22,600	△ 0.0

(単位:千円、%)

主 な 内 容	
	一般
保険給付費 6,347,625 事業費納付金 2,257,667 総務費 128,030 保健事業費 71,271	国保
三穂診療所、上村歯科診療所	
後期高齢者医療広域連合納付金 1,445,464	後高
保険給付費 11,197,144 地域支援事業費 506,852	介護
卸売市場費 14,878	市場
市営駐車場の管理運営 64,828 基金積立金 5,572	駐車
霊園の管理運営 9,636 造成事業費 19,716 基金積立金 100	墓地
施設管理費 625,369 施設事業費 75,631	老施
竜東維持管理費 52,755 遠山郷維持管理費 24,062	ケテ
収益的收入 13,670,000 収益的支出 13,924,000 資本的收入 1,294,500 資本的支出 1,952,000	病院
収益的收入 2,190,700 収益的支出 1,966,400 資本的收入 934,600 資本的支出 2,157,400	水道
収益的收入 4,085,900 収益的支出 3,612,800 資本的收入 985,800 資本的支出 2,403,200	下水
	特会
	計

令和2年度 一般会計 歳入 (主な内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の 構成比	増 減	
	2年度(A)	元年度(B)		(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 市 税	13,118,000	13,316,000	28.6	△ 198,000	△ 1.5
2 地 方 譲 与 税	490,000	466,000	1.1	24,000	5.2
3 利 子 割 交 付 金	10,000	14,000	0.0	△ 4,000	△ 28.6
4 配 当 割 交 付 金	34,000	43,000	0.1	△ 9,000	△ 20.9
5 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	30,000	30,000	0.1	0	0.0
6 法 人 事 業 税 交 付 金	95,000	0	0.2	95,000	皆増
7 地 方 消 費 税 交 付 金	2,344,000	2,074,000	5.1	270,000	13.0
8 自 動 車 取 得 税 交 付 金	0	51,000	0.0	△ 51,000	皆減
9 自 動 車 税 環 境 性 能 割 交 付 金	36,000	19,000	0.1	17,000	89.5
10 地 方 特 例 交 付 金	80,000	264,000	0.2	△ 184,000	△ 69.7
11 地 方 交 付 税	11,212,000	11,029,000	24.4	183,000	1.7
12 交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	15,000	15,000	0.0	0	0.0
13 分 担 金 及 び 負 担 金	380,714	612,272	0.8	△ 231,558	△ 37.8
14 使 用 料 及 び 手 数 料	610,240	552,571	1.3	57,669	10.4
15 国 庫 支 出 金	6,092,147	6,227,832	13.3	△ 135,685	△ 2.2
16 県 支 出 金	3,022,213	2,885,552	6.6	136,661	4.7
17 財 産 収 入	62,191	56,330	0.1	5,861	10.4
18 寄 附 金	208,050	158,050	0.5	50,000	31.6
19 繰 入 金	1,058,916	1,201,523	2.3	△ 142,607	△ 11.9
20 繰 越 金	600,000	600,000	1.3	0	0.0
21 諸 収 入	2,827,629	2,476,170	6.2	351,459	14.2
22 市 債	3,553,900	4,258,700	7.7	△ 704,800	△ 16.5
合 計	45,880,000	46,350,000	100.0	△ 470,000	△ 1.0

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合があります。

主 内 容	増減(A)-(B)の主な内容	
市民税 5,721,000 (個人 4,888,000 法人 833,000) 固定資産税 5,762,000 軽自動車税 382,000 市たばこ税 576,000 入湯税 3,000 都市計画税 674,000	市税は現年課税分で比較 個人 42,000 法人 △332,000 固定資産税 121,000 軽自動車税 16,000 市たばこ税 △38,000	市税
地方揮発油 118,000 自動車重量 328,000 森林環境 44,000	揮発油 △7,000 重量 9,000 森林環境 22,000	地譲
	利子割交付金 △4,000	利子
	配当割交付金 △9,000	配当
		株式
	法人事業税交付金 95,000	法事
消費税率10%に引上げによる増収分1,227,810千円は全額を社会保障施策に充当 (充当内訳: 社会福祉 759,414 社会保険 394,437 保健衛生 73,959)	地方消費税交付金 270,000	消費
	自動車取得税交付金 △51,000	自取
	環境性能割交付金 17,000	環性
地方特例交付金 80,000	子ども・子育て支援臨時交付金 △184,000	地特
普通交付税 10,212,000 特別交付税 1,000,000	普通交付税 183,000	地交
		交通
民生費負担金 291,354 (保育料等 202,672 老人措置 79,180) 農林費分担金 50,060 (非補助土地改良 50,000) 総務費負担金 37,238 (戸籍システム共同利用 17,043)	データ放送システム共同利用負担金 15,221 民間保育所保護者負担金 △144,313 公立保育所保護者負担金 △97,481	分負
ごみ処理手数料 163,312 住宅使用料 151,343 休日夜間急患診療所使用料 42,506 道路河川占用料 37,500 南信濃温泉交流施設使用料 32,700 文化会館使用料 20,100 戸籍手数料 19,302 斎苑使用料 19,253 地域振興住宅使用料 17,133 住民票手数料 14,475 建築確認手数料 10,350 印鑑等諸証明手数料 10,020	南信濃温泉交流施設使用料 32,700 ごみ処理手数料 18,054 休日夜間急患診療所使用料 2,183 住民票手数料 1,650 旧さんとびあ飯田利用者駐車場使用料 1,296	使手
【負担金】 民生費 4,348,175 (民間保育所 1,274,363 障がい児・者 1,160,967 児童手当 1,148,720 生活保護 509,785 児童扶養 141,873) 衛生費 57,848 (保険基盤安定) 災害復旧費 75,371 (公共土木施設災害)	防災・安全交付金 274,950 民間保育所負担金 159,294 個人番号カード交付事業補助金 38,077 ICアクセス道路整備事業補助金 34,650 学校施設環境改善交付金 17,720 障害児施設措置費等負担金 15,596 道整備交付金 14,250 現年度分低所得者保険料軽減負担金 10,148 社会資本整備総合交付金 △242,853 民間保育所等整備交付金 △210,735 文化財保護補助金 △161,870 児童扶養手当給付負担金 △40,275 国宝重要文化財等保存・活用事業補助金 △37,162 児童手当負担金 △23,441	国費
【補助金】 総務費 484,415 (リニア 402,600 社会保険・税番号制度 60,384) 民生費 184,490 (子ども・子育て 64,167 地域生活支援 44,192) 衛生費 34,239 (成人保健 13,622 環境保全 11,639 母子保健 6,331) 商工費 1,000 (文化財保護) 土木費 791,297 (道路 581,200 橋りょう 156,750 公園 15,000) 消防費 11,737 (災害対策) 教育費 86,268 (小・中学校 47,968 文化財保護 31,850)	勤労者福祉施設改修等補助金 126,082 民間保育所負担金 55,952 農業水利施設保全管理整備交付金 34,500 統計調査委託金 25,809 農村地域防災減災事業補助金 16,104 強い農業・担い手づくり総合支援交付金 14,670 障害児通所給付費等負担金 7,798 参議院議員選挙委託金 △37,424 保険基盤安定負担金 △28,226 県議会議員選挙委託金 △24,908 子育て支援対策臨時特例交付金 △17,802 保育料負担軽減事業補助金 △12,043	県費
【負担金】 民生費 1,673,616 (民間保育所 637,181 障がい児・者 565,334 児童手当 250,634 後期高齢者医療 192,473) 衛生費 189,949 (保険基盤安定)		
【補助金】 総務費 47,299 (合併特例交付金 38,400 就業移住支援金 5,000) 民生費 367,687 (医療費給付 199,959 民間保育所 65,729 地域子育て支援 65,670 障害者福祉 25,924) 農林費 288,825 (林業振興 110,539 農政対策 71,615 農業振興 32,538 国土調査 14,700 農業委員会 8,829)		
【委託費】 総務費 213,279 (県民税 166,890 統計調査 39,288)		
基金運用収入 33,544 財産貸付収入 14,936 不動産売払収入 12,921	建物売払収入 7,420 貸付料 △1,670	財産
ふるさと寄附金 200,000 工業振興寄附金 4,050 奨学資金 3,000	ふるさと寄附金 50,000	寄附
財調 400,000 減債 280,000 ふるさと 17,128 リニア 256,044 過疎 30,095 地域雇用 28,537 森林経営管理 22,000 財産区議会議員選挙 4,585 財産区事務 2,602	減債 △70,000 ふるさと 11,128 森林経営管理 22,000 リニア △98,187 過疎 △7,194 社会福祉施設 △6,044	繰入
		繰越
貸付金元利収入 1,633,640 (商工制度資金 1,400,000 生活資金 170,000) 受託事業収入 147,238 (中央新幹線用地取得事務 85,050) 雑入 1,043,651	給食実費徴収金 13,698 児童発達支援給付費負担金 10,561 土地改良施設維持管理適正化事業交付金 8,640	諸収
過疎対策事業債 103,700 公共交通体系 37,300 林道 33,100 観光 14,000 福祉企業センター 4,300 その他 3,450,200 土木 851,700 総務 436,600 教育 341,700 消防 292,200 衛生 103,000 農林 81,300 民生 63,900 災害復旧 33,800 商工 18,000 臨時財政対策債 1,228,000	防災・減災・国土強靱化事業 74,600 緊急自然災害防止対策事業 35,000 社会福祉施設整備 △141,600 一般単独 △134,700 合併特例事業 △109,600 臨時財政対策 △106,000 上水道事業 △82,700 公共施設等適正管理推進事業 △78,500 地域活性化事業 △57,400 辺地対策事業 △40,400	市債

令和2(2020)年度 一般会計 目的別歳出 (主要内容と増減内訳)

区 分	予 算 額		(A)の構成比	増 減	
	2年度(A)	元年度(B)		(A)-(B)(C)	(C)/(B)
1 議 会 費	277,234	277,626	0.6	△ 392	△ 0.1
2 総 務 費	5,721,935	5,131,460	12.5	590,475	11.5
3 民 生 費	15,169,324	15,624,709	33.1	△ 455,385	△ 2.9
4 衛 生 費	4,640,072	4,574,005	10.1	66,067	1.4
5 労 働 費	381,779	352,510	0.8	29,269	8.3
6 農 林 水 産 業 費	1,276,134	1,180,022	2.8	96,112	8.1
7 商 工 費	2,452,399	2,448,119	5.3	4,280	0.2
8 土 木 費	5,203,049	5,624,486	11.3	△ 421,437	△ 7.5
9 消 防 費	1,570,422	1,642,301	3.4	△ 71,879	△ 4.4
10 教 育 費	4,096,554	4,221,863	8.9	△ 125,309	△ 3.0
11 災 害 復 旧 費	117,300	132,412	0.3	△ 15,112	△ 11.4
12 公 債 費	4,861,367	5,027,006	10.6	△ 165,639	△ 3.3
13 諸 支 出 金	72,431	73,481	0.2	△ 1,050	△ 1.4
14 予 備 費	40,000	40,000	0.1	0	0.0
合 計	45,880,000	46,350,000	100.0	△ 470,000	△ 1.0

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合があります。

主 内 容	増 減 の 主 な 内 容	
議会費 277,234	事務局人件費 1,310 議会一般経費 △2,494	議会
リニア代替地整備事業 571,983 リニア駅周辺整備事業 469,361 リニア推進事業 233,939 住民情報システム管理費 171,489 自治振興センター管理費 156,938 総務一般管理費 156,463 市民バス等運航業務 137,623 ふるさと飯田応援隊募集事業 110,480 地域自治支援事業 109,908 南信州広域連合負担金(一般会計) 104,029 社会保障・税番号制度事業 60,821 課税事務委託費 60,774 庁内事務システム管理費 44,293 情報管理費 40,436 車両管理費 39,494 地域振興住宅整備事業 39,000	リニア駅周辺整備事業 335,171 リニア推進事業 178,529 自治振興センター管理費 64,928 社会保障・税番号制度事業 37,662 市長選挙費 36,991 住民情報システム管理費 32,849 データ放送システム運営事業 30,020 ふるさと飯田応援隊募集事業 25,776 リニア代替地整備事業 △155,477 課税事務委託費 △49,109 リニア用地取得事業 △47,295 参議院議員選挙費 △37,563 県議会議員選挙費 △24,908	総務
民間保育所等運営費 2,760,902 介護保険特別会計繰出金 1,707,057 児童手当費 1,649,990 後期高齢者医療関係一般経費 1,147,765 総合支援介護給付事業 1,106,516 総合支援訓練等給付事業 740,146 生活保護措置費 679,714 児童扶養手当費 425,619 障害児通所支援費 371,410 養護老人ホーム措置事業 348,167 後期高齢者医療特別会計繰出金 293,266 障害者医療費給付事業 272,593 子ども医療費給付事業 244,861	介護保険特別会計繰出金 51,130 後期高齢者医療関係一般経費 45,689 保育士等人材確保支援事業 34,295 障害児通所支援費 31,191 公立保育所施設整備事業 27,608 民間保育所等施設整備事業 △406,693 児童扶養手当費 △120,827 児童養護施設・乳児院整備事業 △36,931 児童手当費 △33,670 総合支援医療給付事業 △27,995	民生
病院事業会計負担金 1,306,266 国民健康保険特別会計繰出金 509,275 水道費 415,952 南信州広域連合負担金(焼却場) 379,843 ごみ収集処理費 299,477 予防接種事業(子ども) 180,857 南信州広域連合負担金(竜水園) 121,322 妊婦健診事業 103,285 ごみ減量対策費 92,851 がん検診事業 75,419 予防接種事業(高齢者) 66,195 容器包装リサイクル事業 55,804	南信州広域連合負担金(焼却場) 213,159 ごみ減量対策費 70,356 保健施設管理費 27,832 風しん対策事業 18,479 結核予防事業 6,265 容器包装リサイクル事業 4,449 がん検診事業 3,287 水道費 △143,103 病院事業会計負担金 △97,906 国民健康保険特別会計繰出金 △49,320 一般廃棄物最終処分場管理費 △22,689	衛生
勤労者協調融資事業 170,000 勤労者福祉センター管理費 156,119 飯田勤労者共済会補助事業 12,734 労働諸費 7,837	勤労者福祉センター管理費 127,567 労働諸費 △86,979 人材誘導事業 △12,076	労働
林道改良事業(補助) 153,452 市単土地改良事業 109,279 農業基盤整備資金償還補助事業 74,600 意欲ある農業者支援事業 66,843 農業水利施設保全管理整備事業 66,104 非補助土地改良事業 50,000 農作物鳥獣被害対策事業 40,620 林道舗装事業 31,883 中山間地域等直接支払事業 27,950 林道開設事業 26,724 農業委員会活動推進事業 22,992	農業水利施設保全管理整備事業 66,104 森林経営管理事業 19,870 意欲ある農業者支援事業 14,570 土地改良施設維持管理適正化事業 10,271 上村農業施設管理費 6,836 市単土地改良事業 4,876 林道改良事業(補助) △11,776 農業基盤整備資金償還補助事業 △11,019	農林
中小企業金融対策事業 1,500,000 企業立地促進事業補助金 75,958 産業振興と人材育成の拠点整備事業 69,544 地域産業等振興事業 56,230 上村観光施設管理費 39,171 南信濃温泉交流施設管理費 35,974	産業振興と人材育成の拠点整備事業 41,433 南信濃温泉交流施設管理費 35,974 企業立地促進事業補助金 20,958 上村観光施設管理費 17,169 名勝天龍峡整備事業 △77,419 天龍峡活性化事業 △35,255	商工
下水道費 1,787,400 改築補助事業 463,000 橋りょう長寿命化修繕事業 289,621 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) 256,900 道路補修事業 224,225 道路舗装補修事業 207,740 道整備交付金事業 125,000 防災・安全交付金事業(通学路安全対策) 125,000 市道改良事業 115,038 防災・安全交付金事業(道路整備) 100,000	橋りょう長寿命化修繕事業 85,909 改築補助事業 63,000 公営住宅整備事業(補助) 42,100 道整備交付金事業 28,500 市道改良事業 26,000 公営住宅整備事業(単独) 23,209 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) △484,100 防災・安全交付金事業(道路整備) △93,000 下水道費 △70,600 辺地対策道路改良事業 △40,000	土木
南信州広域連合負担金(消防) 984,656 防災対策推進事業 256,164 消防団運営事業 176,827 消防体制強化整備事業(単独) 46,540	南信州広域連合負担金(消防) 2,753 防災対策推進事業 △42,980 消防体制強化整備事業(単独) △26,031	消防
学校施設大規模改修事業(小・中) 218,530 情報通信技術活用教育推進事業(小・中) 211,063 調理業務委託費 198,843 学校管理一般経費(小・中) 181,497 学校教育振興事業(小・中) 162,421 美術博物館管理費 117,771 体育施設管理費 116,571 公民館管理・運営費 107,194 学校給食事業 101,144 図書館管理・運営費 62,948 文化会館施設整備事業 61,877 公民館改修事業 58,355	学校施設大規模改修事業(小・中) 78,060 情報通信技術活用教育推進事業(小・中) 60,954 文化会館施設整備事業 56,467 美術博物館管理費 48,995 教員指導力向上事業 45,015 管理一般経費(小・中) 9,214 恒川遺跡群保存活用事業(補助) △198,846 恒川遺跡群保存活用事業(単独) △117,320 体育施設改修費 △98,592	教育
土木施設補助災害復旧事業 113,000 土木施設単独災害復旧事業 2,000 林道単独災害復旧事業 1,300	土木施設補助災害復旧事業 △15,112	災害
長期債元金 4,677,148 長期債利子 184,219	元金 △124,342 利子 △41,297	公債
新規積立金 44,050 (森林経営管理基金 44,000 学術研究振興基金 50)	新規積立金 △8,000	諸支
予備費 40,000		予備

令和2(2020)年度 一般会計 性質別歳出 (主な増減内訳)

	2年度予算額		元年度予算額		増 減	
	(A)	構成比	(B)	構成比	(A)-(B) (C)	(C)/(B)
1 人 件 費	7,696,494	16.8	6,073,915	13.1	1,622,579	26.7
2 扶 助 費	9,017,785	19.6	9,244,154	19.9	△ 226,369	△ 2.4
3 公 債 費	4,861,367	10.6	5,027,006	10.8	△ 165,639	△ 3.3
小 計	21,575,646	47.0	20,345,075	43.8	1,230,571	6.0
4 物 件 費	4,665,014	10.1	5,868,636	12.7	△ 1,203,622	△ 20.5
5 維 持 補 修 費	729,275	1.6	723,927	1.6	5,348	0.7
6 補 助 費 等	6,816,854	14.9	6,608,262	14.3	208,592	3.2
7 積 立 金	77,551	0.2	78,519	0.2	△ 968	△ 1.2
8 投 資・出 資 金	627,025	1.4	760,620	1.6	△ 133,595	△ 17.6
9 貸 付 金	1,641,660	3.6	1,644,195	3.5	△ 2,535	△ 0.2
10 繰 出 金	3,803,663	8.3	3,757,019	8.1	46,644	1.2
11 投 資 的 経 費	5,903,312	12.8	6,523,747	14.1	△ 620,435	△ 9.5
補 助	2,165,223	4.7	2,877,195	6.2	△ 711,972	△ 24.7
単 独	3,738,089	8.1	3,646,552	7.9	91,537	2.5
普 通 建 設 費	5,786,012	12.6	6,391,335	13.8	△ 605,323	△ 9.5
補 助	2,052,223	4.5	2,749,083	5.9	△ 696,860	△ 25.3
単 独	3,733,789	8.1	3,642,252	7.9	91,537	2.5
災 害 復 旧 費	117,300	0.2	132,412	0.3	△ 15,112	△ 11.4
補 助	113,000	0.2	128,112	0.3	△ 15,112	0.0
単 独	4,300	0.0	4,300	0.0	0	0.0
12 予 備 費	40,000	0.1	40,000	0.1	0	0.0
合 計	45,880,000	100.0	46,350,000	100.0	△ 470,000	△ 1.0

※表示単位未満四捨五入。各項目と合計は一致しない場合がある。

単位：千円、%

増減の主な内容		
会計年度任用職員人件費 1,604,052 職員給(会計年度任用職員分を除く) 52,106 市町村共済負担金 14,261 委員等報酬 △47,171 退職手当 △1,330		人件
障害児通所支援事業 31,191 児童扶養手当 △120,827 児童手当 △33,670 総合支援医療給付事業 △27,995 総合支援介護給付事業 △24,287 総合支援訓練等給付事業 △17,477 民間保育所等運営費 △3,968		扶助
元金 △124,342 利子 △41,297		公債
ごみ減量対策事業 72,039 教員指導力向上事業 43,595 南信濃温泉交流施設管理事業 35,948 住民情報システム管理事業 31,735 庁内事務システム管理費 20,690 風しん対策事業 18,555 土地利用基本方針運用事業 15,174 中学校管理一般経費 12,710 臨時職員等賃金 △1,315,652 社会保険料(賃金分) △203,933		物件
河川維持補修事業 10,471 飯田子どもの森公園維持管理費 6,331 公民館管理・運営事業 5,919 中学校施設改修事業 4,020 保育所管理費 △12,060 橋りょう補修事業 △10,308		維持
南信州広域連合負担金(焼却場) 213,159 社会保障・税番号制度事業 37,693 保育士等人材確保支援事業 34,202 民間保育所等運営費 20,046 IIDAブランド推進事業 15,400 次世代を担う産業人材育成事業 15,335 観光振興事業 10,000 下水道費 △70,600 水道費 △55,908 病院事業負担金 △51,506		補助
森林経営管理基金積立金 22,000 ふるさと基金積立金 △29,930		積立
水道事業出資金 △87,195 病院事業出資金 △46,400		投資
奨学金貸与事業 △2,520		貸付
介護保険特別会計繰出金 51,130 後期高齢者医療広域連合負担金 45,689 国民健康保険特別会計繰出金 △49,320		繰出
		投資
		補助
		単独
		普建
中学校校舎外壁改修事業 112,000 リニア推進事業 95,600 農業水利施設保全管理整備事業 66,104 改築補助事業 63,000 道整備交付金事業 28,500 社会資本整備総合交付金事業(道路整備) △484,100 民間保育所等施設整備事業 △406,693 恒川遺跡群保存活用事業(補助) △198,846		補助
リニア駅周辺整備事業 335,900 勤労者福祉センター管理事業 127,489 リニア推進事業 78,069 自治振興センター管理事業 70,838 美術博物館管理事業 61,394 リニア代替地整備事業 △155,477 恒川遺跡群保存活用事業(単独) △117,320 体育施設改修事業 △98,592 旧桐林勤労者福祉センター撤去工事 △85,800 防災対策推進事業 △40,312 辺地対策道路改良事業 △39,000 天龍峡活性化事業 △32,699		単独
		災害
土木施設補助災害復旧事業 △15,112		補助
		単独
		予備

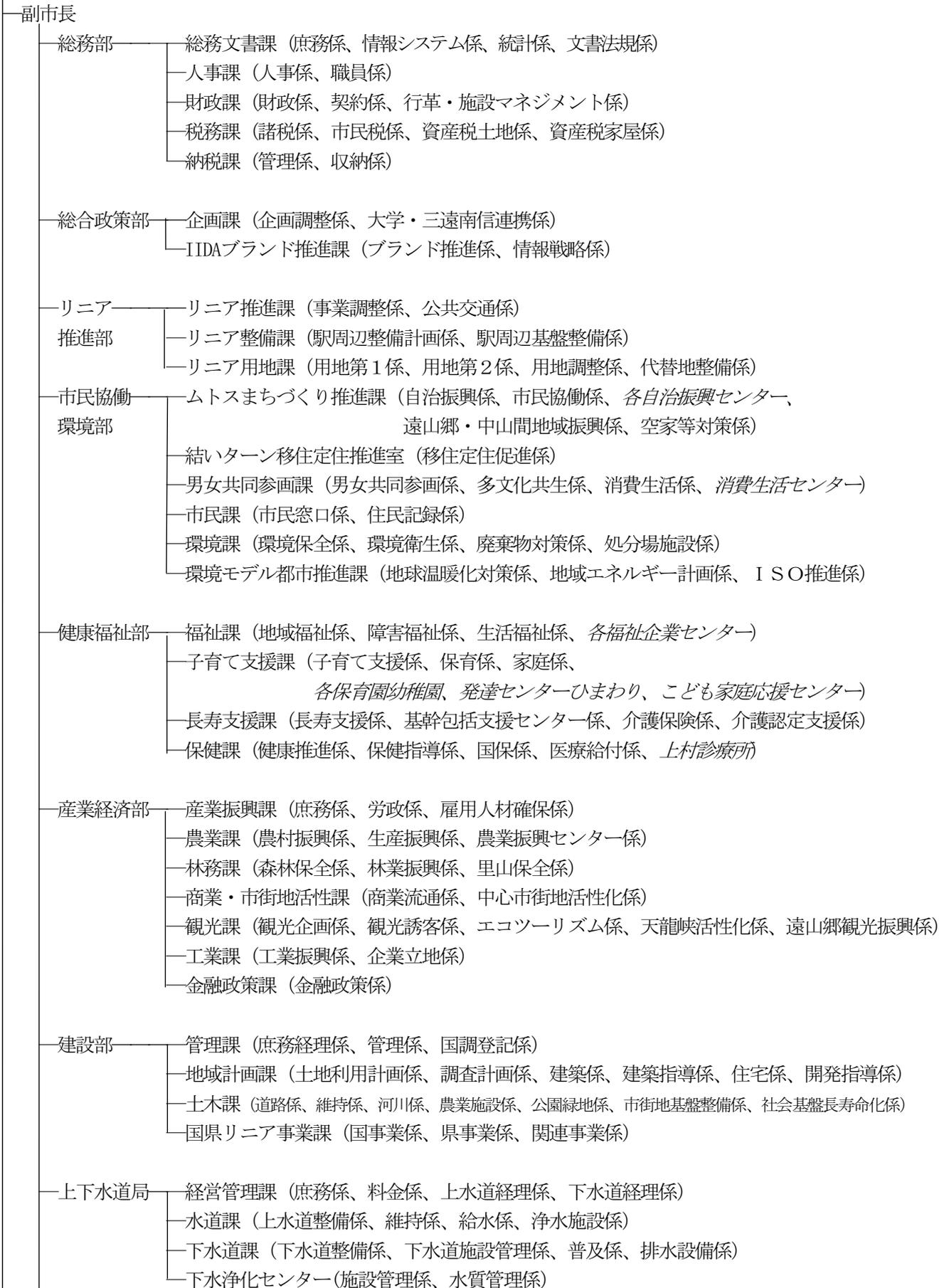
2 飯田市行政組織機構図 (R2. 4. 1)

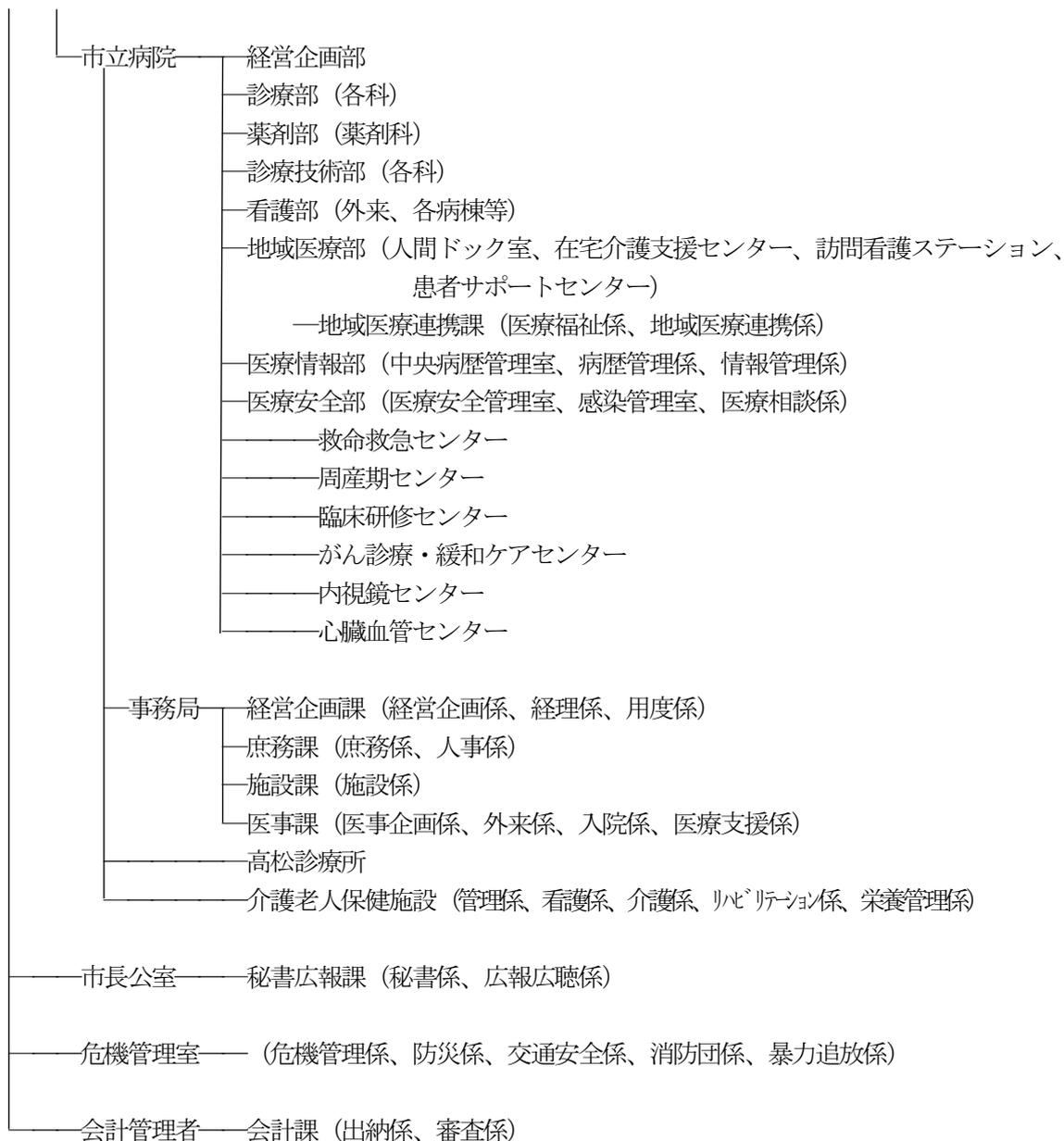
部等 課等 (係・出先機関:正規職員の配置のあるもの)

○市長事務部局

○市長事務部局

市長



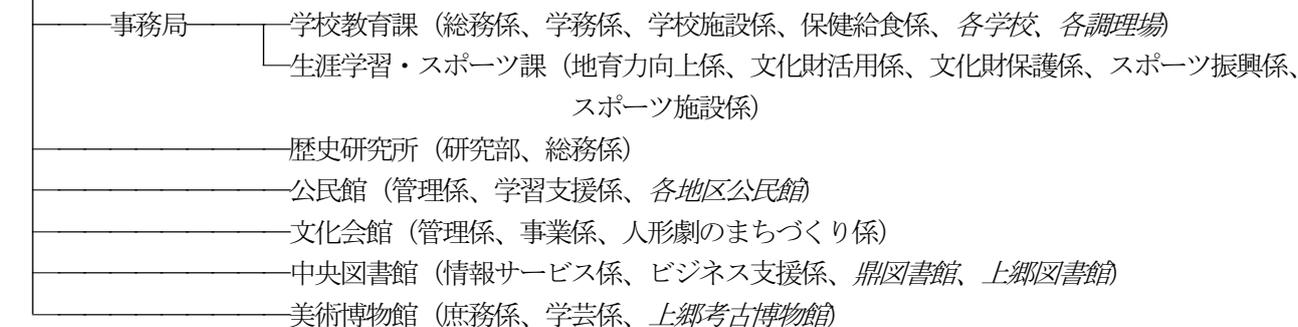


○市議会、行政委員会

市議会事務局 (庶務係、議事係、調査係)

教育委員会

教育長



選挙管理委員会 事務局 (選挙係、啓発係)

公平委員会 (事務職員)

監査委員 事務局 (監査係)

農業委員会 事務局 (農地係、振興係)

固定資産評価審査委員会 (書記)

3 職員の定数

(令和2年4月1日現在)

区 分	定 数 (人)	実 数 (人)
市長の事務部局の職員	755	688
議会の事務部局の職員	9	6
教育委員会の事務部局及び教育機関の職員	150	125
選挙管理委員会の事務部局の職員	5	2
公平委員会の事務部局の職員	2 (市長部局職員兼務2)	0
監査委員の事務部局の職員	4	3
農業委員会の事務部局の職員	16 (市長部局職員兼務8)	5
固定資産評価審査委員会の事務部局の職員	2 (市長部局職員兼務2)	0
病院事業の職員	750	716
水道事業の職員	32	20
小 計	1,725	1,565
市長部局付派遣職員		
(財)南信州・飯田産業センター		3
(社福)飯田市社会福祉協議会		1
飯田市土地開発公社		-
千曲市		1
長野県後期高齢者医療広域連合		1
長野県地方税滞納整理機構		1
飯田市職員労働組合専従		2
小 計		9
派遣職員(自治法派遣)		
南信州広域連合 事務局		5
〃 飯田広域消防		1
〃 飯田環境センター		1
小 計		7
合 計		1,581

【 資 料 編 】

V 市議会のあゆみ

1 市議会議員選挙執行状況

昭和32年4月28日	合併による設置選挙
昭和35年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和36年4月23日	任期満了一般選挙
昭和39年5月15日	龍江・千代・上久堅3か村合併による増員選挙
昭和39年8月28日	伊賀良地区補欠選挙
昭和39年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和40年4月25日	任期満了一般選挙
昭和43年10月20日	補欠選挙
昭和44年4月20日	任期満了一般選挙
昭和47年10月22日	補欠選挙
昭和48年4月22日	任期満了一般選挙
昭和51年10月17日	補欠選挙
昭和52年4月17日	任期満了一般選挙
昭和55年10月19日	補欠選挙
昭和56年4月19日	任期満了一般選挙
昭和60年4月21日	任期満了一般選挙
昭和63年10月16日	補欠選挙
平成元年4月23日	任期満了一般選挙
平成4年10月18日	補欠選挙
平成5年4月25日	任期満了一般選挙
平成5年8月1日	上郷町合併による増員選挙
平成8年10月20日	補欠選挙
平成9年4月20日	任期満了一般選挙
平成12年10月15日	補欠選挙
平成13年4月22日	任期満了一般選挙
平成16年10月24日	補欠選挙
平成17年4月24日	任期満了一般選挙
平成17年10月30日	補欠選挙
平成21年4月19日	任期満了一般選挙
平成25年4月21日	任期満了一般選挙
平成29年4月16日	任期満了一般選挙

2 歴代市議会議員

(1) 歴代議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	代田源六郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
		昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
		昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
2代	辻 虎松	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
3代	近松 宗一	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
4代	伊原 悦雄	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
		昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
5代	林 昌平	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
		昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
		昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
6代	松嶋 健次	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
7代	平澤 與一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
8代	塩澤 昭	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
9代	竹村 仁實	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
10代	實原 裕	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
11代	今村 八束	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
		平成7. 5. 12	平成9. 4. 27
12代	小林 利一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
		平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
13代	西尾 喜好	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
14代	岩崎 和男	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
15代	熊谷 富夫	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
16代	上澤 義一	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
17代	中島武津雄	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
18代	上澤 義一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
19代	林 幸次	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
20代	木下 克志	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
21代	清水 勇	平成29. 5. 9	令和元. 5. 14
22代	湯澤 啓次	令和元. 5. 14	

(2) 歴代副議長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	伊藤 清	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	片山 均	昭和32. 5. 10	昭和36. 4. 27
		昭和36. 5. 15	昭和39. 8. 1
3代	熊谷 一郎	昭和39. 9. 15	昭和40. 4. 27
		昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
4代	小林 新吾	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
5代	市村 保人	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
6代	今村 輝男	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
		昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
7代	新井 安男	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
8代	林 昌平	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
9代	松江 良夫	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
10代	片桐 勲	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
11代	松江 良夫	昭和56. 5. 7	昭和58. 4. 22
12代	平澤 與一	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
		昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
13代	細田 直彦	昭和62. 5. 12	昭和63. 11. 10
14代	関島 一郎	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
15代	竹村 仁實	平成元. 5. 10	平成3. 1. 31
16代	松江 良夫	平成3. 1. 31	平成3. 5. 9
17代	内山 照美	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
18代	澤柳辨治郎	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	松島 年一	平成7. 5. 12	平成8. 10. 31
20代	片桐 司郎	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
		平成9. 5. 13	平成11. 5. 13
21代	中田 佳甫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	牧内 信臣	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
23代	渡 淳	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	林 幸次	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
25代	矢澤 芳文	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	清水 可晴	平成21. 5. 12	平成23. 5. 13
27代	村松まり子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	木下 克志	平成25. 5. 13	平成27. 5. 12
29代	木下 容子	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
30代	永井 一英	平成29. 5. 9	令和元. 5. 14
31代	原 和世	令和元. 5. 14	

(3) 歴代総務常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	総務部委員会	木下 章雄	近松 宗一 前島 秀夫	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	大平 節蔵	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	関島彦四郎	北原 正司	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	近松 宗一	前島 秀夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	辻 虎松	松島 健次	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	鳴海 衛	宮嶋 繁	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	総務文教委員会	市村 保人	橋部 肇	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	茂木立好則	前島 成光	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	斉藤 為良	細田 直彦	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	内田 篤	川手 守	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	〃	原 廣男	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐七右衛門	前島 成光	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	細田 直彦	塩澤 文朗	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	竹村 仁實	熊谷 康登	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	今村 八束	今村 淳	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	久保田 元	吉川 昌子	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	松島 年一	今村 淳	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	小林 利一	牧内 信臣	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	吉村徳一郎	渡 淳	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	岩崎 和男	〃	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	熊谷 富夫	小池 清	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	下平 政幸	中島武津雄	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	上澤 義一	村松まり子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	原 勉	森本美保子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	林 幸次	原 和世	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 容子	森本美保子	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	総務委員会	清水 勇	原 和世	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	吉川 秋利	古川 仁	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	湊 猛	木下 容子	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
34代	〃	山崎 昌伸	吉川 秋利	令和元. 5. 15	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

(4) 歴代社会文教常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	社会部委員会	児島 栄次	久保田安美 宮内 昇	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	実原 徳重	知久陽之祐	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	田口 秀男	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	辻 虎松	漆原 恒実	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	〃	〃	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	〃	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	漆原 恒実	梶田 太一	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	佐々木清信	松江 良夫	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	斉藤 宗義	熊谷政一郎	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	林 昌平	伊東 秀彦	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	社会民生委員会	西尾 仁一	松下 茂	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松江 良夫	片桐七右衛門	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	社会委員会	片桐 勲	佐々木文雄	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	松江 良夫	中島 勝美	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	尾沢 貞夫	片桐 芳朗	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	松下 茂	平田 友畝	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	森本 藤登	今村 八束	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	西尾 保雄	吉川 義治	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
19代	〃	〃	小林 利一	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
20代	〃	片桐 司郎	関島 秀夫	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
21代	〃	櫻井 俊夫	西尾 喜好	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
22代	〃	下平 一郎	中田 佳甫	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
23代	〃	中田 佳甫	熊谷 富夫	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
24代	〃	牛山 重一	井坪 隆	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
25代	〃	菅沼 立男	中島武津雄	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
26代	〃	柄澤 紀春	荒木 興利	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
27代	〃	原 勉	森本美保子	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
28代	〃	中島武津雄	木下 容子	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
29代	〃	森本美保子	村松まり子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
30代	〃	木下 克志	後藤 荘一	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
31代	社会文教委員会	井坪 隆	湯澤 啓次	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
32代	〃	新井信一郎	清水 可晴	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
33代	〃	福沢 清	山崎 昌伸	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
34代	〃	村松まり子	湊 猛	令和元. 5. 15	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

(5) 歴代産業建設常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	産業部委員会	田中 伝	宮下 綱六 宮川藤次郎	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	小林 新吾	堀 保麿	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	〃	丸山 治郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	葛岡 利治	〃	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	丸山 治郎	松重 新一	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	〃	宮脇 省	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	産業経済部委員会	新井 安男	原 茂	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	今村 輝男	新井 安男	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	林 昌平	原田 正志	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	北原 正司	小松 芳男	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	産業経済委員会	原 茂	佐々木 勝	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	北原 正司	橋部 肇	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	平沢 與一	原 廣男	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	原 康次	林 利実	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	平澤 與一	竹村 仁實	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	片桐 勲	〃	昭和58. 5. 8	昭和59. 10. 14
17代	〃	竹村 仁實	中田 修	昭和59. 10. 26	昭和60. 4. 27
18代	〃	〃	塩澤 昭	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
19代	〃	酒井 米	小林 三郎	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	内山 照美	下平 一郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	下平 一郎	小林 利一	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	〃	伊原 与一	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	佐藤 好英	吉川 義治	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	西尾 喜好	岩崎 和男	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	下平 政幸	熊谷 富夫	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
26代	〃	渡 淳	上澤 義一	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
27代	〃	矢澤 芳文	佐々木重光	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
28代	〃	清水 可晴	原 和世	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
29代	〃	原 和世	山崎 紀男	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
30代	〃	木下 克志	木下 容子	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
32代	産業建設委員会	吉川 秋利	後藤 莊一	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
33代	〃	永井 一英	湊 猛	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
34代	〃	湯澤 啓次	熊谷 泰人	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
35代	〃	熊谷 泰人	後藤 莊一	令和元. 5. 15	

※1 議会改革によりH25. 4. 28から4常任委員会複数所属から3常任委員会単独所属に移行

※2 ※1の議員における常任委員会単独所属については、R1. 5. 14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

(6) 歴代予算決算常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	予算決算委員会	原 和世	村松まり子	令和元. 5. 15	

※R1. 5. 14から予算決算委員会を常任委員会として設置。従前の総務・社会文教・産業建設各常任委員会での予算・決算、行政評価に関する専門的審査については、それぞれの常任委員会協議会の中で予算決算委員会分科会と位置づけ実施

(7) 歴代建設環境常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	建設部委員会	辻 虎松	竹内 兵治 伊原 悦雄	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	近松 宗一	林 省三	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	〃	山田 亮一	伊原 悦雄	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	佐々木清信	木下 章雄	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 22
5代	〃	木下 章雄	新井 安男	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	佐々木清信	林 昌平	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	今牧 照男	〃	昭和41. 5. 14	昭和42. 5. 11
8代	〃	伊原 悦雄	代田 保雄	昭和42. 5. 12	昭和44. 4. 27
9代	〃	今牧 照男	茂木立好則	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 6
10代	〃	新井 安男	大蔵 浜雄	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	建設委員会	茂木立好則	〃	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	斉藤 宗義	今牧 泰三	昭和50. 5. 8	昭和52. 4. 27
13代	〃	橋部 肇	今村 馨	昭和52. 5. 6	昭和54. 5. 5
14代	〃	森本 藤登	木下 登	昭和54. 5. 6	昭和56. 4. 27
15代	〃	今村 馨	熊谷 康登	昭和56. 5. 8	昭和58. 5. 7
16代	〃	細田 直彦	木下 登	昭和58. 5. 8	昭和60. 4. 27
17代	〃	関島 一郎	酒井 米	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 11
18代	〃	〃	實原 裕	昭和62. 5. 12	昭和63. 12. 1
19代	〃	實原 裕	塩澤 昭	昭和63. 12. 2	平成元. 4. 27
20代	〃	平田 友畝	澤柳辨治郎	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	松島 年一	〃	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
22代	〃	吉川 義治	佐藤 好英	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	塩澤 俊彦	伊藤 芳之	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
24代	〃	牧内 信臣	木下 昭一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
25代	〃	實原 公男	久保田平八郎	平成11. 5. 13	平成12. 10. 21
26代	〃	菅沼 立男	〃	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
27代	建設環境委員会	井坪 隆	原 勉	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
28代	〃	木下 昭一	原 和世	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
29代	〃	佐々木重光	湯澤 宗保	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
30代	〃	柄澤 紀春	後藤 修三	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
31代	〃	伊壺 敏子	吉川 秋利	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
32代	〃	原 和世	永井 一英	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27

※議会改革による常任委員会の再編により、H25. 4. 27をもって建設環境委員会は所管に応じ他の3常任委員会へ移管

(8) 歴代議会運営委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
1代	議会運営委員会	木下 章雄	近松 宗一	昭和31. 10. 8	昭和32. 4. 27
2代	〃	島岡 利雄	伊藤 誠一	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 18
3代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	〃	熊谷 一郎	伊藤 誠一	昭和36. 5. 15	昭和38. 5. 23
5代	〃	佐々木清信	熊谷 一郎	昭和38. 5. 23	昭和40. 4. 27
6代	〃	近松 宗一	鳴海 衛	昭和40. 5. 6	昭和41. 5. 13
7代	〃	斉藤 宗義	代田 保雄	昭和41. 5. 13	昭和42. 5. 11
8代	〃	丸山 治郎	原田 正志	昭和42. 5. 11	昭和44. 4. 27
9代	〃	新井 安男	原 茂	昭和44. 5. 7	昭和46. 5. 7
10代	〃	松江 良夫	西尾 仁一	昭和46. 5. 7	昭和48. 4. 27
11代	〃	伊東 秀彦	太田 猶市	昭和48. 5. 8	昭和50. 5. 7
12代	〃	松嶋 健次	尾沢 貞夫	昭和50. 5. 7	昭和52. 4. 27
13代	〃	尾沢 貞夫	竹村 仁實	昭和52. 5. 6	昭和54. 4. 13
14代	〃	片桐七右衛門	塩沢 文朗	昭和54. 4. 13	昭和56. 4. 27
15代	〃	木下 登	内山 照美	昭和56. 5. 8	昭和57. 3. 1
16代	〃	片桐七右衛門	〃	昭和57. 3. 1	昭和58. 4. 22
17代	〃	中島 勝美	酒井 米	昭和58. 4. 22	昭和60. 4. 27
18代	〃	内山 照美	平田 友畝	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
19代	〃	平田 友畝	松島 年一	昭和62. 5. 12	平成元. 4. 27
20代	〃	松島 年一	久保田 元	平成元. 5. 10	平成3. 5. 9
21代	〃	吉川 義治	今村 淳	平成3. 5. 9	平成5. 4. 27
22代	〃	中田 佳甫	牧内 信臣	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
23代	〃	伊原 与一	片桐 司郎	平成7. 5. 13	平成8. 4. 22
24代	〃	澤柳辨治郎	〃	平成8. 6. 4	平成8. 10. 31
25代	〃	〃	桜井 俊夫	平成8. 10. 31	平成9. 4. 27
26代	〃	久保田平八郎	牛山 重一	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
27代	〃	木下 昭一	菅沼 立男	平成11. 5. 13	平成12. 10. 30
28代	〃	〃	柄澤 紀春	平成12. 10. 31	平成13. 4. 27
29代	〃	矢澤 芳文	清水 可晴	平成13. 5. 15	平成15. 5. 14
30代	〃	上澤 義一	林 幸次	平成15. 5. 15	平成17. 4. 27
31代	〃	原 和世	下平 勝熙	平成17. 5. 13	平成19. 5. 11
32代	〃	下平 勝熙	木下 克志	平成19. 5. 12	平成21. 4. 27
33代	〃	井坪 隆	清水 勇	平成21. 5. 13	平成23. 5. 13
33代	〃	林 幸次	新井信一郎	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
34代	〃	清水 可晴	村松まり子	平成25. 5. 14	平成27. 5. 12
35代	〃	清水 勇	後藤 莊一	平成27. 5. 12	平成29. 4. 27
36代	〃	村松まり子	吉川 秋利	平成29. 5. 10	令和元. 5. 15
37代	〃	福沢 清	永井 一英	令和元. 5. 15	

(9) 歴代監査委員（議会選出）

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	田中 悟	昭和31. 10. 1	昭和32. 4. 27
2代	佐々木清信	昭和32. 5. 10	昭和34. 5. 17
3代	熊谷 一郎	昭和34. 5. 18	昭和36. 4. 27
4代	関島彦四郎	昭和36. 5. 15	昭和41. 6. 15
5代	市村 保人	昭和41. 6. 17	昭和42. 6. 5
6代	宮内 昇	昭和42. 6. 6	昭和44. 4. 27
7代	市村 保人	昭和44. 5. 7	昭和46. 6. 3
8代	宮内 昇	昭和46. 6. 4	昭和50. 6. 6
9代	近松 宗一	昭和50. 6. 10	昭和52. 4. 27
10代	伊原 悦雄	昭和52. 6. 6	昭和54. 4. 13
11代	松下 茂	昭和54. 4. 16	昭和56. 5. 7
12代	西尾 保雄	昭和56. 5. 8	昭和60. 4. 27
13代	實原 裕	昭和60. 5. 10	昭和62. 5. 12
14代	松嶋 健次	昭和62. 5. 13	平成元. 4. 27
15代	小林 三郎	平成元. 5. 10	平成2. 6. 30
16代	實原 裕	平成2. 7. 16	平成3. 5. 9
17代	竹村 仁實	平成3. 5. 10	平成5. 4. 27
18代	〃	平成5. 5. 13	平成7. 5. 12
19代	實原 裕	平成7. 5. 13	平成9. 4. 27
20代	竹村 仁實	平成9. 5. 13	平成11. 5. 12
21代	片桐 司郎	平成11. 5. 13	平成13. 4. 27
22代	小林 利一	平成13. 5. 15	平成15. 3. 3
23代	西尾 喜好	平成15. 5. 14	平成17. 4. 27
24代	岩崎 和男	平成17. 5. 13	平成19. 5. 10
25代	熊谷 富夫	平成19. 5. 11	平成21. 4. 27
26代	上澤 義一	平成21. 5. 13	平成23. 5. 12
27代	中島武津雄	平成23. 5. 13	平成25. 4. 27
28代	〃	平成25. 5. 14	平成29. 4. 27
29代	木下 克志	平成29. 5. 10	令和元. 5. 13
30代	清水 勇	令和元. 5. 15	

(10) 歴代事務局長

代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	林 政人	昭和31. 9. 30	昭和39. 3. 31
2代	久保 武敏	昭和39. 4. 1	昭和44. 3. 31
3代	福井 実	昭和44. 4. 1	昭和44. 10. 19
4代	村沢 光男	昭和44. 10. 20	昭和48. 6. 30
5代	酒井 篤	昭和48. 7. 1	昭和50. 3. 31
6代	宮沢 邦男	昭和50. 4. 1	昭和54. 3. 31
7代	木下 良美	昭和54. 4. 1	昭和56. 3. 31
8代	松澤 平吉	昭和56. 4. 1	昭和59. 3. 31
9代	坂下 幸彦	昭和59. 4. 1	平成元. 3. 31
10代	小木曾義信	平成元. 4. 1	平成3. 3. 31
11代	浦野 勉	平成3. 4. 1	平成6. 3. 31
12代	横田 常	平成6. 4. 1	平成9. 3. 31
13代	山岸一二三	平成9. 4. 1	平成11. 3. 31
14代	吉川 元勝	平成11. 4. 1	平成13. 3. 31
15代	中本 卓良	平成13. 4. 1	平成15. 3. 31
16代	福田 富廣	平成15. 4. 1	平成16. 3. 31
17代	大沢 英二	平成16. 4. 1	平成17. 3. 31
18代	尾澤 敏秀	平成17. 4. 1	平成19. 3. 31
19代	中井 洋一	平成19. 4. 1	平成20. 3. 31
20代	平澤 和人	平成20. 4. 1	平成20. 12. 31
21代	篠田 雅弘	平成21. 1. 1	平成25. 3. 31
22代	福澤 栄二	平成25. 4. 1	平成27. 3. 31
23代	土屋 寿憲	平成27. 4. 1	平成29. 3. 31
24代	吉川 昌彦	平成29. 4. 1	

(11) 歴代市議会議員

ア 昭和31年9月30日執行（1市7か村合併）

(7) 三穂地区 12人

林 武男	林 武司	坂巻 政美	林 保	古川 舎人	佐藤 芳房
宮沢 敬信	前沢 蔵六	川井 邦	西村 文雄	川上 竹市	久保田安美

(イ) 飯田地区 29人

代田源六郎	斉藤 隆久	今村 正美	田口 秀夫	牧島 保一	大竹 四郎
井村豊太郎	井原 淳治	辻 虎松	山田 亮一	深津 一郎	酒井 府
古瀬 仁	菊池 恭平	児島 栄次	宮下 綱六	吉川 一	中田 栄
木下 一人	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	木下 勝義	加藤 英男
田中 悟	早川 清雄	荒井重右衛門	長坂 晃	漆原 恒実	

(ウ) 座光地地区 16人

知久陽之祐	北原 弘	片桐 卓治	上沼 善夫	黒川 利一	今村 良美
湯沢 博司	篠田力三郎	棚田 正雄	佐々木貞雄	竹内 武男	原田 栄治
佐々木信雄	原田 幸雄	三村 利	竹内 兵治		

(エ) 竜丘地区 16人

伊原 悦雄	下平 広志	原 登	吉川 正己	中平恒三郎	今村 恵
長沼 保治	林 正司	松村 新八	前島 秀夫	北沢小太郎	沖田 武一
下田 巖	原 光人	下平 勲資	塚平 睦雄		

(オ) 松尾地区 22人

林 宗三郎	江塚 角三	斉藤 忠治	木下 徳雄	塩沢 秋生	平栗 英祐
山中 竜策	今村 輝男	小木曾嘉一	青山 孝一	常盤 喜八	福島 淡
牛草 利春	藤田 勇夫	塩沢伝之助	中山 政雄	奥田 利吉	松村 信一
熊谷 好次	金井 啓	伊与部金一	木下 章雄		

(カ) 下久堅地区 16人

平沢 清人	池田 嘉篤	吉沢 昇	羽生 一善	宮川藤次郎	森岡 清志
宮内 昇	三石 義臣	宮脇 利雄	桐生 忠治	橋爪徳次郎	三石誠一郎
羽場 義雄	木下 平治	坂井 伸一	平沢 亮治		

(キ) 伊賀良地区 22人

坂下 美富	矢沢 秀一	相原 貢	橋部 文男	今牧 泰三	伊藤 仁
佐々木省吾	元島 均治	今牧 照男	平田 武司	水野 恒夫	神部 稲男
矢沢 清志	松沢 武雄	伊藤 清	肥後 明一	平田 薫	田部 勇
鈴木 太郎	新井 一正	宮下 喜一	原 稲太郎		

(ク) 山本地区 16人

尾沢 元一	熊谷 英雄	竹村 汎愛	平岩四郎吉	竹村 央	遠山 皓
熊谷 広男	山内 精一	田中 伝	金田 伝	唐沢 茂一	玉置 敏夫
久保田久吉	金沢 重雄	熊崎 六蔵	小池 政之		

合計 149人

イ 昭和32年4月28日執行（合併による設置選挙 任期は昭和32年4月28日から昭和36年4月27日
日まで 8選挙区 定数36)

片山 均	伊藤 誠一	久保田一男	松沢 広	田中 伝	島岡 利雄
林 保	林 省三	北沢小太郎	伊原 悦雄	木下 章雄	伊与部金一
葛岡 利治	丸山 治郎	小林 新吾	宮脇 省	佐々木利夫	知久陽之祐
代田源六郎	実原 徳重	佐々木清信	近松 宗一	今村 正美	児島 栄次
井原 淳治	堀 保麿	福島 勝男	古瀬 仁	漆原 恒美	串原 義直
山田 亮一	深津 一郎	辻 虎松	熊谷 一郎	田口 秀男	岡島 新治

ウ 昭和35年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和35年10月26日から昭和36年4月27日
まで 定数3)

新井 安男 鳴海 衛 前島 成光

エ 昭和36年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和36年4月28日から昭和40年4月27日
まで9選挙区 定数28)

片山 均	浜島 惣一	伊原 春男	鳴海 衛	宮内 昇	葛岡 利治
岡村 賢作	知久陽之祐	丸山 治郎	関島彦四郎	佐々木清信	代田源六郎
代田 哲	今牧 照男	新井 安男	近松 宗一	木下 章雄	串原 義直
福島 勝男	前島 成光	小林 新吾	沢柳 敏夫	漆原 恒美	辻 虎松
竹村 央	伊藤 誠一	松重 新一	熊谷 一郎		

オ 昭和39年5月15日執行（龍江村、千代村及び上久堅村の3か村合併による増員選挙 任期は
昭和39年5月15日から昭和40年4月27日まで 定数は龍江2、千代2、上久堅1の合計5)

林 昌平 松尾 純二 大平 節蔵 林 武男 斉藤 宗義

カ 昭和39年8月28日執行（伊賀良地区補欠選挙 任期は昭和39年8月29日から昭和40年4月27日
日まで 定数1)

代田 保雄

キ 昭和39年10月25日執行（飯田地区補欠選挙 任期は昭和39年10月26日から昭和40年4月27日
まで 定数1)

宮嶋 繁

ク 昭和40年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和40年4月28日から昭和44年4月27日
日まで 全市1選挙区 定数36)

林 昌平	前島 秀夫	北原 正司	鳴海 衛	辻 虎松	市村 保人
小林 新吾	代田 保雄	近松 宗一	代田源六郎	矢崎 三郎	沢柳 俊夫
榎田 太一	今村 治郎	丸山 治郎	松江 良夫	伊原 悦雄	原 茂
大蔵 浜雄	宮嶋 茂	漆原 恒美	富田 政雄	葛岡 利治	大平 節蔵
今村 輝男	新井 安男	佐々木清信	宮内 昇	熊谷 一郎	宮脇 省

前島 成光 熊谷 武志 斉藤 宗義 原田 正志 今牧 照男 関島彦四郎

ケ 昭和43年10月20日執行（補欠選挙 任期は昭和43年10月21日から昭和44年4月27日まで 定数2）

茂木立好則 内田 篤

コ 昭和44年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和44年4月28日から昭和48年4月27日まで 定数36）

池上 一雄	茂木立好則	位高 勉	永山 忠男	前島 成光	佐藤力三郎
今牧 照男	斉藤 宗義	小松 芳男	江塚 善二	宮内 昇	大蔵 浜雄
松下 茂	原 茂	原 康次	原田 正志	熊谷政一郎	西尾 仁一
中山 栄次	辻 虎松	榊田 太一	内田 篤	伊東 秀彦	北原 正司
松嶋 健次	今村 輝男	林 昌平	新井 安男	片桐 勲	近松 宗一
宮嶋 繁	熊谷 武志	市村 保人	鳴海 衛	伊原 悦雄	松江 良夫

サ 昭和47年10月22日執行（補欠選挙 任期は昭和47年10月23日から昭和48年4月27日まで 定数2）

森本 藤登 今牧 泰三

シ 昭和48年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和48年4月28日から昭和52年4月27日まで 定数36）

大蔵 浜雄	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	前島 成光	佐藤力三郎
片桐七右衛門	伊藤 祐春	太田 猶市	佐々木 勝	平澤 與一	尾沢 貞夫
松下 茂	森本 藤登	佐々木清信	鳴海 衛	原 茂	松江 良夫
伊東 秀彦	松嶋 健次	今牧 泰三	内田 篤	西尾 仁一	橋部 肇
斉藤 為良	新井 安男	市村 保人	斉藤 宗義	今村 輝男	北原 正司
伊原 悦雄	近松 宗一	江塚 善二	宮内 昇	茂木立好則	林 昌平

ス 昭和51年10月17日執行（補欠選挙 任期は昭和51年10月18日から昭和52年4月27日まで 定数3）

熊谷 康登 西尾 保雄 片桐 勲

セ 昭和52年4月17日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和52年4月28日から昭和56年4月27日まで 定数30に減少）

片桐七右衛門	塩沢 文朗	片桐 芳朗	川手 守	熊谷 康登	斉藤 宗義
竹村 仁實	木下 登	原 広男	原 康次	松下 茂	西尾 保雄
内田 篤	森本 藤登	今村 馨	平澤 與一	片桐 勲	中島 勝美
林 利実	尾沢 貞夫	橋部 肇	細田 直彦	佐々木文雄	佐々木 勝
斉藤 為良	西尾 仁一	茂木立好則	松江 良夫	林 昌平	伊原 悦雄

ソ 昭和55年10月19日執行（補欠選挙 任期は昭和55年10月20日から昭和56年4月27日まで 定数1）

内山 照美

タ 昭和56年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和56年4月28日から昭和60年4月27日まで 定数30）

塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	前島 成光	熊谷 康登
片桐 芳朗	塩沢 文朗	中田 修	竹村 仁實	今村 馨	内山 照美
木下 登	西尾 保雄	原 康次	森本 藤登	中島 勝美	片桐七右衛門
松島 健次	原 広男	細田 直彦	平澤 與一	松下 茂	内田 篤
松江 良夫	林 昌平	片桐 勲	尾沢 貞夫	茂木立好則	伊原 悦雄

チ 昭和59年10月21日執行（補欠選挙 任期は昭和59年10月22日から昭和60年4月27日まで 定数1）

今村 八束

ツ 昭和59年12月1日執行（鼎町合併により鼎町議員が引き続いて市議会議員として在任 任期は昭和59年12月1日から昭和60年4月27日まで 定数52）

田原 慶一	武田 良人	中村 岸美	中島文三郎	木下 為輔	関島 一郎
五十君酒造大	高木 敏美	松沢アサエ	河村 弘久	水野佐知穂	村沢 延
吉川 義治	今村 淳	村沢 博	鷺見 知一	北沢 芳男	新井紀一郎
片桐 司郎	下田 武志	小林 雅夫	関島 秀夫		

テ 昭和60年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は昭和60年4月28日から平成元年4月27日まで 定数31）

田中 秀典	下平 一郎	小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 昌子
熊谷 康登	牧内 信臣	櫻井 俊夫	久保田 元	吉川 義治	武田 良人
今村 八束	原 広男	今村 淳	塩沢 文朗	片桐 司郎	西尾 保雄
塩沢 昭	實原 裕	平田 友畝	酒井 米	関島 一郎	内山 照美
森本 藤登	松下 茂	竹村 仁實	細田 直彦	尾沢 貞夫	平澤 與一
松嶋 健次					

ト 昭和63年10月16日執行（補欠選挙 任期は昭和63年10月17日から平成元年4月27日まで 定数2）

小林 利一 長谷部徳治

ナ 平成元年4月23日執行（任期満了一般選挙 任期は平成元年4月28日から平成5年4月27日まで 定数31）

西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫	吉川 昌子
牛山 重一	牧内 信臣	塩澤 俊彦	長谷部徳治	伊藤 芳之	小林 利一

関島 秀夫	下平 一郎	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎
小林 三郎	松島 年一	澤柳辨治郎	久保田 元	吉川 義治	今村 八束
西尾 保雄	塩澤 昭	實原 裕	平田 友敏	内山 照美	竹村 仁實
松江 良夫					

ニ 平成4年10月18日執行（補欠選挙 任期は平成4年10月19日から平成5年4月27日まで 定数1）

井出 健介

又 平成5年4月25日執行（任期満了一般選挙 任期は平成5年4月28日から平成9年4月27日まで 定数31）

柄澤 紀春	菅沼 立男	吉川 四郎	實原 公男	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	牛山 重一	牧内 信臣	吉川 昌子	塩澤 俊彦
長谷部徳治	西尾 喜好	吉村徳一郎	伊原 与一	佐藤 好英	中田 佳甫
伊藤 芳之	渡 淳	今村 淳	櫻井 俊夫	片桐 司郎	小林 利一
下平 一郎	松島 年一	澤柳辨治郎	吉川 義治	今村 八束	實原 裕
竹村 仁實					

ネ 平成5年8月1日執行（上郷町編入合併に伴う増員選挙 任期は平成5年8月2日から平成9年4月27日まで 定数5）

中田 裕康 井坪 隆 岩崎 和男 岡島 豊 大坪 勇

ノ 平成8年10月20日執行（補欠選挙 任期は平成8年10月21日から平成9年4月27日まで 定数1）

矢澤 芳文

ハ 平成9年4月20日執行（任期満了一般選挙 任期は平成9年4月28日から平成13年4月27日まで 定数31）

佐藤久美子	小池 清	清水 可晴	佐々木重光	原 勉	中島武津雄
上澤 義一	荒木 興利	大坪 勇	牛山 重一	牧内 信臣	矢澤 芳文
井坪 隆	岩崎 和男	林 幸次	渡 淳	熊谷 富夫	久保田平八郎
下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好	柄澤 紀春	菅沼 立男	實原 公男
吉村徳一郎	佐藤 好英	中田 佳甫	小林 利一	今村 八束	片桐 司郎
竹村 仁實					

ヒ 平成12年10月15日執行（補欠選挙 任期は平成12年10月16日から平成13年4月27日まで 定数1）

原 和世

フ 平成13年4月22日執行（任期満了一般選挙 任期は平成13年4月28日から平成17年4月27日

まで 定数31)

木下 容子	下平 勝熙	伊壺 敏子	大谷 恵子	湯澤 宗保	森本美保子
村松まり子	牛山満智子	清水 可晴	小池 清	牛山 重一	牧内 信臣
原 和世	原 勉	林 幸次	渡 淳	久保田平八郎	柄澤 紀春
菅沼 立男	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	荒木 興利	井坪 隆
岩崎 和男	矢澤 芳文	熊谷 富夫	下平 政幸	木下 昭一	西尾 喜好
小林 利一					

へ 平成16年10月24日執行（補欠選挙 任期は平成16年10月25日から平成17年4月27日まで 定数2）

後藤 荘一 木下 克志

ホ 平成17年4月24日執行（任期満了一般選挙 任期は平成17年4月28日から平成21年4月27日まで 定数27）

清水 勇	代田 剛嗣	新井信一郎	内山 要子	吉川 秋利	伊藤 清春
永井 一英	木下 容子	下平 勝熙	後藤 荘一	木下 克志	湯澤 宗保
森本美保子	柄澤 紀春	村松まり子	林 幸次	清水 可晴	伊壺 敏子
原 和世	原 勉	中島武津雄	上澤 義一	佐々木重光	矢澤 芳文
岩崎 和男	熊谷 富夫	牧内 信臣			

マ 平成17年10月30日執行（上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙 任期は平成17年10月31日から平成21年4月27日まで 定数2）

山崎 紀男 後藤 修三

ミ 平成21年4月19日執行（任期満了一般選挙 任期は平成21年4月28日から平成25年4月27日まで 定数23に減少）

湯澤 啓次	湊 猛	清水 勇	吉川 秋利	永井 一英	福沢 清
内田 雄一	牛山満智子	新井信一郎	木下 克志	木下 容子	下平 勝熙
村松まり子	森本美保子	後藤 荘一	伊壺 敏子	中島武津雄	上澤 義一
清水 可晴	林 幸次	井坪 隆	原 和世	原 勉	

ム 平成25年4月21日執行（任期満了一般選挙 任期は平成25年4月28日から平成29年4月27日まで 定数23）

竹村 圭史	木下 徳康	熊谷 泰人	湯澤 啓次	山崎 昌伸	森本 政人
古川 仁	小倉 高広	湊 猛	新井信一郎	清水 勇	吉川 秋利
永井 一英	木下 容子	福沢 清	後藤 荘一	木下 克志	中島武津雄
村松まり子	林 幸次	清水 可晴	井坪 隆	原 和世	

メ 平成29年4月16日執行（任期満了一般選挙 任期は平成29年4月28日から平成33年4月27日
まで 定数23） ^{*}
^{*}（平成33年は2021年、令和3年）

清水優一郎	岡田 倫英	塚平 一成	竹村 圭史	小林 真一	福澤 克憲
古川 仁	木下 徳康	山崎 昌伸	熊谷 泰人	湯澤 啓次	永井 一英
福沢 清	木下 容子	後藤 荘一	湊 猛	新井信一郎	清水 勇
吉川 秋利	木下 克志	村松まり子	井坪 隆	原 和世	

3 1年間の記録

(1) 付議事件及び議決結果一覧表

① 市長提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第1号	教育長の任命について	31.2.26	31.2.26	同意
議案第2号	監査委員の選任について	31.2.26	31.2.26	同意
議案第3号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	31.2.26	31.2.26	同意
議案第4号	飯田市南部財産区管理委員の選任について	31.2.26	31.2.26	同意
議案第5号	飯田市山本区財産区管理委員の選任について	31.2.26	31.2.26	同意
議案第6号	飯田市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第7号	飯田市特別職の職員で非常勤の者の報酬に関する条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第8号	飯田市特別職の職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第9号	資金積立基金条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第10号	飯田市中山間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第11号	飯田市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第12号	飯田市母子生活支援施設条例を廃止する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第13号	飯田市在宅介護支援センター条例を廃止する等の条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第14号	飯田市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第15号	飯田市勤労者福祉センター条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第16号	市営土地改良事業等の経費の賦課徴収に関する条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第17号	飯田市建築物における駐車施設の附置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第18号	飯田市特定用途制限地域建築条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第19号	飯田市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第20号	災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第21号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について	31.2.26	31.3.20	可決
議案第22号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市虎岩交流センター）	31.2.26	31.3.20	可決
議案第23号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市21世紀環境共生型モデル住宅）	31.2.26	31.3.20	可決
議案第24号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市障害者生活ケアセンター）	31.2.26	31.3.20	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第25号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市地域子育て支援拠点施設）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第26号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市デイサービスセンター）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第27号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市休日夜間急患診療所）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第28号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市健康増進施設）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第29号	公の施設の指定管理者の指定の期間の変更について（飯田市保健休養施設）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第30号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市保健休養施設）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第31号	市道路線の認定について	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第32号	市道路線の変更について	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第33号	損害賠償の額を定めることについて	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第34号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市北田遺跡公園）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第35号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市地域人形劇センター）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第36号	平成30年度飯田市一般会計補正予算（第10号）案	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第37号	平成30年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第4号）案	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第38号	平成30年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）案	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第39号	平成30年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第3号）案	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第40号	平成30年度飯田市病院事業会計補正予算（第3号）案	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第41号	平成30年度飯田市水道事業会計補正予算（第2号）案	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第42号	平成30年度飯田市下水道事業会計補正予算（第2号）案	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第43号	平成30年度飯田市各財産区会計補正予算（第2号）案	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第44号	平成31年度飯田市一般会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第45号	平成31年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第46号	平成31年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第47号	平成31年度飯田市介護保険特別会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第48号	平成31年度飯田市地方卸売市場事業特別会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第49号	平成31年度飯田市駐車場事業特別会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第50号	平成31年度飯田市墓地事業特別会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第51号	平成31年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第52号	平成31年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第53号	平成31年度飯田市病院事業会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第54号	平成31年度飯田市水道事業会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第55号	平成31年度飯田市下水道事業会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第56号	平成31年度飯田市各財産区会計予算（案）	31. 2. 26	31. 3. 20	可決
議案第57号	副市長の選任について	31. 3. 7	31. 3. 7	同意
議案第58号	工事請負契約の一部変更について（特別養護老人ホーム飯田荘建設事業建築工事）	31. 3. 7	31. 3. 20	可決
議案第59号	飯田市中央財産区管理委員の選任について	1. 5. 14	1. 5. 14	同意
議案第60号	飯田市長野原財産区管理委員の選任について	1. 5. 14	1. 5. 14	同意
議案第61号	飯田市時又財産区管理委員の選任について	1. 5. 14	1. 5. 14	同意
議案第62号	飯田市上川路財産区管理委員の選任について	1. 5. 14	1. 5. 14	同意
議案第63号	飯田市駄科財産区管理委員の選任について	1. 5. 14	1. 5. 14	同意
議案第64号	飯田市松尾地区財産区管理委員の選任について	1. 5. 14	1. 5. 14	同意
議案第65号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	1. 5. 14	1. 5. 14	可決
議案第66号	飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について	1. 5. 14	1. 5. 14	可決
議案第67号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市上村観光施設）	1. 5. 14	1. 5. 14	可決
議案第68号	令和元年度飯田市一般会計補正予算（第1号）案	1. 5. 14	1. 5. 14	可決
議案第69号	監査委員の選任について	1. 5. 15	1. 5. 15	同意
議案第70号	飯田市千代財産区管理委員の選任について	1. 6. 5	1. 6. 5	同意
議案第71号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	1. 6. 5	1. 6. 27	可決
議案第72号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	1. 6. 5	1. 6. 27	可決
議案第73号	飯田市有線テレビジョン放送施設条例の一部を改正する条例の制定について	1. 6. 5	1. 6. 27	可決
議案第74号	飯田市遠山郷有線テレビジョン放送施設条例の一部を改正する条例の制定について	1. 6. 5	1. 6. 27	可決
議案第75号	飯田市市民協働サロン条例の一部を改正する条例の制定について	1. 6. 5	1. 6. 27	可決
議案第76号	飯田市中山間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	1. 6. 5	1. 6. 27	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第77号	廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第78号	飯田市麻績の里交流センター条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第79号	飯田市ふれあいの郷松ぼっくり条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第80号	飯田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第81号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第82号	飯田市勤労者福祉センター条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第83号	地方卸売市場条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第84号	飯田市水道条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第85号	飯田市農業集落排水処理施設条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第86号	飯田市下水道条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第87号	飯田市コミュニティ防災センター条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第88号	飯田市総合運動場条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第89号	飯田市公民館条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第90号	飯田市文化センター条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第91号	飯田勤労者体育センター条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第92号	飯田文化会館条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第93号	飯田市人形浄瑠璃施設条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第94号	飯田市地域人形劇センター条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第95号	飯田市美術博物館条例の一部を改正する条例の制定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第96号	土地の取得について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第97号	財産の処分について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第98号	市道路線の認定について	1.6.5	1.6.27	可決
議案第99号	令和元年度飯田市一般会計補正予算（第2号）案	1.6.5	1.6.27	可決
議案第100号	令和元年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）案	1.6.5	1.6.27	可決
議案第101号	令和元年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第1号）案	1.6.5	1.6.27	可決
議案第102号	教育委員会の委員の任命について	1.8.27	1.8.27	同意

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第103号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	1. 8. 27	1. 8. 27	同意
議案第104号	飯田市上川路財産区管理委員の選任について	1. 8. 27	1. 8. 27	同意
議案第105号	飯田市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第106号	地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第107号	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第108号	職員の分限に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第109号	飯田市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第110号	飯田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第111号	飯田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第112号	飯田市名勝天龍峡ガイダンス施設条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第113号	飯田都市計画事業丸山・羽場土地区画整理事業施行条例の一部を改正する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第114号	飯田市水道条例の一部を改正する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第115号	飯田市下水道条例の一部を改正する条例の制定について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第116号	工事請負契約の締結について（改築補助事業橋りょう鋼上部工工事）	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第117号	平成30年度飯田市水道事業剰余金の処分について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第118号	平成30年度飯田市下水道事業剰余金の処分について	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第119号	損害賠償の額を定めることについて	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第120号	令和元年度飯田市一般会計補正予算（第4号）案	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第121号	令和元年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第1号）案	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第122号	令和元年度飯田市各財産区会計補正予算（第1号）案	1. 8. 27	1. 9. 20	可決
議案第123号	平成30年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第124号	平成30年度飯田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第125号	平成30年度飯田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第126号	平成30年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第127号	平成30年度飯田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第128号	平成30年度飯田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第129号	平成30年度飯田市墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第130号	平成30年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第131号	平成30年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第132号	平成30年度飯田市病院事業決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第133号	平成30年度飯田市水道事業決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第134号	平成30年度飯田市下水道事業決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第135号	平成30年度飯田市各財産区会計歳入歳出決算認定について	1. 8. 27	1. 9. 20	認定
議案第136号	工事請負契約の締結について（過年発生土木施設補助災害復旧事業道路災害復旧工事）	1. 9. 20	1. 9. 20	可決
議案第137号	飯田市千代財産区管理委員の選任について	1. 11. 25	1. 11. 25	同意
議案第138号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第139号	飯田市中心間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第140号	飯田市景観条例の一部を改正する条例の制定について	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第141号	飯田市営住宅等条例の一部を改正する条例の制定について	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第142号	地方自治法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第143号	災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第144号	損害賠償の額を定めることについて	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第145号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃木沢都市山村交流促進施設）	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第146号	損害賠償の額を定めることについて	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第147号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市大平宿生活原体験施設）	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第148号	市道路線の変更について	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第149号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市立動物園）	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第150号	公の施設の指定管理者の指定について（平成記念飯田子どもの森公園）	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第151号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市旧小笠原家書院・小笠原資料館）	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第152号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市人形浄瑠璃施設）	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第153号	令和元年度飯田市一般会計補正予算（第5号）案	1. 11. 25	1. 11. 25	可決

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議案第154号	令和元年度飯田市一般会計補正予算（第6号）案	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第155号	令和元年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第2号）案	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第156号	令和元年度飯田市病院事業会計補正予算（第1号）案	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第157号	令和元年度飯田市下水道事業会計補正予算（第1号）案	1. 11. 25	1. 12. 18	可決
議案第158号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	1. 12. 6	1. 12. 18	可決
議案第159号	令和元年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案	1. 12. 6	1. 12. 18	可決
議案第160号	令和元年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第1号）案	1. 12. 6	1. 12. 18	可決
議案第161号	令和元年度飯田市病院事業会計補正予算（第2号）案	1. 12. 6	1. 12. 18	可決

② 議会提出議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
議会議案 第1号	飯田市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定 について	1. 5. 14	1. 5. 14	可決
議会議案 第2号	複式学級の編制基準の改善、教職員定数増を求める 意見書の提出について	1. 9. 20	1. 9. 20	可決
議会議案 第3号	義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見 書の提出について	1. 9. 20	1. 9. 20	可決
議会議案 第4号	国の責任による35人学級の推進と教育予算の増額を 求める意見書の提出について	1. 9. 20	1. 9. 20	可決
議会議案 第5号	へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近 隣県並みの水準に戻すことを求める意見書の提出に ついて	1. 9. 20	1. 9. 20	可決
議会議案 第6号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出につ いて	1. 9. 20	1. 9. 20	可決
議会議案 第7号	新たな過疎対策法の制定を求める意見書の提出につ いて	1. 12. 18	1. 12. 18	可決

③ 報告議案

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
報告第1号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めるこ とについて）	31. 2. 26		
報告第2号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市税条 例等の一部を改正する条例の制定について）	1. 5. 14	1. 5. 14	承認
報告第3号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市都市 計画税条例の一部を改正する条例の制定について）	1. 5. 14	1. 5. 14	承認
報告第4号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度 飯田市一般会計補正予算（第11号））	1. 5. 14	1. 5. 14	承認
報告第5号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度 飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第5号））	1. 5. 14	1. 5. 14	承認
報告第6号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度 飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2 号））	1. 5. 14	1. 5. 14	承認
報告第7号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度 飯田市介護保険特別会計補正予算（第4号））	1. 5. 14	1. 5. 14	承認
報告第8号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度 飯田市駐車場事業特別会計補正予算（第1号））	1. 5. 14	1. 5. 14	承認
報告第9号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度 飯田市墓地事業特別会計補正予算（第1号））	1. 5. 14	1. 5. 14	承認
報告第10号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めるこ とについて）	1. 5. 14	1. 5. 14	
報告第11号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市特別 職の職員で非常勤の者の報酬に関する条例の一部を 改正する条例の制定について）	1. 6. 5	1. 6. 5	承認
報告第12号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めるこ とについて）	1. 6. 5		
報告第13号	権利の放棄について（市営住宅の家賃に係る債権）	1. 6. 5		
報告第14号	権利の放棄について（病院料金に係る債権）	1. 6. 5		

事件番号	事 件 名	上程日	議決日	議決結果
報告第15号	権利の放棄について（水道料金に係る債権）	1. 6. 5		
報告第16号	平成30年度飯田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	1. 6. 5		
報告第17号	平成30年度飯田市病院事業会計予算繰越計算書の報告について	1. 6. 5		
報告第18号	平成30年度飯田市水道事業会計予算繰越計算書の報告について	1. 6. 5		
報告第19号	平成30年度飯田市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	1. 6. 5		
報告第20号	飯田市土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について	1. 6. 5		
報告第21号	飯田清掃株式会社の経営状況を説明する書類の提出について	1. 6. 5		
報告第22号	株式会社飯田健康温泉の経営状況を説明する書類の提出について	1. 6. 5		
報告第23号	一般財団法人飯田勤労者共済会の経営状況を説明する書類の提出について	1. 6. 5		
報告第24号	一般財団法人飯田市南信濃振興公社の経営状況を説明する書類の提出について	1. 6. 5		
報告第25号	専決処分の承認を求めることについて（令和元年度飯田市一般会計補正予算（第3号））	1. 8. 27	1. 8. 27	承認
報告第26号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	1. 8. 27		
報告第27号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	1. 8. 27		
報告第28号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	1. 8. 27		
報告第29号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	1. 11. 25		
報告第30号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	1. 11. 25		

(2) 議会において執行した選挙・選任等

(平成31年1月から令和元年12月まで)

会期	年月日	選挙・選任の内容
第1回定例会	H31. 2. 26	・教育長の任命
		・監査委員の選任
		・人権擁護委員の候補者の推薦
		・飯田市南部財産区管理委員の選任
		・飯田市山本区財産区管理委員の選任
	H31. 3. 7	・副市長の選任
第2回定例会	R1. 5. 14	・飯田市中心部財産区管理委員の選任
		・飯田市長野原財産区管理委員の選任
		・飯田市時又財産区管理委員の選任
		・飯田市上川路財産区管理委員の選任
		・飯田市駄科財産区管理委員の選任
		・飯田市松尾地区財産区管理委員の選任
	R1. 5. 15	・監査委員の選任
	R1. 6. 5	・飯田市千代財産区管理委員の選任
第3回定例会	R1. 8. 27	・教育委員会の委員の任命
		・人権擁護委員の候補者の推薦
		・飯田市上川路財産区管理委員の選任
第4回定例会	R1. 11. 25	・飯田市千代財産区管理委員の選任

(3) 委員会活動開催状況

(平成31年1月から令和元年12月まで)

	常任委員会							特別委員会	議会運営委員会	議会改革推進会議	広報広聴委員会	全員協議会
	総務委員会	社会文教委員会	産業建設委員会	予算決算委員会				リニア推進特別委員会				
				全体会	総務分科会	社会文教分科会	産業建設分科会					
委員会	6	7	6	7	4	4	4	5	17	12	15	-
協議会	6	5	6	-	-	-	-	5	-	-	-	8
計	12	12	12	7	4	4	4	10	17	12	15	8

②請願議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
総務	1請願 第1号	市に対し、大規模地震等の自然災害への備えとして、避難場所などの公共施設において、「災害にも強いLPガス設備」を採用するよう配意願いたい	1.6.18	1.6.27	採択
産建	1請願 第2号	国に対し、最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書を提出願いたい	1.6.18	1.6.27	不採択
社文	1請願 第3号	国に対し、複式学級の編制基準の改善、教職員定数増を求める意見書を提出願いたい	1.9.5	1.9.20	採択
総務	1請願 第4号	国に対し、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書を提出願いたい	1.9.5	1.9.20	採択
社文	1請願 第5号	国に対し、国の責任による35人以下学級推進と教育予算の増額を求める意見書を提出願いたい	1.9.5	1.9.20	採択
総務	1請願 第6号	国に対し、地方財政の充実・強化を求める意見書を提出願いたい	1.9.5	1.9.20	採択

※請願第1号については、執行機関に対し請願内容を送付し、その処理の経過及び結果を報告するよう請求しました。

※請願第2号から第6号については、いずれも国に対し意見書の提出を行いました。

③陳情議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
委員会付託なし	31陳情 第1号	国に対し、全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」の主旨に基づいて、地方自治の根幹を脅かす日米地位協定の見直しを求める意見書を提出願いたい	31.1.21		審議なし
委員会付託なし	31陳情 第2号	奥山等のスギ・ヒノキ放置人工林を、森林環境譲与税（仮称）で順次計画的に皆伐を進め、天然林に戻すことを求める陳情書	31.2.12		審議なし
委員会付託なし	31陳情 第3号	国に対し、辺野古新基地建設の即時中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について、国民的議論により、民主主義及び憲法に基づき公正に解決するべきとする意見書を提出願いたい	31.3.27		審議なし
委員会付託なし	1陳情 第4号	国に対し、辺野古新基地建設の即時中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について、国民的議論により、民主主義及び憲法に基づき公正に解決するべきとする意見書を提出願いたい	1.5.20		審議なし
委員会付託なし	1陳情 第5号	国及び沖縄県に対し、国連各委員会の「沖縄県民を先住民族と認めて保護するべき」との勧告の撤回を求める意見書を提出願いたい	1.5.29		審議なし
委員会付託なし	1陳情 第6号	国に対し、米軍普天間飛行場の辺野古移設を促進する意見書を提出願いたい	1.5.29		審議なし
社文	1陳情 第7号	長野県知事に「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を求める意見書を提出願いたい	1.9.5	1.9.20	採択

※陳情第1号から第6号については、飯田市議会会議規則及び先例の定めのとおり、陳情の代表者が飯田市民以外であるもの及び郵送された陳情であるため、審議を省略し、議席へ陳情書の写しを配布するのみの取り扱いとしました。

※陳情第7号については、長野県知事に対し意見書の提出を行いました。

(5) 定例会の質問事項

① 平成31年飯田市議会第1回定例会一般質問通告表

平成31年3月6,7日

No.	氏名	項目・要旨
1	清水 優一郎 (会派のぞみ)	<p>1 かぶちゃん農園等関連会社の倒産について</p> <p>(1) 倒産による飯田市への影響とその対応状況について</p> <p>① 市田柿の販売やブランドへの影響と借りていた農地(地権者)への対応状況は</p> <p>② 社屋、倉庫、施設等の対応は</p> <p>(2) 飯田市のこれまでの支援と今後の対応は</p> <p>(3) 今後の企業誘致における飯田市の考え方は</p> <p>2 災害発生時の広報について</p> <p>(1) 広報(防災行政無線、いいだ安全・安心メール)の使用目的は</p> <p>(2) 発災場所の特定情報(個人宅や公の施設以外の呼称)を伝えない理由^は</p> <p>(3) 特定情報を伝えないことによる影響やリスクをどう把握しているか</p> <p>(4) 情報を迅速・確実に伝えるため住民や民間事業者等に理解と協力を仰ぐことが必要と考えるがどうか</p> <p>3 IIDAブランディング・プロモーションの推進について</p> <p>(1) IIDAブランディング・プロモーションの推進における飯田市役所内の取り組みについて</p> <p>① 各部署の取り組みは</p> <p>② 飯田市の水のペットボトル化に向けた調査研究状況は</p> <p>③ 職員一人一人の取り組みは</p> <p>④ 市章バッジ(職員バッジ)の意義と着用状況は</p> <p>(2) 飯田市の市旗及び国旗の取り扱いについて</p> <p>① 市旗及び国旗を掲揚する意義は</p> <p>② 運用・管理状況は</p> <p>(3) 自動車ご当地ナンバープレートの創設について</p> <p>① ご当地ナンバープレート創設の可能性は</p> <p>② リニア・三遠南信時代を見据え、IIDAブランディング・プロモーションの観点からも飯田市が「南信州ナンバー(仮称)」の創設に向けて、リーダーシップを発揮する必要があると思うがその考えは</p> <p>4 (仮称)天龍峡大橋の開通を見据えた取り組みについて</p> <p>(1) (仮称)天龍峡大橋の開通による地域への経済波及効果は</p> <p>(2) 天龍峡の周辺環境整備について</p> <p>① 遊歩道、ガイダンス施設等の整備状況と吊り橋(つつじ橋)の修繕計画は</p> <p>② あわせて姑射橋(こやきょう)の修繕はできないか</p> <p>③ 駐車場の有効な活用方法は</p> <p>(3) 地域経済の活性化に向けた取り組みについて</p> <p>① 地域住民や民間事業者等の取り組み状況は</p> <p>② 地域連携DMOの(株)南信州観光公社との連携は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	清水 優一郎	<ul style="list-style-type: none"> ③ 開業支援や空き店舗利活用支援など活性化のための支援方針は ④ 大橋開通の機運を高め、経済効果を最大化するため地域住民や民間事業者等との意見交換会を開催したらどうか
2	岡田 倫英 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> 1 郷土の偉人・先人顕彰について <ul style="list-style-type: none"> (1) 市としてどのような取り組みをしてきたか (2) 菱田春草らの顕彰は十分か <ul style="list-style-type: none"> ① 顕彰活動に取り組む市民団体が会員の高齢化、減少に悩んでいると聞か、支援策を考えているか ② 偉人・先人を網羅して発信する機会は十分だったか ③ 地元の小中学生に向けた取り組みを拡充できないか ④ 地育力向上、シビックプライドにも生かせないか 2 リニア中央新幹線に関連する施策の進め方について <ul style="list-style-type: none"> (1) 2019年度版リニア推進ロードマップについて <ul style="list-style-type: none"> ① 修正のポイントは何か ② 移転をお願いする皆さんへの対応をどう進めるか <ul style="list-style-type: none"> ア 代替地確保の見通しは イ 家づくりの相談に応じる考えは ウ 集合住宅に関する検討状況は エ アパート住民への対応状況は ③ 関連する財政出動について、「リニア開業時までには整備するもの」と「開業後、段階的に整備するもの」に整理する必要があるのではないか (2) リニア将来ビジョンの実現に向けた地域の魅力発信について <ul style="list-style-type: none"> ① 当地域の魅力を全国に発信できるテーマとして「オアシス」を展開してはどうか
3	竹村 圭史 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> 1 農業が抱える課題について <ul style="list-style-type: none"> (1) 有害鳥獣対策について <ul style="list-style-type: none"> ① 有害鳥獣に発信機を取り付け行動範囲を調査しているが、これまでに得た収集データを今後どのように生かすか ② 「野生動物への無自覚な餌付けストップキャンペーン」(2/17~2/23)について、これまでの評価と今後の展開をどのように考えているか (2) 遊休荒廃地対策について <ul style="list-style-type: none"> ① 遊休荒廃地化や原野化する農地が減少しない原因をどのように考えているか ② 条件の悪い農地を今後どのように考えていくか (3) 有害鳥獣対策と遊休荒廃地対策は、地区共通の課題と捉えることが必要と考えるがどうか (4) 新規就農者・親元就農者への支援について <ul style="list-style-type: none"> ① 新規就農者への支援について

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	竹 村 圭 史	<p>ア 農地は見つかるが「就農に適した住居の情報がない」と言われることについて、どのように考えるか</p> <p>イ 空き家バンク情報に農機具置き場等の情報を掲載する考えはないか。また、民間事業者の不動産情報にも同様の情報掲載について協力依頼することは考えないか</p> <p>② 親元就農者への支援について</p> <p>ア 親元就農者に対する支援の基本的な考えは</p> <p>イ 親元就農者に対する支援を手厚くしてほしいという声があるが、どのように受け止めているか</p>
4	原 和 世 (会 派 み ら い)	<p>1 市政経営について</p> <p>(1) 平成31年 年頭所感から</p> <p>① 「地域人教育」と「人材サイクル」に関し、高校教育改革のモデルとする考えを当地で展開することは</p> <p>② 平成31年の経済認識において、「産業振興と人材育成の拠点」に寄せる期待とは</p> <p>③ 市政経営の基本方針に「改めるにしくはなし」とあるが、改める時点・対象をどのように判断していくか</p> <p>2 指定管理制度におけるガバナンスとマネジメントについて</p> <p>(1) 指定管理制度におけるガイドライン・運用指針に関して</p> <p>① ガイドラインに示される「公の施設」の概念と制度導入の目的は</p> <p>② 指定管理施設に対する設置者責任のおよぶ範囲は</p> <p>③ 指定管理者制度導入・運用における適切な管理について、所管課・指定管理者選定委員会・行財政改革推進委員会の果たす役割は</p> <p>(2) 指定管理施設における事業の性格的管理区分けに関して</p> <p>① 指定管理94施設を管理・運営の観点から施設の性格によって分類する考えは</p> <p>② 指定管理施設の収支における損益をどのように評価していくか、その基準をどう置くか</p> <p>(3) ガバナンスとマネジメントについて</p> <p>① 指定管理施設が施設の設置目的に沿って管理運営されるためのガバナンスとマネジメントをどう考えるか</p> <p>② 南信州広域連合が設置者であるエス・バードに関し、指定管理者である(公財)南信州・飯田産業センターに対する飯田市のガバナンスとマネジメントは</p> <p>3 土地の管理政策について</p> <p>(1) 土地所有者の土地の適切な管理および所有者責務を明確にすることの制度構築についての考えは</p> <p>4 更生保護女性会について</p> <p>(1) 活動に対する評価と今後の支援のあり方は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
5	福 澤 克 憲 (市 民 パ ワ ー)	1 「飯田版」地域循環共生圏の取り組みについて (1) これまでの環境施策をどう検証しているか (2) 「飯田版」地域循環共生圏とは (3) 今後の方向性は 2 中山間地域振興施策について (1) 飯田市中山間地域振興計画の検証について ① 定住人口、交流人口の状況は ② 地域振興住宅の整備状況と効果は ③ 重点事業の進捗状況と今後の課題は (2) 次期計画の方向性について ① 次期計画においてポイントと考える事業は ② 農地法3条許可に係る下限面積の検討は 3 幼児教育無償化への対応と、飯田市の施策の方向性について (1) 現在示されている国の制度内容は (2) 飯田市への影響は (3) 今後の予定、方向性は
6	福 沢 清 (会 派 み ら い)	1 公契約条例の制定について (1) 「飯田市の公契約に関する基本方針」(以下、「基本方針」という)は公契約条例制定の1つの段階と考えてよいか (2) 基本方針は適正に運用しているか (3) 基本方針の4項の取り組み事項「労働者の賃金が適正にあることなどの労働環境が整備されていること」は、どのように把握しているか (4) 公契約条例の制定は 2 今年4月からの外国人材の受け入れ拡大について (1) 飯田市の在住外国人の現状はどうか (2) 国の受け入れ拡大にかかる飯田市への影響はどうか (3) 飯田市も加盟している外国人集住都市会議が提出した「新たな外国人材の受け入れにかかわる多文化共生推進について」(意見書)に対する国の回答はどのようになっているか (4) 飯田市として東京弁護士会が提唱している「人種差別撤廃条例」の制定はどうか
7	小 林 真 一 (公 明 党)	1 安全・安心な子育て環境について (1) 1月31日に発生した強盗事件時の対応状況は ① 事件発生からの経緯は ② 当日の保育園等の対応状況は ③ 当日の小中学校の対応状況は (2) 今回の事件対応を踏まえての課題は (3) より効果的な情報発信についてどう考えるか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
8	木 下 徳 康 (会 派 の ぞ み)	<p>1 災害時応援協定について</p> <p>(1) 三遠南信災害時相互応援協定について</p> <p>① 三遠南信災害時相互応援協定における相互応援をどのように想定しているか</p> <p>② 協定第8条では防災相互協力体制を図るために平常時の活動を示しているが、どのように行っているか</p> <p>③ 協定先との情報交換にテレビ会議などのICTを検討する考えは</p> <p>④ 協定を、より有効に機能させるための今後の課題は何か</p> <p>(2) 民間と締結している災害時の協定について</p> <p>① 災害時支援協定において市と協定先とが有効に機能していくための活動は</p> <p>② 災害時物資等支援協定の支援先との実働訓練を行う考えは</p> <p>2 内水排除について</p> <p>(1) 昨年10月1日台風24号への対応について</p> <p>① 浸水の状況はどうだったのか</p> <p>② 浸水した原因をどう捉えているか</p> <p>(2) ひ門の運用を含めて、今後どのように浸水を防いでいくか</p> <p>① 外水に関して、ダムの調節機能をどう認識しているか</p> <p>② 外水に関して、鷲流峡の掘削工事の効果は</p> <p>③ 内水に関して、ひ門閉鎖の判断基準を設けてはどうか</p>
9	古 川 仁 (日 本 共 産 党)	<p>1 飯田市の教育について</p> <p>(1) 小・中学校での危機事案発生時の対応について</p> <p>① 災害時に備え、どのような避難訓練をしているか</p> <p>② 先日の危機事案発生時での避難等の対応状況は</p> <p>③ 実際に避難をして、課題は何か</p> <p>(2) 危機事案発生時以降、児童・生徒の心のケアは</p> <p>① 先日の危機事案発生時以降、不調を訴える児童はいたか</p> <p>② 今後、心のケアをどう進めるか</p>
10	塚 平 一 成 (会 派 の ぞ み)	<p>1 心の健康増進について</p> <p>(1) 市民の心の健康状態について</p> <p>① 実情をどう把握しているか</p> <p>② 調査統計の結果をどう分析するか</p> <p>ア 世代別の分析は</p> <p>イ 社会生活満足度及び幸福度との関係は</p> <p>(2) 移住定住者のメンタルヘルス対策について</p> <p>① 実情をどう把握しているか</p> <p>② 課題を汲み取る環境づくりをどう考えるか</p> <p>(3) 心の健康管理について</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	塚 平 一 成	<ul style="list-style-type: none"> ① 予防の観点からどう取り組むか ② 飯田の善さをどう生かしていくか <p>2 障がい者の文化芸術活動推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 活動の意義と取り組みをどう評価するか (2) 普及と推進にどう取り組むか <ul style="list-style-type: none"> ① 芸術作品の展示支援は ② 表現活動の場への支援は (3) 今後の可能性について <ul style="list-style-type: none"> ① どのように見通すか ② 主要文化イベントとのタイアップ推進の考えは
11	山 崎 昌 伸 (会 派 の ぞ み)	<p>1 子どもの心と身体をどう守るか</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 幼児・児童虐待を一刻も早く察知するには <ul style="list-style-type: none"> ① 飯田市における、幼児・児童虐待の実態は ② どのような対策をとっているか (2) 小中学校における「いじめ」の認知が遅れて、深刻な事態に至らないようにするには <ul style="list-style-type: none"> ① 飯田市における、小中学校の「いじめ」の実態は ② 学校、教育委員会の「いじめ」に対する隠蔽体質が批判されることがあるが、どのように認識しているか ③ 昨年11月長野県議会における「いじめを積極的に認知し、有効な対応をした学校、教員こそ評価されるべき」との原山教育長の答弁をどう受け止めているか
12	湯 澤 啓 次 (会 派 の ぞ み)	<p>1 地域人教育によって加速する人材サイクルの構築について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市がめざす地域人教育とは何か (2) 国、県の動向は (3) 地域人教育の今後の展開は (4) サポート体制の現状、今後の対応は (5) パートナーシップ協定締結から6年経過した地域人教育の検証は <p>2 スーパー・メガリージョン形成に向けた飯田市の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 近隣町村を含めたリニア新幹線中間駅近郊エリアに期待されているものをどう捉えているか (2) 魅力ある中間駅近郊エリアをどう形成するか <ul style="list-style-type: none"> ① 近郊エリアでの飯田市の位置づけ、役割は (3) 「多様な人材が行き交う知的対流拠点」の形成に向けてエス・バードの更なる充実、機能強化は (4) 「新たな居住の選択肢を提供できる地域」をどう実現するか <p>3 リニア中央新幹線関連事業の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) リニア駅周辺整備の進め方について <ul style="list-style-type: none"> ① 将来の財政状況を踏まえた事業費の見通しは ② 時代の変化に合わせ段階的、柔軟に整備する考えは

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	湯 澤 啓 次	<p>③ 市民と共に造りあげる整備の考えは</p> <p>(2) 諸課題に対する取り組みについて</p> <p>① 強化されたリニア推進体制の1年を振り返り、今後どう進めるか</p> <p>② 代替地登録状況と受付開始後の対応は</p> <p>③ 広域的新施設候補地と重なる代替地エリアへの対応は</p> <p>④ 防音防災フード、SIC接続交差点の信号機設置要望に対する今後の市の対応は</p> <p>(3) 発生土活用先候補地の新たな検討は</p>
13	村 松 まり子 (公 明 党)	<p>1 安心安全なまちづくりについて</p> <p>(1) 防災対策の現状と今後の課題は何か</p> <p>(2) 各地区の自主防災組織や防災会議の実施状況と今後の課題は何か</p> <p>(3) 住民が、迅速かつ的確に、避難できる行動を時系列で整理する行動計画表「タイムライン」及び自らの避難行動を事前に定める「マイ・タイムライン」の今後の展開とスケジュールは</p> <p>(4) 聴覚・言語機能障がい者からの緊急通報の現状と課題は</p> <p>(5) 災害時の観光客の危機管理対策は</p> <p>2 生活困窮者自立支援制度について</p> <p>(1) 飯田市生活就労支援センター「まいさぼ飯田」の相談件数等の状況は</p> <p>(2) 自立相談支援事業と就労準備支援事業の取組状況と今後の課題は</p> <p>(3) 子どもの学習・生活支援事業の取り組みは</p>
14	後 藤 荘 一 (日 本 共 産 党)	<p>1 市の財政について</p> <p>(1) 平成30年度の決算見込みはどうか</p> <p>① 歳入の見込みは</p> <p>② 歳出は予算に照らしてどうか</p> <p>(2) 平成31年度の予算について</p> <p>① 予算要求時の歳入歳出の額はどうか</p> <p>② 編成過程を示す工夫は</p> <p>2 市長の消費税に対する認識について</p> <p>(1) 今年10月に消費税増税が予定されている。軽減税率や景気対策などで市民から「複雑で、わかりにくい」との声を聞くが、市長はどう思うか</p> <p>(2) 消費税が増税された時の飯田下伊那地域の景況をどう想定しているか</p> <p>(3) 地方消費税交付金に対する考えは</p>
15	木 下 容 子 (市 民 パ ワ ー)	<p>1 幼児・児童虐待防止対策について</p> <p>(1) 幼児・児童虐待の現状について</p> <p>① 虐待の実態はどうか</p> <p>② 虐待の要因をどのように分析しているか</p> <p>(2) 虐待の早期発見・早期対応のための手段は</p> <p>(3) 我が子を虐待してしまった親への支援策は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	木 下 容 子	2 ダブルケア対策について <ul style="list-style-type: none"> (1) 課題認識はどうか <ul style="list-style-type: none"> ① ダブルケア家庭の実態把握は ② ダブルケア当事者の負担感や課題をどう把握しているか (2) ダブルケアをしながら働いている人たちに対する支援をどう考えているか (3) ダブルケア家庭の孤立化を防ぐための取り組みは (4) 団塊ジュニアが子育てと親の介護とを担わねばならない時代が迫っている。その課題認識は
16	吉 川 秋 利 (会 派 の ぞ み)	1 財政の見通しについて <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成29年度飯田市の決算概要について <ul style="list-style-type: none"> ① 経常収支比率の分析は ② 実質公債費比率と将来負担比率の考え方は (2) 平成31年度予算について <ul style="list-style-type: none"> ① いいだ未来デザイン2028戦略計画の財政見通しは ② いいだ未来デザイン2028戦略計画における平成31年度予算の位置づけは 2 産業の振興について <ul style="list-style-type: none"> (1) 航空宇宙産業の展望について <ul style="list-style-type: none"> ① 「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」の現在の状況と今後の展開はどのように考えるか ② 「信州大学航空機システム共同研究講座」の現状と展望は ③ 「産業振興と人材育成の拠点」が完成し、運用が開始されたが、航空宇宙産業がTier1(ティアワン)を目指す戦略をどう考えるか ④ ナレッジリンクへの取り組みの中でどう位置づけられるか (2) 経済自立度について <ul style="list-style-type: none"> ① 自立度改善への展望は ② 具体的な対策は 3 教育の全体像について <ul style="list-style-type: none"> (1) 学力の向上に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 小中連携・一貫教育の状況は ② ICT教育の進捗状況は (2) コミュニティスクールに関して <ul style="list-style-type: none"> ① 目的は何か ② 考え方は周知されているか (3) コミュニティスクールの考え方と地域人教育の考え方における連携は
17	新 井 信 一 郎 (会 派 の ぞ み)	1 危機管理について <ul style="list-style-type: none"> (1) 鼎名古屋地籍で発生した、コンビニエンスストアでの強盗事件について <ul style="list-style-type: none"> ① 発生時の初動体制について <ul style="list-style-type: none"> ア 県警と市の連携体制は ② 情報伝達について

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	新 井 信 一 郎	<p>ア 特に情報弱者である子どもや高齢者に対する対応は</p> <p>イ 学校・保育園等への対応は</p> <p>ウ 付近住民や市民への対応は</p> <p>③ 今後の対応は</p> <p>(2) 危機管理室の組織について</p> <p>① 現在の組織構成は</p> <p>② 危機事案に広く対応できる職員を増やす考えはないか</p> <p>2 リニア新時代に向けた、土地利用および、リニア長野県駅のあり方について</p> <p>(1) 飯田市土地利用計画審議会・飯田市都市計画審議会について</p> <p>① 委員に対して事前に十分な情報提供がされているか</p> <p>② 当日十分な議論がされる時間が確保されているか</p> <p>③ パブリックコメントに寄せられた意見の取り扱いは</p> <p>④ 採決において、賛成されなかった委員の意思をどの様に汲むか</p> <p>(2) 移住・定住に向けた取り組みについて</p> <p>① 現在の計画は</p> <p>② 他都市圏域の状況分析は</p> <p>③ リニア長野県駅周辺への考えは</p> <p>(3) 長野県が平成26年に策定した「長野県リニア活用基本構想」について</p> <p>① 基本構想の飯田市での扱いは</p> <p>② 「【方針】長野県の南の玄関としてふさわしい駅空間の整備」について</p> <p>ア 「長野県駅の周辺に必要な機能・施設の検討課題」は</p> <p>イ 「広域交通」は</p> <p>ウ 「地域振興の拠点」は</p> <p>エ 長野県が目指す駅の姿に飯田市の考えは合致しているか</p> <p>オ 経費負担をどう考えるか</p> <p>(4) リニア事業の盛り上がりについて</p> <p>① 歴史的事業にもかかわらず、市民への説明が乏しく、一部での議論ではないかとの声を聞く</p> <p>ア リニア新時代市民会議(仮称)など地域市民が意見を出し合える環境づくりは考えられないか</p> <p>イ 伊那谷共通のイベントを開催する考えは</p> <p>3 羽場大瀬木線の開通を見越して</p> <p>(1) 開通を来年度に控え、その進捗について</p> <p>① 工事の進捗状況は</p> <p>② 鼎切石地籍での交通渋滞の認識は</p> <p>(2) 接する市の管轄事業の進捗状況は</p> <p>(3) 羽場大瀬木線の先線ともいえる「南バイパス」への考えについて</p> <p>① 現在の状況は</p> <p>② 来年度、羽場大瀬木線が開通予定であり、現在切石地籍での渋滞状況を例にとれば、その渋滞の箇所が北方地籍にスライドしてくると予測できるが、その対策は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	新井 信一郎	(4) 羽場大瀬木線の開通式典について ① 市民有志から共に開通を祝いたいとの申し出があるが、その対応は

② 令和元年飯田市議会第2回定例会一般質問通告表

令和元年6月17,18日

No.	氏名	項目・要旨
1	福澤克憲 (市民パワー)	1 交流拠点としての天龍峡エリアの考え方について (1) (仮称)天龍峡大橋、周辺施設の整備状況は ① 飯田国道事務所との連携は ② ガイダンス施設や遊歩道等の整備状況は (2) 飯田市にとって「名勝天龍峡」とは (3) 飯田市としての取り組みは ① 天龍峡を中心とした周遊型の誘客事業の促進とは ア 周遊型とはどのようなものか イ 誘客事業の手法は (4) 地域に望む取り組みは ① 地域への説明、呼びかけは十分か ② 地域や団体等との連携は (5) 今後の取り組みと方向性は 2 幼児教育・保育の無償化の対応について (1) 国の制度の状況は (2) 飯田市の対応は ① 延長保育等への対応は ② 保育士の補充は (3) 飯田市全体の「保育のあり方」についての検討状況は
2	井坪隆 (会派みらい)	1 三遠南信道の開通を見据えた、遠山郷の観光の在り方について (1) 指定管理としている施設の経営の見通しをどう考えているか (2) 遠山郷への誘客のビジョンをどのように考えているか 2 本市における、いわゆる「高齢者」の定義について (1) 高齢者を「65歳以上」としていることを見直したらどうか
3	岡田倫英 (会派のぞみ)	1 小中学校の屋外活動における熱中症対策について (1) 小学校の運動会を半日に短縮開催する傾向があるなか、飯田市での状況は (2) 日常の屋外活動について、WBGT(暑さ指数)を把握した健康管理の状況はどうか (3) 熱中症、脳貧血に対する手引き書を整備してはどうか 2 リニア・三遠南信時代の二次交通を見据えて (1) 自動運転社会への対応をどう考えていくか ① 伊那谷自治体会議での検討状況は ② 飯田市で考える意義はあるか ③ 研究体制を立ち上げてはどうか (2) JR飯田線の活用について ① JR飯田線活性化期成同盟会でどのような検討がされているか ② イベント列車による地域への誘客の取り組みは ③ リニア開業時の将来像をどのように描くか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	岡 田 倫 英	3 認知症対策について (1) 認知症の人が行方不明、事故になった場合の費用負担はどうなっている (2) 賠償に備えて自治体が保険で支援する取り組みを検討しているか (3) 認知症診断への支援を考えられないか
4	福 沢 清 (会 派 み ら い)	1 リニア時代に中心市街地がこの地域の中心拠点にふさわしい場所となるために (1) 大宮通り桜並木をまちの活性化にどう生かすか ① 第3期飯田市中心市街地活性化基本計画と大宮通り桜並木との関連は ② 昨年行われた大宮通り桜並木の交通などにかかわる実証実験の結果は ③ 観光などのために中央公園プール跡地を駐車場にする考えは (2) まちなか観光に関して歴史的街並みを生かすことは ① 地元には仲ノ町から旧測候所までを「春草通り」とする考えがあるが市の考えは ② 歴史的街並みをまちなか観光コースとしていく考えは (3) 平成27年に飯田市も後援して行った「まちの活性化・都市デザイン競技」はまちづくりにどう生かされているか 2 介護をしている方への支援について (1) 介護をしている方への支援はどのようなものがあるか (2) それは有効な支援となっているか (3) 今後の支援はどのように考えるか
5	小 林 真 一 (公 明 党)	1 飯田市における各施設のAEDについて (1) AED設置箇所、設置数は (2) AED設置の経緯は (3) AEDの各施設の管理状況は (4) 自主防災組織へのAED導入補助の考えは (5) AEDの使用状況は ① 各施設での使用状況を把握しているか ② AEDの女性への使用状況は 2 障がい者補助制度の申請方法について (1) 障がい者補助制度申請方法の現状は (2) 障がい者からの申請方法における要望はあるか (3) 障がい者の負担軽減の考えは
6	湊 猛 (会 派 の ぞ み)	1 飯田市の観光振興について (1) 南信州観光公社による地域連携DMO登録後、飯田市との連携は ① 飯田観光協会解散後、協会が担っていた役割をどう引き継いだか ② 飯田市と南信州観光公社との連携はどうか (2) 中心市街地の魅力づくりとして、美術博物館や人形劇フェスタをどう考えているか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	湊 猛	(3) 名勝天龍峡の周辺整備及び、(仮称)天龍峡大橋の開通を見据えた活用は (4) 遠山郷における観光戦略の推進は 2 林道・市道整備の進捗状況について (1) 林道千遠線の現状は (2) 市道南信濃142号線の復旧状況は
7	熊谷 泰人 (会派のぞみ)	1 「飯田市中学校の運動部活動等のあり方」について (1) 平成26年2月に長野県教育委員会の方針が出されてからの飯田市の現状と取り組みは ① 市内の中学校運動部活動の現状と課題は ア 加入状況は イ 社会体育を含めた活動の状況は ウ 見直しの背景にある課題とは ② これまでの活動基準は ③ スポーツ活動運営委員会の設置状況は (2) 飯田市が目指す部活動の姿とは (3) 新たな活動基準について ① 市内全中学校で統一されるか ② 冬季の活動は ③ 市が目指す部活動の姿を実現できるか (4) 運動部活動の延長で行われている社会体育活動の廃止により、今後、受け皿となる「地域において実施されている社会体育活動」の現状は ① 市内におけるクラブ数や地域バランスはどうか ② 今後、受け皿となり得るか ③ 保護者の負担が増加するのでは ④ 受け皿となる新たなスポーツクラブなどの設置や合同部活動の検討など、教育委員会としてサポートが必要では (5) 新たな活動方針への移行期間である2020年8月末までのスケジュールは 2 中心市街地活性化について (1) 第3期中心市街地活性化基本計画の策定状況は (2) 「まちの活性化・都市デザイン競技」の提案は飯田駅周辺整備等に活かされているか (3) 旧ピアゴ飯田駅前店の状況は
8	木下 容子 (市民パワー)	1 持続可能な社会づくりのための取り組みについて (1) マイクロプラスチック対策について ① 天竜川流域に位置する市として、下流域にきれいな水を渡していくことは重要と考えるがどうか ② 長野県から「信州プラスチックスマート運動」が提案されたが、これに沿って取り組む考えは ③ 市民や小売店などへの啓発や環境学習がこれまで以上に重要だと考えるがどうか ④ 庁内での取り組みは (2) 「いいだし『食べきり15・15運動』」について ① 市民の間にどの程度浸透しているか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	木 下 容 子 (市 民 パ ワ ー)	<ul style="list-style-type: none"> ② 市民への啓発活動は ③ 飲食店への働きかけは <p>(3) 長野県と、持続可能な社会を目指す国際組織「イクレイ日本」とで発表した「長野宣言」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「宣言」の内容はどのようなものか ② 「宣言」をどう捉えたか ③ 「イクレイ」に加盟している飯田市として、「いいだ未来デザイン2028」の中で、今後、持続可能な社会づくりにどのように取り組むか
9	永 井 一 英 (公 明 党)	<p>1 骨髄バンクへのドナー登録について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市あるいは飯田保健所管内の血液のがんの患者数、造血幹細胞移植数、ドナー登録数は (2) 骨髄バンクでは、ドナーの登録者の確保が大きな課題となっている。市の役割は、ドナー登録者を増やすための普及啓発だが、現在の取り組みは。また、今後の取り組みは (3) 長野県は、今年度から、市町村が助成制度を設けていることを条件に、ドナーとドナーが勤務する事業所に対する補助制度を開始した。市が新たに助成制度を設けてはどうか <p>2 第2期「飯田市版総合戦略」策定に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市版総合戦略と総合計画「いいだ未来デザイン2028」は関連が深いと思うが、どのように考えているか (2) 第2期「飯田市版総合戦略」策定に向け、どのような思い・考え方で、どのように取り組むか <p>3 今後の市政運営・経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 2014年から開始された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間中に著しい進展、あるいは顕著になってきたことで、飯田市政の運営・経営に影響を与えている、あるいは与えそうなことは何か。また、それへの対応は
10	木 下 徳 康 (会 派 の ぞ み)	<p>1 地域コミュニティを維持していく方策に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 世帯について <ul style="list-style-type: none"> ① 世帯の現状は <ul style="list-style-type: none"> ア 飯田市における人口・世帯数の推移は イ 世帯構成の推移は ② ひとり住まい・核家族化の現況と傾向は (2) 多世帯同居・近居住まいについて <ul style="list-style-type: none"> ① 家族が多世帯同居、あるいは近居することの価値は <ul style="list-style-type: none"> ア 地域コミュニティにとっては イ 子育てにとっては ウ 介護など福祉にとっては ② 多世帯同居・近居住まいを推進することについて <ul style="list-style-type: none"> ア 地域振興住宅の現状は イ 同居・近居新築等への助成は ウ 固定資産などの税の軽減、農振除外や農地転用許可制度の規制緩和などは エ 今後、多世帯同居・近居住まいを推進する市の考えは (3) 地域コミュニティにおける、家族・家庭のあり方について、教育からどう考えるか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	木 下 徳 康	<p>2 洪水対策について</p> <p>(1) 雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置の効果について</p> <p>① 洪水対策上、降雨時の河川への雨水流入にタイムラグを設けることが有効と考えるがどうか</p> <p>② 造成など開発時の雨水対策の現状はどうか</p> <p>ア 大規模開発時はどうか</p> <p>イ 一般住宅はどうか</p> <p>ウ 雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置の効果をどう考えるか</p> <p>(2) 雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置の推進について</p> <p>① 現在の推進状況は</p> <p>② 今後の推進策は</p> <p>③ 洪水が懸念される地域の上流地域をモデル地区として、補助のあり方、住宅建設時の申し合わせ等の検討は</p>
11	塚 平 一 成 (会派のぞみ)	<p>1 安心安全の地域づくりについて</p> <p>(1) 保育園の野外活動の安全確保について</p> <p>① 安全管理指針は</p> <p>② ヒヤリハットの事例はどうか把握しているか</p> <p>③ リスクマネジメントは</p> <p>(2) 児童・生徒の通学時の安全確保について</p> <p>① 様々な事件等を受けて、どう捉えるか</p> <p>② 地域の安全見守り活動について</p> <p>ア 各地区の実情はどうか</p> <p>イ 無理なく長続きする体制づくりをどう考えるか</p> <p>2 市役所の市民対応について</p> <p>(1) 職員の接遇について</p> <p>① 市民の声をどう受け止めるか</p> <p>② 状況をどう分析するか</p> <p>(2) 接遇力の向上対策について</p> <p>① 接遇研修の実態と成果は</p> <p>② より効果ある取り組みは</p> <p>(3) 「行政は最大のサービス産業」と考えるが、どう認識するか</p>
12	後 藤 荘 一 (日本共産党)	<p>1 生活保護受給者の自家用車使用について</p> <p>(1) 飯田市の公共交通の状況を考慮して、所有が可能なら認める考えは</p> <p>2 防災について</p> <p>(1) 土砂災害防災訓練が行われたが、参加状況や効果は。また課題は</p> <p>(2) 実際の災害時の現状は</p> <p>(3) 避難訓練には限界があると思うがどうか</p> <p>(4) 行政として住居地の土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)を解消する考えは</p> <p>(5) レッドゾーン指定された住居地への支援は</p> <p>3 降雪及び降霜や降雹による農業被害について</p> <p>(1) 今年4月の降雪による農業被害の状況は、また、4月下旬からの降霜、降雹による農業被害の状況は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	後 藤 莊 一	<p>(2) 過去の被害の時に燃焼材の補填を行なったことがあるが、被害農家に対する今回の市としての支援策は</p> <p>(3) 対象の農家に補助金交付制度や納税猶予、減免等支援策を知らせる考えは</p>
13	新井 信一郎 (会派のぞみ)	<p>1 税金について</p> <p>(1) 全国法人会総連合の「平成31年度税制改正に関する提言」について</p> <p>① 内容は</p> <p>② 市の対応は</p> <p>(2) 租税教育について</p> <p>① 現在の取り組みの状況は</p> <p>② 学校独自のカリキュラムにさらにプラスをし、外部の専門家の指導を拡大できないか</p> <p>③ こころ豊かな教育プラス、「稼ぐことの大切さ」の授業は考えられないか</p> <p>2 リニア新時代に向けた、リニア長野県駅及び、駅周辺の土地利用のあり方について</p> <p>(1) 飯田市拠点集約連携型都市構造推進戦略(立地適正化計画)について</p> <p>① 進捗状況は</p> <p>(2) 移住・定住に向けた取り組みについて</p> <p>① リニア長野県駅周辺への考えは</p> <p>(3) リニア駅周辺への企業誘致の考えは</p> <p>(4) リニア関連事業の市民説明について</p> <p>① 歴史的事業にもかかわらず、市民への説明が乏しく、一部での議論ではないかとの声を聞く</p> <p>ア 市政懇談会等に参加されない市民への説明は</p> <p>イ 法人への説明は</p> <p>(5) 長野県と綿密な計画のすり合わせについて</p> <p>① 統一地方選後、新県議会議員との連携はとれているか</p> <p>② 県からリニア駅及び、駅周辺の機能を盛り込んだイメージパースを示していただくことはできないか</p> <p>(6) 土地利用計画に対し、専門家からも苦言があることに対し、今後の計画の見直しは考えられないか</p> <p>3 交通事故や暮らしの中の危険と感ずることへの対応について</p> <p>(1) 通学路の安全対策は十分か</p> <p>① まちづくり・地区、個人から寄せられる案件への対応は</p> <p>② 横断歩道や安全設備の設置は</p> <p>(2) インフラ整備について</p> <p>① 交通事故多発エリアと認識しつつも、交通量などが規定数値に満たないが故、信号機設置の整備が叶わない状況への対応は</p> <p>② 地域から改良要望が出し続けられている歩道の設置は</p> <p>③ 過去必要として整備した防火水槽等、時代の流れとともに役目を終えたものの撤去等への考えは</p> <p>④ 防災ハザードマップにもある「土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)」等、エリア内の今後の対応策は</p> <p>⑤ 市内を流れる河川内の堆積土等が住民生活を脅かしているが、それらの計画的除去の考えは</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	新 井 信 一 郎	<p>(3) 高齢者の交通事故について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事故の現状は ② 運転免許証自主返納について <ul style="list-style-type: none"> ア 現状は イ 自主返納促進への取組と課題は ③ 高齢者ドライバーに対して <ul style="list-style-type: none"> ア 専門機関で開催される運転講習への積極的参加への補助は考えられないか イ 緊急自動ブレーキやアクセル踏み間違い抑制機能など搭載車種への乗り換え促進補助は考えられないか <p>(4) 「松本走り」や歩行者のマナー違反を含め、飯田市独自の交通事故撲滅運動は考えられないか</p> <p>4 ランドスケープデザインから見る農業について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 農ある風景を活かしたまちづくりへの取組について <ul style="list-style-type: none"> ① 農業の持つ役割を発揮するための支援は ② 担い手不足への対応は ③ 人材育成のための取り組みは (2) 伝統野菜について <ul style="list-style-type: none"> ① 現状は ② 支援状況は ③ 今後の対応は
14	古 川 仁 (日本共産党)	<p>1 子どもと高齢者の交通安全対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市における交通事故について <ul style="list-style-type: none"> ① 子どもに関する実態は ② 高齢者に関する実態は (2) 「飯田市通学路安全対策アクションプログラム」に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 飯田市における通学路安全対策の取り組みは ② 飯田市通学路安全検討委員会の構成は ③ アクションプログラムの平成30年度の活動は ④ アクションプログラムにおける取り組みの内、地域との協働による安全確保の活動実態は ⑤ グリーンベルト、ゾーン30とは ⑥ ゾーン30の周知徹底は ⑦ ゾーン30の設置箇所を増やす考えは (3) 高齢者の交通事故防止に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 歩行中の事故防止対策は ② 運転中の事故防止対策は ③ 運転免許証自主返納の実態は ④ 飯田市として高齢者ドライバーに対するサポート体制は <p>2 「平成30年度市民の意識に関する基礎世論調査」に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎世論調査のあり方について <ul style="list-style-type: none"> ① 基礎世論調査を実施する目的は ② 事項別調査対象の選択の考えは

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	古 川 仁	<ul style="list-style-type: none"> ③ 定型的な質問に加え市民の声が把握できるよう記述式も加える考えは (2) 問27「子どもを産みやすい環境」に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 調査結果をどうとらえているか ② 特に、30代の数値をどう評価するか 3 子育て支援策について <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療費の窓口完全無料化に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 子育て支援策の一つとして、子ども医療費の窓口完全無料化を考えてはどうか
15	山 崎 昌 伸 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> 1 元号改元について <ul style="list-style-type: none"> (1) 元号改元に伴う市民生活への影響は (2) 和暦と西暦の併記についての議論は進んだか 2 移住定住促進について <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市における移住定住の現状は <ul style="list-style-type: none"> ① 移住定住者数の推移と、飯田市への移住定住に至った主たる理由は何か ② 宝島社発行「田舎暮らしの本」による「住みたい田舎ベストランキング」の結果分析は (2) 「田舎へ還ろう戦略」の成果をあげるために、どのように取り組む考えか <ul style="list-style-type: none"> ① 20地区の「田舎へ還ろう戦略」に対する支援の現状と、今後の課題は ② 20地区の「田舎へ還ろう戦略」を実効性あるものにするために「飯田市20地区応援隊」のあり方を見直すことも必要と考えるがどうか (3) 今後の取り組みは <ul style="list-style-type: none"> ① 移住定住促進係の役割は ② 移住定住を促進するためには、特に力を入れる分野が必要と考えるがどうか
16	吉 川 秋 利 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> 1 学力の向上について <ul style="list-style-type: none"> (1) 小中連携・一貫教育について <ul style="list-style-type: none"> ① 小中連携・一貫教育が平成23年からスタートして9年目を迎えることになる。最初の4年を探索期、次の4年を深耕期、9年後を充実期と位置付ける具体的な意味は ② 小中連携・一貫教育のカリキュラムはどのように作成、実践、修正がされたか ③ 小中「一貫」ではなく小中「連携・一貫」としたのはどのような意味を持つのか (2) ICT教育について <ul style="list-style-type: none"> ① 国として2020年に大きな学習指導要領の変更が予定されていると聞くが、どのような内容で、準備状況はどうなっているか ② ICT教育の進捗状況は 2 コミュニティスクールについて <ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニティスクールを展開していくことについて <ul style="list-style-type: none"> ① 学校運営協議会の機能はどう定義されているか ② 地域や家庭と学校との連携はどうなっているか ③ 地域へどのように浸透を図っていくか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
17	木 下 克 志 (会 派 の ぞ み)	1 地産地消について (1) 飯田市特産の水引の普及について ① 式典時のリボンに水引リボンを使用しては 2 地域コミュニティについて (1) 地域自治が抱えている諸課題にどう向き合うか ① 組合未加入問題をどう考えるか ② 役員のなり手不足をどう考えるか ③ 地域自治組織導入後の検証、フォローをどう行ったか ④ 市政懇談会の目的は達成できているか ⑤ 問題が山積する中で、新時代の地域経営の仕組みづくりをどう考えるか

③ 令和元年飯田市議会第3回定例会一般質問通告表

令和元年9月4,5日

No.	氏名	項目・要旨
1	清水 優一郎 (会派のぞみ)	<p>1 天龍峡再生について</p> <p>(1) 三遠南信自動車道について</p> <p>① 概要と工事の進捗状況は</p> <p>② (仮称)天龍峡大橋の開通日は</p> <p>③ 歩廊の愛称は</p> <p>(2) (仮称)天龍峡大橋開通までの取り組みについて</p> <p>① 整備される施設と工事の進捗状況は</p> <p>② 天龍峡おもてなし戦略とは</p> <p>③ 地域住民や民間事業者等と意見交換をしたか</p> <p>(3) (仮称)天龍峡大橋開通後の取り組みについて</p> <p>① 天龍峡の再生を果たすための市の体制は整っているか</p> <p>② 天龍峡エリア内に地域振興の拠点として「道の駅」を整備してはどうか</p>
2	岡田 倫英 (会派のぞみ)	<p>1 南信運転免許センターの設置について</p> <p>(1) 南信運転免許センター設置は、飯田警察署の改築と併せて検討されるが、候補地選考はどのような手順になるか</p> <p>(2) 6月20日の定例記者会見で牧野市長が「飯田署は現地で改築ができれば」と述べたが、真意は</p> <p>(3) 現在の飯田署周辺環境をどのように認識しているか</p> <p>(4) 南信運転免許センター実現に向けた熱意はどうか</p> <p>2 リニア中央新幹線に関する課題について</p> <p>(1) 長野県環境審議会リニア中央新幹線騒音専門委員会が設置されたが、どのような議論がされているか</p> <p>① 飯田市は委員に加わっているが、どのような姿勢で臨んでいるか</p> <p>② 住環境における不快感は騒音だけではないと思うが、どう認識しているか</p> <p>(2) 代替地整備に関し、移転をお願いする皆さんに適切な情報は行き渡っているか</p>
3	福澤 克憲 (市民パワー)	<p>1 地域自治の現状と方向性について</p> <p>(1) 自治活動組織(組合)の現状について</p> <p>① 自治活動組織への加入状況は</p> <p>② 行政としての取り組み状況は</p> <p>(2) 「田舎へ還ろう戦略」の進捗状況は</p> <p>(3) 「いいだ未来デザイン2028」の基本目標「新時代に向けたこれからの地域経営の仕組をつくる」とは</p> <p>(4) 今後の方向性は</p> <p>2 働くことを軸とする安心社会の実現に向けて</p> <p>(1) 第6次飯田市男女共同参画計画に基づく、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進について</p> <p>① 働きやすい職場環境の整備の進捗状況は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	福 澤 克 憲	<ul style="list-style-type: none"> ② 今後の方向性は (2) 飯田市における非正規労働者の現状と課題は (3) 飯田市役所(事業主)としての取り組みと現状について <ul style="list-style-type: none"> ① 障害者の雇用率は ② 正規職員、臨時・非常勤職員の推移と現状は ③ 今後の方向性は
4	原 和 世 (会 派 み ら い)	<ul style="list-style-type: none"> 1 財産区制度について <ul style="list-style-type: none"> (1) 財産区制度に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 財産区の予算決算認定を議会が行うことの是非は ② 収益分の使途について、不均一の課税は ③ 市と財産区議会との関係は ④ 各地区財産区条例の構成について見直しは (2) 財産区制度と今後の課題に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 遠山地区が合併に際し、財産区の申請をしなかった理由は ② 各財産区収入の内訳は ③ 各財産区の資産としての山を、市民共有の環境資産として守って行く検討は ④ 今後の財産区のあり方を見据える上で、各財産区代表による財産区協議会の設置の考えは 2 移住定住支援について <ul style="list-style-type: none"> (1) 移住定住について他市事例との比較検証に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 当市の移住定住の取り組み状況は ② 移住定住におけるインセンティブとしての支援金制度をどう考えるか ③ 移住定住窓口を市役所からまちなかに置くことは ④ 庁内横断の取り組みは 3 公共施設マネジメントについて <ul style="list-style-type: none"> (1) 公共施設マネジメントの進行管理に関して <ul style="list-style-type: none"> ① 公共施設マネジメントの必要性は ② 第1段階の進行状況と課題は ③ 全体進行管理表の是非は
5	古 川 仁 (日 本 共 産 党)	<ul style="list-style-type: none"> 1 飯田市消防団について <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市消防団の現状と今後について <ul style="list-style-type: none"> ① 消防団の現状について <ul style="list-style-type: none"> ア 活動目的と内容は イ 組織構成と団員数の現状は ウ 団員の定数をどう考えているか ② 団員確保のための取り組みは <ul style="list-style-type: none"> ア 地域ではどのような取り組みをしているか イ 企業との連携は ウ 団員へのサポートは ③ 今後、さらなる団員確保のための施策は 2 飯田市の教育について <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童・生徒の安心・安全の確保について <ul style="list-style-type: none"> ① 児童・生徒の通学路の安全について <ul style="list-style-type: none"> ア 危険箇所への対応状況は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	古 川 仁	<ul style="list-style-type: none"> ② 小中学校におけるトイレ洋式化について <ul style="list-style-type: none"> ア 現在までの対応状況は ③ 一部の小学校における夏休み中のプール開放中止の事案について <ul style="list-style-type: none"> ア 中止に至るまでの経過は イ 状況をどう分析するか ④ 今後、児童・生徒の安心・安全を守るための施策は
6	塚 平 一 成 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> 1 環境力の向上と発信について <ul style="list-style-type: none"> (1) 自然エネルギーの今後の可能性について <ul style="list-style-type: none"> ① どう見通すか ② 飯田の特色を生かしたエネルギー形態は ③ 低炭素都市への取り組みと発信は <ul style="list-style-type: none"> ア リニア駅周辺の低炭素街区化の見通しは イ 新エネルギーを融合させたいざないを考えるか ウ 環境力を標榜できる都市づくりをどう進めるか (2) 農業の担い手確保について <ul style="list-style-type: none"> (1) 就農者へのサポート体制について <ul style="list-style-type: none"> ① 就農者の実情をどう捉えるか ② 地域でいきいきと取り組めるサポートをどう考えるか (2) 農業経営継承について <ul style="list-style-type: none"> ① 後継者不足への対策について <ul style="list-style-type: none"> ア 実情をどう把握するか イ 現状に対する対応は ウ 円滑な継承へ向けた体制をどう考えるか
7	後 藤 莊 一 (日本共産党)	<ul style="list-style-type: none"> 1 市立病院が「病院群輪番制」の当番として行う休日・夜間診療について <ul style="list-style-type: none"> (1) 「病院群輪番制」の当番時における「初診時選定療養費(特別初診料)」請求の考え方は (2) 「病院群輪番制」の当番時に診療を断る場合は 2 国民健康保険税の均等割について <ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの均等割を減免する考えは
8	竹 村 圭 史 (会派のぞみ)	<ul style="list-style-type: none"> 1 小中学校のエアコンについて <ul style="list-style-type: none"> (1) エアコンの設置状況について <ul style="list-style-type: none"> ① 小学校は全19校で設置が完了したか ② 中学校の進捗状況と、今後の見通しはどのようになっているか (2) エアコンを稼働させる判断基準はどのようになっているか (3) 今後の教室の室温管理について <ul style="list-style-type: none"> ① 考え方はどのようになっているか ② 各教室で温度を変更できるようにしているか (4) 冬季の暖房を今後どのように考えるか 2 中学校の部活動について <ul style="list-style-type: none"> (1) 中学校で部活動を行う意義をどのように考えているか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	竹 村 圭 史	(2) 今後の部活動のあり方をどのように考えているか (3) 競技力を高めたい生徒の受け皿としての地域の受入れ体制の検討はどこまで具体的に進んでいるか
9	山 崎 昌 伸 (会派のぞみ)	1 子どもの貧困について (1) 飯田市における子どもの貧困の現状は (2) 「子どもの貧困対策計画」の策定に、どのように対応する考えか (3) 子どもの貧困に対応するための体制は整えられているか 2 環境への取り組みについて (1) 市民の環境への取り組みの状況は (2) 市民の環境意識の変化をどう捉えているか (3) 環境モデル都市指定の基準は (4) 環境モデル都市と環境文化都市の違いは (5) 環境への取り組みで、広く市民レベルで取り組めるものは (6) 環境に対し広く市民レベルで取り組んでこそ、シビックプライドにつながると考えるかどうか
10	吉 川 秋 利 (会派のぞみ)	1 繰越金について (1) 繰越金の位置づけについて ① 当初予算編成時における繰越金の決定は ② 「実質収支」における翌年度に繰り越すべき財源とは ③ 繰越金を財源とする補正予算案の編成は 2 いいだし「食べきり15・15運動」と食品ロスについて (1) 飯田市としての取り組みについて ① 所管と推進体制は ② この運動に取り組もうとした契機と取り組み経過は ③ 具体的に、何をどの様にしようとしているのか ④ 宴会、食事会に対する見解は (2) 食品ロスについて ① 食品ロスについて叫ばれているが、いいだし「食べきり15・15運動」との関連はあるか ② 店頭販売商品などについて、消費期限あるいは賞味期限により、廃棄される食料品が発生すると思うがどの程度把握しているか ③ 廃棄に当たっては、環境の問題も発生するが、行政としてどのような影響があると考えているか
11	新 井 信 一 郎 (会派のぞみ)	1 リニア新時代に向けた山岳観光について (1) 現在の山岳観光の現状について ① 里山エリアの現状は ② 南アルプスエリアの現状は (2) 今後の展開について ① 里山エリアの今後の展開は ア 西部山麓エリアは イ 沢城湖への考えは ② 南アルプスエリアの今後の展開は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	新 井 信 一 郎	<p>(3) 「ユネスコ」ブランドの活用状況は</p> <p>(4) インフラ整備の対応状況は</p> <p>① 市の対応は</p> <p>② 国・県への対応は</p> <p>(5) これまでも長きにわたり独自の取り組みをされ、多くの登山者たちに応じてきた「遠山 山の会」など、身を切る努力により成り立っている「南アルプスエリア登山」への考えは</p> <p>(6) 飯田市独自の「山の日」制定の考えは</p> <p>2 教育について</p> <p>(1) 小中連携・一貫教育について</p> <p>① これまでの取り組みと実績は</p> <p>② 今後は</p> <p>(2) ICT教育について</p> <p>① これまでの取り組みと実績は</p> <p>② 今後は</p> <p>(3) コミュニティスクールについて</p> <p>① これまでの取り組みと実績は</p> <p>② 今後は</p> <p>(4) 学区の見直しについて</p> <p>① 地域からの声をどのように把握しているか</p> <p>② どのように対応するか</p> <p>(5) 小規模特認校である上村小学校の取り組みについて</p> <p>① これまでの取り組みと実績、そして今後の取り組みは</p> <p>② 「中学校(遠山中学校)までの期間、通学できるように」との声がある。対応は</p> <p>(6) 学校の統合について</p> <p>① 少子化から見える現状はどうか</p> <p>② 現役生徒自身の発言から、学校統合をし、学業やスポーツなど充実をさせたい声が出ている。こういった声をどう受け止めるか</p> <p>(7) 義務教育学校について</p> <p>① その考え方と取り組みは</p> <p>② 飯田市で実施はできないか</p>
12	村 松 まり子 (公 明 党)	<p>1 ひきこもり支援の充実について</p> <p>(1) ひきこもりの現状は</p> <p>(2) 中高年のひきこもりの支援体制は</p> <p>2 性的少数者(LGBT等)の方々への理解と支援について</p> <p>(1) 性的少数者についての認識は</p> <p>(2) 性的少数者の方々が働きやすい職場環境づくりの取り組みは</p> <p>(3) 教育現場での対応は</p> <p>(4) 同性パートナーシップ認証制度導入の考えは</p>
13	木 下 容 子 (市 民 パ ワ ー)	<p>1 飯田市の平和施策の推進について</p> <p>(1) 平和首長会議に加盟している市として、どのような平和学習に取り組んでいるか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	木 下 容 子	<p>(2) 飯田市平和祈念館資料室の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 収集資料数、年間入場者数等の現状は ② 戦後74年を迎えた現在、資料収集に力を入れるべきと考えるがどうか ③ 現在の場所は資料室として適切だと考えているか <p>(3) 平和学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 次世代を担う青少年に平和の尊さをどう伝えるか ② 次世代の語り部の育成が急務だと考えるがどうか ③ 教職員への研修が必要だと考えるがどうか <p>2 小中連携・一貫教育のさらなる推進について</p> <p>(1) 第2次飯田市教育振興基本計画において、小中連携・一貫教育はどこまで進んでいるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校間の連携は ② 子ども同士の交流は ③ 地域や家庭との連携は ④ 幼稚園・保育園との連携は <p>(2) 小学校・中学校間の相互乗り入れ授業は考えられないか</p>
14	木 下 克 志 (会 派 の ぞ み)	<p>1 走る広告塔について(ご当地ナンバー)</p> <p>(1) ご当地ナンバーの検討状況は</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 飯伊地区の自動車登録台数は ② ナンバー名は国内において認知度の高さが必要と聞かすが、「飯田」、「南信州」などはどうか ③ 南信州広域連合での議論はどうであったか <p>2 セアカゴケグモについて</p> <p>(1) 県下で初めて、有毒のセアカゴケグモが市内で見つかったが、市はどのような対応をしたか</p> <p>3 豚コレラについて</p> <p>(1) 昨年9月、隣の岐阜県で確認されて以降、市はどのような危機管理体制をとってきたか</p> <p>(2) 被害の拡大が危惧されるが、今後の見通しは</p>

④-1 令和元年飯田市議会第4回定例会代表質問通告表

令和元年12月4,5日

No.	氏名	項目・要旨
1	山崎昌伸 (会派のぞみ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 市長の市政経営のあり方と来年度予算編成について <ol style="list-style-type: none"> (1) これまでの市政経営をどう総括するか (2) 来年度予算編成にあたり、どのような方針で臨むか (3) 市長にとってのリーダーシップのあり方とは 2 地域自治組織のあり方について <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域自治組織の負担感の増大について、どのように分析しているか (2) 組合未加入問題において、市長自身が苦勞していることは何か 3 リニア関連事業について <ol style="list-style-type: none"> (1) 駅周辺整備における移転交渉の進捗状況は (2) リニア関連工事における地域への経済波及効果は 4 産業振興について <ol style="list-style-type: none"> (1) エス・バードがもたらす地域経済への波及効果、地場産業の進展などの見通しは (2) 農業振興ビジョンの進行状況と見えてきた課題は 5 公共施設マネジメントについて <ol style="list-style-type: none"> (1) 「飯田市公共施設マネジメント基本方針」における、優先検討施設の検討状況は (2) サウンディング型市場性調査の検討状況は 6 ブランディング、シティプロモーションについて <ol style="list-style-type: none"> (1) IIDAブランド推進課の取り組み状況は 7 子育て、教育について <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士・保育補助員の充足状況はどうか (2) 中学校の運動部活動等における新たな活動方針の目的は 8 安全安心な社会の構築について <ol style="list-style-type: none"> (1) 今秋の台風による災害から本市が教訓とすべき点は何か (2) 公共施設における設置物の倒壊防止策は十分か 9 環境への取り組みについて <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境モデル都市、環境文化都市をめざす姿はどのようなものか (2) 環境への取り組みをシビックプライドまで高めるための道筋は 10 事業者との連携について <ol style="list-style-type: none"> (1) 様々な分野において事業者との連携が必要と思うが、市の考えは
2	井坪隆 (会派みらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1 市長の4期目の公約について <ol style="list-style-type: none"> (1) 今議会における令和元年度監査報告書Ⅱの指摘事項、並びに監査委員からの報告についてどう受け止めるか (2) 市政運営の目指したところと市民感覚について <ol style="list-style-type: none"> ① 指針とした「善い地域づくり」を、どう自己評価するか ② 「20地区の個性が輝き、多様なライフスタイルを実現するまちづくりを進める」とした、公約の“ことば通り”にまちづくりが進んでいるか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	井 坪 隆	<p>(3) 「経済自立度を向上させ、若い人が帰って来られる産業づくりに取り組む」について</p> <p>① 若い人が帰って来られる産業づくりの具体的成果は</p> <p>(4) 「行財政改革」について</p> <p>① 改革が成果を上げたものは何か</p> <p>② 市政経営の観点から、指定管理者制度についてどのように取り組んできたか</p> <p>(5) 「リニア中央新幹線への取り組み」について</p> <p>① 東京、名古屋間の事業全体の進捗状況を、どうとらえているか</p> <p>② 事業費における長期的な財政見通しをどのように考えているか</p>
3	永 井 一 英 (公 明 党)	<p>1 これからの市政運営と来年度の予算編成について</p> <p>(1) 人口減少、少子高齢化が進む中、多文化共生社会はますます進行していく。また、すでに始まっているグローバル社会も進展すると思われるが、市はどのように対応するか</p> <p>(2) 市長は、今定例会の開会時あいさつの中で、国の政策形成過程への関わりに言及した。様々な視点で、県との関わりについてどのように考えるか</p> <p>(3) この10月から、社会保障の充実・少子化対策・将来世代の負担軽減に用途を限って消費税10%への引き上げが実施された。2020年度の市財政への影響は</p> <p>2 少子高齢化・人口減少時代にあって、人と地域を生かす共生社会の構築に向けて</p> <p>(1) 地域には、高齢化、人口減少社会の進行に伴う課題が目に見える形で表れてきた。市が今まで実施してきた委託事業や地域への依頼事項などを棚卸しするとともに、課題の洗い出しと対応策の検討を再度行ってはどうか</p> <p>(2) 人と地域を生かす共生社会の構築に向けて</p> <p>① 国は、地域包括ケアシステムの進化・推進として「我が事・丸ごと」の地域づくりを推進している。一方市は、地域福祉課題検討会の立ち上げを進めている</p> <p>ア 両者に関連性はあるか</p> <p>イ めざすまちの姿に違いはあるか</p> <p>② 市は、地域課題に対応するための事業体の立ち上げを進めている</p> <p>ア 地域によっては、同じ人が関わっているため既に手一杯のところもある。市は具体的にどのように進めるか</p> <p>イ 受け皿となる組織体について、市長はどのように考えるか</p> <p>(3) 安全安心で持続可能な地域公共交通ネットワークの確保をどのように図るか</p> <p>(4) 「教育のための社会」をめざして</p> <p>① コミュニティスクールと同様に地域とのつながりを大切にしながら、幼稚園・保育園と小学校との連携をより一層図ってはどうか</p> <p>3 力強い地域経済の振興に向けて</p> <p>(1) 地域産業の活性化</p> <p>① 市は、地域産業の活性化、労働負荷軽減や省力化に資するため、AIやIoTなどをどのように地域産業に生かそうと考えているか</p> <p>(2) 地域の雇用創出と人手不足の解消</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	永 井 一 英	<p>① 女性の潜在的労働力を発揮できるように地域経済活性化プログラムに位置づけ、女性が活躍できる形を作り上げてはどうか</p> <p>4 気候変動への対応について</p> <p>(1) 生態系の現状把握と保全について、市はどのように進めるか</p> <p>(2) 農業などへの影響を予測した適応策が重要になると考える。市はどのように進めるか</p> <p>5 防災意識社会の構築に向けて</p> <p>(1) 気候変動による災害発生の頻発化と激甚化に対して、市はどのように対応するか</p> <p>(2) 小中学校の教室の付帯設備について、耐震性は確保されているか</p>
4	木 下 容 子 (市 民 パ ワ ー)	<p>1 牧野市政4期16年目を迎えて</p> <p>(1) 任期を振り返っての市長の思いは</p> <p>2 子どもを産み育てやすい環境の整備について</p> <p>(1) 妊娠・出産・子育て期までの途切れない支援体制について</p> <p>① 安心して出産できる体制づくりは</p> <p>② 「地域周産期システム」の取り組み状況は</p> <p>③ 子育て・子育てを応援し、支え合う体制づくりは</p> <p>(2) 地域力による子どもを見守り育む体制づくりについて</p> <p>① 放課後子どもプランの取り組み状況は</p> <p>② 地域資源を生かした「ふるさと学習」の取り組み状況は</p> <p>③ 地域での子どもの居場所づくりの取り組み状況は</p> <p>3 地域で安心して暮らせるための支援体制について</p> <p>(1) 住み慣れた地域での生活が続けられるための対策は</p> <p>① 地域福祉活動と地域包括ケアシステムとの連携は</p> <p>② ごみ出し困難者対策は</p> <p>③ 移動に支障をきたす高齢者や障がい者への対策は</p> <p>④ 認知症の方や家族への支援は</p> <p>(2) 地域包括支援センターの設置をどう進めるか</p> <p>(3) 飯田市立病院新改革プランについて</p> <p>① 飯伊地域における医療と介護の現状と課題は</p> <p>② 地域包括ケアシステムにおける市立病院の役割は</p> <p>③ 訪問看護ステーションの役割は</p> <p>④ 市立病院としての人材確保への考え方は</p> <p>(4) ひきこもり状態にある方や家族への支援について</p> <p>① ひきこもりを長期化させないための取り組みは</p> <p>② 就職氷河期世代の方への支援は</p> <p>4 女性が輝いて生活できる社会づくりについて</p> <p>(1) 女性のワーク・ライフ・バランスの推進状況は</p> <p>(2) 男女共同参画を推進するための男性への働きかけは</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
5	後 藤 莊 一 (日本共産党)	<p>1 市長の今定例会での開会挨拶などから見る政治姿勢と新年度予算編成について</p> <p>(1) 市政運営全般を日本国憲法に基づいたもの、特に日本国憲法の持つ3原則である、基本的人権の尊重、国民主権(主権在民)、平和主義(戦争放棄)に基づくものにすべきと考えるが、市長の考えは</p> <p>① 市民の不安や困難に寄り添った対応ができているか</p> <p>② 全国市長会副会長など重責を担う市長の活動について</p> <p>ア 自治体として取り組む国保や介護の会計については、国の負担増の申し入れはしないか。また、TPP11の発効、日米貿易協定の改定などで地元南信州牛はじめ国内の畜産農家が影響を受けていることに対して国に対策を申し入れはしないか</p> <p>イ 全国市長会副会長および、飯田市長として依頼される会議や講演などについて、飯田市として支出している旅費などはどういう考え方で支出しているか</p> <p>(2) 災害被害を減少させる対策について</p> <p>① 今年も全国で発生した災害、特に東北信での台風19号による災害を教訓に飯田市で対策を考えることは、内水氾濫対策と堤防強化にあると思うがどうか</p> <p>② 1千世帯を超える土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)指定の解消を市として図っていく考えは</p> <p>(3) 消費税がこの10月に増税されたが、飯田市における市民への影響は</p> <p>① 消費者や市内の業者への影響は</p> <p>② 市財政への影響は</p> <p>③ 市長は今回の増税に「ネクストステージに向けた都市自治体の税財政のあり方に関する研究会」で期待を寄せていたが、現在はどうか</p> <p>④ 2023年から「適格請求書発行事業者登録(インボイス)」制度が始まるが、対策は考えているか。また、国へ中止を申し入れる考えは</p> <p>(4) 2021年度から見直される介護保険事業計画はどのような方針で取り組むか</p> <p>① 介護保険料についてはどう考えるか</p> <p>(5) 飯田下伊那地方の賃金状況について</p> <p>① 県内で比較するとどうか</p> <p>② 公契約条例の制定で、公共事業から地域の賃金の上げを図ったかどうか</p> <p>(6) 現在飯田市内で自治会からの脱退や休会が発生していることを認識しているか、その対応は</p> <p>① 地区に単位自治会等の自治活動を支援する職員を配置する考えは</p> <p>(7) リニア中央新幹線計画について</p> <p>① 駅周辺整備基本設計について</p> <p>ア トンネル工事などの本線工事が遅れている今、周辺整備を立ち止まって見直す考えは</p> <p>イ 6.5ヘクタールは必要なものを積み上げたものか</p> <p>② 残土置き場について</p> <p>ア 下流域への説明がはじまるようだが、市として安全性の確認は行っているか</p>

No.	氏名	項目・要旨
1	清水 優一郎 (会派のぞみ)	1 天龍峡観光を核とした地域振興について (1) 地域が潤うための仕組みは考えているか ① 天龍峡PAの活用について ア 開通後のイベント開催実績と今後の開催計画は イ 直売所など物販施設を整備しなかった理由は ウ 地域の潤いに繋げるために今からでも物販施設を整備するべきではないか ② 天龍峡大橋千代側の下村広場の活用について ア 地域振興に繋げるために今後必要な整備は何か イ 整備の進め方は (2) 天龍峡エリアへの「道の駅」整備の検討状況は (3) 観光を地域振興に繋げるための新しい体制が必要ではないか 2 ご当地ナンバー創設について (1) ご当地ナンバー創設に向けた取り組み状況について ① 平成29年の募集時に申請しなかった理由は ② 南信州広域連合での合意形成はどこまで図られたか ③ 郡市民を巻き込んだ議論をするべきではないか
2	福澤 克憲 (市民パワー)	1 台風19号による東北信地域の災害被害に係る飯田市の支援について (1) 災害時相互応援協定に基づく支援状況は (2) 災害ごみ受け入れについての飯田市の考え方は 2 飯田市災害廃棄物処理計画について (1) 甚大な被害が出た東北信地域の状況からの、計画の検証について ① 対象とする廃棄物は ② 災害廃棄物処理の基本方針・流れは (2) 今後の方向性は 3 環境意識の醸成について (1) ごみの収集量の推移は (2) 3R(減量・再利用・リサイクル)の推進状況は (3) 今後の方向性は
3	岡田 倫英 (会派のぞみ)	1 災害時における「受援力」の強化について (1) 先の台風15号、19号における県内外の例から、教訓に生かせることはないか ① 災害状況の把握と情報発信は ② 下水処理施設が機能不全を起こした場合の対応は ③ 要配慮者の避難支援は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	岡 田 倫 英	<p>④ ボランティアの受け入れについて</p> <p>ア 有事の際、ボランティアセンターの早期立ち上げは可能な態勢になっているか</p> <p>イ センターはさんとびあ飯田に設置する計画だが、好適地と言えるか</p> <p>(2) 市民の災害ボランティア活動について</p> <p>① 「困った時はお互いさま」の助け合いを重ねることが受援力の向上につながると思うがどうか</p> <p>② 経験者の声を基に、支援策を検討してはどうか</p> <p>ア 現地への移動手段は</p> <p>イ 経験談の収集と活用は</p>
4	古 川 仁 (日本共産党)	<p>1 飯田市の子育て支援について</p> <p>(1) 飯田市幼児教育・保育のあり方方針(案)について</p> <p>① 方針(案)に至るまでの背景と課題は</p> <p>ア 10月からの幼児教育・保育無償化の現状は</p> <p>イ 子育て移住促進のため、各地区に「最低一の幼児教育施設」が必要とあるが、その根拠は</p> <p>ウ 方針(案)の「多様な主体による施設運営をサポートする」とはどのようなことか</p> <p>② 行政主体の幼児教育・保育の考えは</p> <p>(2) 小中学校の給食について</p> <p>① 給食時間は適当と考えるか</p> <p>② 温かい給食の提供への取り組みは</p>
5	福 沢 清 (会派みらい)	<p>1 平成30年第1回定例会において介護保険料値上げに関する附帯決議をしたが、令和3年度から始まる介護保険計画にどのように生かされるか</p> <p>(1) 介護予防を進めるための、健康福祉部を中心とした庁内連携体制はどうか</p> <p>(2) 地域包括ケアシステムの改善につながる仕組みづくりは</p> <p>(3) 「飯田市の生活圏域ごとの成果イメージ」とは</p> <p>(4) 地域密着型サービスの施設整備の進捗状況は</p> <p>(5) 議会で附帯決議したものについて、飯田市の見解や検討状況、実施状況をホームページに掲載したらどうか</p> <p>2 国が進める「働き方改革」で、飯田下伊那の労働環境はどう変わるか</p> <p>(1) 「働き方改革」について、飯田市としての進め方は</p> <p>(2) 飯田下伊那の労働環境の把握と公表は</p>
6	小 林 真 一 (公明党)	<p>1 地域公共交通と高齢ドライバーの安全対策について</p> <p>(1) 高齢ドライバーの現状について</p> <p>① 飯田警察署管内の高齢ドライバーの事故の状況は</p> <p>② 高齢ドライバーの運転免許証自主返納への取り組みと支援の現状は</p>

No.	氏名	項目・要旨
	小林 真一	(2) 高齢ドライバーの安全運転対策について ① 現状の取り組みは ② 昨今の自動車のペダルの踏み間違えによる事故をどう考えるか ③ 今後の高齢ドライバーへの支援は
7	村松 まり子 (公明党)	1 認知症対策の推進について (1) 認知症の現状はどうか (2) 認知症初期集中支援チームの取り組み状況は (3) 認知症サポーターが認知症の人とつながる仕組みが必要と考えるが、市の考えは (4) 本年6月18日に閣議決定された「認知症施策推進大綱」を市はどう捉え、認知症対策を今後どう推進していくのか
8	木下 徳康 (会派のぞみ)	1 ICT時代に対応した市民からの声・メッセージについて (1) 飯田市ホームページの「やらまいか提言」の現状は (2) 通報アプリについて ① 道路瑕疵や不法投棄の発見での有効性は ② 通報アプリ等の導入を検討してはどうか (3) ICT環境整備やAI推進などに対応した、庁内の情報化計画や研究の状況は 2 小中学校の給食費の公会計化について (1) 学校に代わり市が徴収することについて ① 文部科学省からの通知はどのようなものか ② 市の今後の対応は
9	熊谷 泰人 (会派のぞみ)	1 市内における河川、排水路の状況について (1) 市内に河川及び排水路はどのくらいあるか ① 国、県、市のそれぞれ管理状況は ② 危険箇所の把握はどのような判断基準で、どの様に調査しているか ③ 市内に危険と思われる箇所はどのくらいあるか ④ 危険と判断した河川、排水路の整備はどの様に進められているか ⑤ 河川や排水路の状況を記した台帳などの整備状況は (2) 河川整備には多額の費用が発生するため、長期的な整備計画をたて順次進めていくべきと考えるがどうか ① そのためには、まず河川・排水路の台帳を専門業者への業務委託も視野に早急に作成し、データベース化することが必要と考えるがどうか 2 全市一斉の水辺等美化活動(河川清掃)について (1) 地域で行う河川内の除草作業や水路の排砂作業には限界がある。県と協議し新たな対策を講じる必要があると考えるがどうか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
10	塚 平 一 成 (会 派 の ぞ み)	1 組合加入促進への施策について (1) 加入促進強化月間の施策を振り返り ① 市として取り組みをどう総括するか ② 今後の支援のあり方は ③ 理解啓発の強化への考えは 2 視聴覚媒体の活用について (1) XR技術の活用について ① 取り組みの評価は ② 今後の展開は ア 史跡景勝への活用の方向性は イ 誘客ツールとしての可能性は (2) 地域づくりにおける画像や映像の活用について ① 市民意識の高揚への活用の考えは
11	木 下 克 志 (会 派 の ぞ み)	1 道水路対策について (1) さわやかロード下山工区(下山西交差点～下山村駅間)の実現に向けて ① 下山工区の手川の河川の下流対策について ア 対策をどのように考えるか イ 改修の予定はあるか ウ 松川への排水トンネルの考えは エ 思井川との合流点の安全対策は (2) 道路管理の瑕疵による専決案件が後を絶たないが、道路陥没等に関する抜本的な対策が必要ではないか 2 観光行政について (1) 飯田市の観光客数が右肩下がりとなっている。この状況を市長はどう考えているか (2) まちなか、天龍峡、遠山郷の観光三拠点設定後、その成果をどう評価しているか
12	清 水 勇 (会 派 の ぞ み)	1 シャルルヴィル・メジュール市との交流について (1) 友好都市として提携31年目となるが、その交流内容は ① 市長は今年9月26日からシャルルヴィル・メジュール市を訪問しAVIAMA総会に出席したが、内容はどうか ② 「日本の間」の開所式が行われたが、内容と今後についてどう考えるか ③ シャルルヴィル・メジュール市内の小中学校訪問をしたが、その内容と今後の取り組みは ④ 昨年両市長の会話で、今後の交流について「青少年同士の交流や高校生の交流も考えたい」と話されていたが、具体的な構想はあるか ⑤ 飯田OIDE長姫高校のテックレンジャー誕生10年となり、2年後にシャルルヴィル・メジュール市でテックレンジャーショーの披露を考えているようだが、様々な課題がある。市としての協力は ⑥ 今後、両市の具体的な取り組みをどのように進めていくか

(6) 本会議等傍聴状況 (H31-R1)

会 期	年 月 日	傍 聴 人 数
第 1 回定例会	平成31年 2 月26日	4
	平成31年 3 月 6 日	43
	平成31年 3 月 7 日	40
	平成31年 3 月20日	
第 1 回臨時会	令和元年 5 月14日	2
	令和元年 5 月15日	0
第 2 回定例会	令和元年 6 月 5 日	4
	令和元年 6 月17日	51
	令和元年 6 月18日	84
	令和元年 6 月27日	
第 3 回定例会	令和元年 8 月27日	4
	令和元年 9 月 4 日	51
	令和元年 9 月 5 日	78
	令和元年 9 月20日	10
第 4 回定例会	令和元年11月25日	5
	令和元年12月 4 日	15
	令和元年12月 5 日	71
	令和元年12月 6 日	11
	令和元年12月18日	3
計		476

4 市議会のあゆみ（昭和46年から）

年	議会の動き
昭和46年 (1971年)	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田の常備消防を廃止し、飯田市・鼎町・上郷町消防組合へ全面移管するための規約改正を可決 ・議長 近松宗一、副議長 今村輝男を選出 ・昭和45年から始まったコメの減反政策について多くの質問があった ・鼎、上郷との合併を積極的にすすめるよう質問があった ・中央自動車道の早期着工と四車線化を求める意見書を可決 ・中央道遺跡発掘に伴う埋蔵文化財を収蔵・展示する資料館の建設を求める質問があった ・日中国交回復を求める決議がされた ・アメリカのドル防衛措置に対して、地元産業の育成策をただす質問があった ・県下に先がけて「モーテル建築の規制に関する条例」を可決
昭和47年 (1972年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民憲章の制定について質問があった ・市立病院運営審査特別委員会が市立病院の総合病院化を目指す必要性を検討 ・PCBなど公害の検査機能の充実を求める質問があった ・国民体育大会のラグビー等の競技を飯田において開催できるよう県に対して陳情を行った ・飯田市公民館の全面改築を求める陳情を採択 ・乱開発による環境破壊を防止して郷土の自然を守るため、「自然環境保全条例」を可決 ・中津川線の見通しと中央新幹線構想についての質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・松澤市政の誕生に伴い、その政治姿勢について、活発な質問がなされた ・中央自動車道関連の道路整備などを要望する質問があった ・福祉や教育施策充実を要望する質問があった
昭和48年 (1973年)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人医療費を無料化する対象年齢を69歳に引き下げる条例を制定 ・飯田に大学を設立すべきとする質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 伊原悦雄、副議長 新井安男を選出 ・中央道開通後予想される騒音、排気ガス、電波障害等の公害対策について質問があった ・老朽化がすすむ小中学校の早期改築を求める質問があった ・オイルショック、物価高、モノ不足に対する対策を求める質問が集中 ・鼎、上郷との合併の推進を求める質問が集中 ・石油危機打開を求める意見書を可決 ・中央新幹線の早期建設と飯田への駅設置を求める意見書を可決

年	議 会 の 動 き
昭和49年 (1974年)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般会計予算に関して予算審査特別委員会で賛否の結論が出ず、「六月段階で措置されるよう市長に要望する」という議長斡旋で收拾され、可決 ・廃棄物の処理及び清掃に関する条例案に関して、し尿の収集料金の改定について意見が分かれ、最終日を迎えても結論が出ないため、議会の会期を延長して審査を行い、委員会修正案を可決 ・国保税率の決定にあたって、特別委員会の意見を踏まえ、市長が税率を下方修正する原案の訂正を行って可決 ・中央道開通を間近に控え、地場産業振興や観光振興策、あるいは公害対策を求める質問があった ・教育文化センター（新飯田市公民館）の建設構想について質問があった ・西部統合中学の計画について、地元対策をただす質問があった ・東中学校の火災で緊急に議会全員協議会が開かれた ・飯田市民の消費生活を守る条例を可決
昭和50年 (1975年)	<ul style="list-style-type: none"> ・中央道の恵那山第二トンネルの早期着工を求める意見書を可決 ・中津川線の建設見通しをただす質問があった ・議長 伊原悦雄、副議長 林 昌平を選出 ・中央道開通に伴う飯田 I C 周辺の道路整備、公害対策、観光開発、産業振興策について多くの質問がされた ・窮迫した地方財政のもとでの市行政について集中論議が行われた ・開通した中央道の恵那山、網掛トンネル前後の40キロ規制の緩和を求める意見書を可決 ・風越高校の跡地利用について質問があった ・中央道の騒音公害対策や天竜峡付近の交通渋滞の解決を求める質問があった
昭和51年 (1976年)	<ul style="list-style-type: none"> ・深夜から未明に及ぶ議会において、市議会議員の定数をそれまでの36名から30名に減少する条例が可決された。一口に「暁の本会議」と言われている ・市長が提案した国保税率の引上げ率が下方修正して可決 ・付加価値税新設に反対する意見書を可決 ・工場再配置補助金問題調査特別委員会と駅前観光案内所問題調査特別委員会を設置 ・市議会議員補欠選挙 ・ニホンカモシカの食害対策を求める意見書を可決 ・風越高校跡地利用に関して、警察署の建設と、東中学校の建設を求める陳情が出され、その対応で慎重な審査がされた ・メッキ工場の建設を求める質問があった

年	議会の動き
昭和52年 (1977年)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人医療費特別給付金の一部改正条例を修正可決 ・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出 ・広域水道の統合について質問があった ・飯田駅前再開発を求める質問があった ・円高不況対策について質問があった
昭和53年 (1978年)	<ul style="list-style-type: none"> ・長姫高校の移転を想定した跡地利用について質問があった ・水道事業の統合が特別議決をもって可決 ・中央新幹線・中津川線建設促進特別委員会を設置 ・市立図書館の改築について質問があった ・合併促進特別委員会が設置された ・国道153号線バイパスの建設促進を求める意見書を可決 ・中学生が教師を殴打した事件について質問が集中
昭和54年 (1979年)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人医療費の無料化を65歳までとする条例を可決 ・国際児童年に対する取組について質問があった ・議長 林 昌平、副議長 片桐 勲を選出 ・地震防災対策強化地域の指定に関して質問があった ・駅前、知久町、銀座、本町など旧市街地の再開発について質問があった ・果樹共済制度の改善に関する意見書を可決 ・モデル定住圏の指定に関して質問があった ・県営野球場の誘致と総合運動公園の整備について質問があった ・一般消費税創設反対に関する意見書を可決 ・市立病院の総合病院化について質問があった
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> ・国鉄経営再建促進特別措置法案の見直しを求める意見書を可決 ・中津川線を断念し、中央新幹線建設促進に乗換えたかどうかとする質問があった ・土地買収に関する土地開発公社の不手際等について調査特別委員会を設置 ・大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の自主的平和統一に関する意見書を可決 ・カモシカの食害防止策についての意見書を可決 ・西部統合中学の改築計画の進捗状況について質問があった ・土地開発公社をめぐる不祥事について質問が集中 ・アメリカシロヒトリの防除対策について質問があった ・B型肝炎への対策について質問があった ・市議会議員補欠選挙

年	議会の動き
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> ・北方領土の返還促進などを求める意見書を可決 ・川路、龍江の天竜川流域の災害危険区域条例撤廃に関して質問があった
昭和56年 (1981年)	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業振興センターの建設について質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 林 昌平、副議長 松江良夫を選出 ・国際障害者年に際しての取組について質問があった ・中央新幹線、飯田線の強化、中津川線問題を審議する鉄道問題特別委員会を設置 ・婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条例の早期批准を求める意見書を可決 ・国鉄飯田線の合理化計画撤回等に関する意見書を可決 ・若者が定着できるよう企業誘致条例の復活を求める質問があった ・地元との調整が長引く西部統合中問題について、多くの質問があった
昭和57年 (1982年)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時議会において、伊賀良と山本の両中学校を統合し、昭和60年に新たに西部中学校として発足することが可決 ・長姫高校跡地のあり方について質問があった ・統合中学の進捗状況について多くの質問があった ・A議員の問責決議案が可決 ・市民の直接請求による西部統合中学校を廃止する条例案を否決 ・飯田市・鼎町合併協議会の設置を可決 ・飯田線の分割・民営化反対に関する意見書を可決
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院の経営改善と改築について審査するため、病院問題特別委員会を設置 ・飯田市農協、中央農協の合併の推進について質問があった ・議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出 ・農畜産物輸入自由化、枠拡大阻止に関する意見書を可決 ・大中型店の出店の動きと丘の上商店街の活性化について質問があった ・美術博物館の構想について質問があった ・コンピューター導入に伴うプライバシー保護の問題、あるいは情報公開制度について質問があった ・西部統合中学校の名称を「旭ヶ丘中学校」とする条例改正案を可決 ・10万都市実現のため、鼎、上郷との同時合併を求める質問があった ・9月28日の10号台風による災害復旧を検討するため、緊急に臨時議会が開かれ10号台風災害対策特別委員会と、天竜水系治水災害対策特別委員会を設置

年	議会の動き
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> ・40人学級早期実現に関する意見書を可決した ・松くい虫対策について質問があった ・川路、龍江、竜丘の災害危険区域に関する今後の対応について質問があった
昭和59年 (1984年)	<ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信自動車道の実現の可能性について質問があった ・非核平和都市宣言を可決 ・人種差別撤廃条約の早期批准に関する意見書を可決 ・天竜川治水対策と天竜峡の景観保全について質問があった ・鼎町との合併に関する議案審議のため臨時議会が開かれ、12月1日の合併を全会一致で議決 ・市職員に60歳の定年制を導入する条例を可決 ・国鉄の分割民営化反対に関する意見書を可決 ・市議会議員の定数を31名に減少する条例を可決 ・新しい街づくりの中での鼎地区の位置付けについて質問があった ・天竜川の恒久的な治水対策を求める意見があった ・テクノハイランド構想について質問があった
昭和60年 (1985年)	<ul style="list-style-type: none"> ・スパイクタイヤの粉じん公害について質問があった ・上郷町との早期合併を求める質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 松嶋健次、副議長 平沢與一を選出 ・指紋押捺問題に関連して、外国人登録法の改正に関する意見書を可決 ・ゴミ焼却場移転問題について質問があった ・国鉄飯田線の分割民営化の動きに関して質問があった ・若者の定住対策と企業の育成策について質問があった ・路線バスの廃止問題が質問された ・鼎との合併一年後の評価について質問があった ・学校の「いじめ」問題について質問があった ・世界人形劇フェスティバル開催(1988年)に名乗りを上げることの質問があった ・婦人の地位向上のための施策について質問があった ・高齢化が一層すすむ中で、在宅福祉について質問があった
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> ・上郷町との合併に向けた取組について質問があった ・コンピューター専門学校の建設費について質問があった ・市立病院の赤字と院長人事問題で特別委員会を設置 ・院長解任に伴う市立病院の正常化について質問があった ・大型間接税の導入は慎重に対処すべきという旨の意見書を可決

年	議会の動き
昭和61年 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国引き揚げ孤児の定住援護策について質問があった ・美術博物館の性格と財源について質問があった ・公文書の公開条例と、個人情報の保護条例を可決 ・暴力団追放都市宣言を可決 ・飯田工業高校の移転に伴う跡地利用について質問があった
昭和62年 (1987年)	<ul style="list-style-type: none"> ・売上げ税導入に反対する意見書を可決 ・美術博物館建設特別委員会を設置 ・中央新幹線、三遠南信自動車道の建設促進について質問があった ・エイズ対策について質問があった ・議長 平沢與一、副議長 細田直彦を選出 ・屋外広告物に係る環境美化等に関する条例を可決 ・老人福祉の中間施設の計画について質問があった ・市政50周年記念事業として、中学生による子ども議会が開かれた ・市立病院の移転決定と、地元対策について質問があった ・世界人形劇フェスティバルの準備状況と、シャルルヴィル・メジエール市との姉妹都市締結について質問がされた ・中央新幹線の飯田経由と駅舎設置に関する決議を行った ・東中学校の教師死亡に関して質問があった ・人形劇場の入札が保留になったことについて質問があった
昭和63年 (1988年)	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスのシャルルヴィル・メジエール市と国際友好都市の締結をすることを可決 ・美術博物館の職員体制や、運営について多くの質問があった ・三遠南信自動車道の竜東地域にインターチェンジを求める質問があった ・新しい市立病院の整備方針（マスタープラン）を了承 ・上郷町との合併協議30項目を了承 ・天竜川治水対策、四者協議の結論を了承 ・ギフチョウの保護対策について質問があった ・市議会議員補欠選挙 副議長 関島一郎を選出 ・コメの市場開放阻止に関する意見書を可決 ・保育園の空き室を託老所にする質問があった
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税導入に関して賛成、反対の論議が集中 ・リニア新幹線が停まるまちづくりについて質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 塩澤 昭、副議長 竹村仁實を選出 ・土曜閉庁関連条例を可決 ・新市立病院建設の基本計画を了承

年	議会の動き
平成元年 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> ・有線放送局の不祥事に関して質問が集中 ・長野の冬季五輪招致への考え方について質問があった ・学校教育における日の丸掲揚と君が代斉唱についての考え方について質問があった ・天竜川治水対策の基本計画を了承 ・有線放送を廃止し、オフトーク通信システムを導入することを了承 ・土地利用計画の策定の必要性について質問があった
平成2年 (1990年)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税導入を想定した新年度予算に関して賛否両論の議論が展開された ・有線放送局不正経理事件について質問が多くされた ・中国からの帰国者のために日本語学級を開設するよう質問があった ・県議会議員の飯田市区定数1名増を求める意見書を可決した ・飯田駅貨物用地跡地利用に関して質問があった ・天竜峡温泉の交通渋滞の解消、下水道の整備等について質問があった ・松尾地区の内水排除について質問があった ・登校拒否児童への適切な指導を求める質問があった
平成3年 (1991年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議長 竹村仁實、副議長 松江良夫を選出 ・竜東地区の開発計画について質問があった ・農村集落の活性化を図る地域マネジメント事業について質問があった ・議長 實原 裕、副議長 内山照美を選出 ・松くい虫の被害が広がる深刻な事態に対して質問があった ・土地利用政策審議会の設置を求める質問があった ・りんご並木の整備構想について質問があった ・MRSA感染対策について質問があった ・看護婦養成のための高等看護学校の誘致を求める質問があった ・上郷町との合併時期について市長の政治決断を求める質問があった ・平和予算の創設を求める質問があった ・信州いいだ農協発足に伴い、行政と農協が一体となった農業振興を求める質問があった ・飯田駅貨物用地跡地取得の経過について質問があった
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学誘致についての質問があった ・拠点都市地域の指定を目指すことについて質問があった ・学校5日制の受け皿について質問があった ・オフトークでの議会本会議中継はじまる ・若者定着と工業振興について質問があった

年	議会の動き
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別委員会にて大詰めの合併協議が行われた ・自然環境の保全と環境に優しい社会の実現を期して、「環境宣言」が決議された ・市役所の完全週休2日制の導入について質問があった ・エイズに対する予防啓発について質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・上郷町と平成5年7月1日に合併することを議決した ・拠点都市指定に向けての取組状況について質問があった ・中学生の問題行動に対する指導について質問があった
平成5年 (1993年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガットにおけるコメの例外なき関税化の導入を拒否し、基礎的食料の国内自給堅持を求める意見書を可決 ・地域医療に果たす新市立病院の役割について質問があった ・中心市街地のドーナツ化現象への対策について質問があった ・市議会議員一般選挙 議長 今村八束、副議長 澤柳辨治郎を選出 ・上郷との合併関連議案68件を可決 ・コメの市場開放阻止等を求める意見書を可決 ・拠点都市の計画策定に関して、高速交通網の整備等について質問があった ・上郷合併に伴う議員の増員選挙が行われ、5名が市議会議員に仲間入りした ・シャルルヴィル・メジエール市のロジェマス市長が市議会を表敬訪問された ・地方拠点都市地域整備促進特別委員会を設置 ・みどりの基金創設について質問があった ・県営サッカー場の誘致について質問があった ・不況下での産業振興策について質問があった ・天竜川流域にカヌー競技施設の建設を求める意見書を可決 ・地方分権の実現を求める意見書を可決 ・コメの市場開放を阻止し、抜本的農業施策実現を求める意見書を可決
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> ・飯伊広域行政組合設立に伴う関連議案を可決 ・4年制大学の誘致について質問があった ・市町村の共同出資のバス運行について質問があった ・環境、文化、情報化、公共施設の4つのテーマで政策調査研究部会が発足 ・三遠南信地域に首都機能の移転を目指せという質問があった ・サッカーくじ法案化について質問があった ・農業集落排水事業実施区域の拡大を求める質問があった ・不況下において女性の雇用を守ることを求める質問があった ・12年ぶりの水道料金値上げを、建設委員会が3日間にわたる審査のうえ賛成多数で可決した。

年	議 会 の 動 き
平成 6 年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> ・北信越市議会議長会産業・経済対策特別委員会が天竜峡で開催 ・議会だより100号記念号発行 ・今村八束議長が友好都市シャルルヴィル・メジエール市（フランス）を訪問 ・市民の生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るための国土利用計画（飯田市計画）を可決 ・水道料金を12年ぶりに改定。平均アップ率18・7%を三日間の審議の末に可決 ・上郷町との合併により、新たな議員定数を調査研究する「議員定数問題調査特別委員会」を設置
平成 7 年 (1995年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回臨時会において、今村八束議長・松島年一副議長を選出 ・「中国の核実験に抗議し、フランスの核実験再開中止を求める決議」を可決し両大使館に意見書を送付 ・飯田市における政治倫理の確立のため「市長の資産等の公開に関する条例」を可決。これにより市長は資産等の報告書の作成が義務付けられ、閲覧請求が可能になった ・上郷町編入合併に伴い5人増の36人となっていた議員数を定数31人にすることを議決
平成 8 年 (1996年)	<ul style="list-style-type: none"> ・全議員による「基本構想審査特別委員会」を設置、第四次基本構想・基本計画「環境文化都市を目指して」を可決 ・第2回定例会において「第四次基本構想に基づく組織機構改革案」を否決。この採決をめぐり最大会派の明政会が分裂し過半数を割ることとなった。この議案は第3回定例会で一部修正のうえ再提案され起立採決の結果賛成多数で可決 ・飯田市はあらゆる人権侵害の根絶を誓うため、「人権尊重都市宣言」を可決 ・「病原性大腸菌O157による食中毒対策に関する意見書」を国関係機関に提出 ・市議会議員補欠選挙で1人選出
平成 9 年 (1997年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会改選（投票率81・9%、上郷町と合併後初、特例による議員数36人から議員定数31人に） ・第1回臨時会において、小林利一議長・片桐司郎副議長を選出 ・市立病院と高松病院の機能、役割分担を検討するために「病院問題特別委員会」を設置 ・風越山麓に計画された送電線建設に対して景観、電磁波、産業振興、飯田市の環境条例などの観点から第2回、第3回定例会において計6件の請願・陳情があり審査・市政に関する独自の調査をし、政策提言をする「政策調査研究部会」（農業振興・交通施策・観光施策の3部会）がスタート

年	議会の動き
平成10年 (1998年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数削減に続く財政改革で、「議員の各種審議会報酬を辞退すること」を全会一致で可決。長野県下初であり、全国的にも先駆的な取り組み ・「インド並びにパキスタンの地下核実験に対する抗議の決議」を可決 ・第3回定例会において、人形劇カーニバルのあり方について活発な議論を展開 ・「大型店の元旦営業自粛に関する決議」を可決し、市内大型店に申し入れ
平成11年 (1999年)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年にスタートした「政策調査研究部会」が2か年の研究を報告 ・第1回臨時会において、小林利一議長・中田佳甫副議長を選出 ・ごみ処理手数料として30円から60円を負担する、「ごみ処理費用有料化」を可決 ・「公共下水道受益者負担金改定」を可決（面積1㎡当たり現行390円から520円に段階的な引上げ） ・「中心市街地総合再生特別委員会」及び「介護保険特別委員会」を設置
平成12年 (2000年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「政策調査研究部会」（地方分権・ISO・工業振興3部会）が平成12年度1か年の研究を報告 ・介護保険制度の施行に伴い関連する12件の条例を可決 ・国民健康保険税事業から介護保険への移行に伴う、「国保税の引き下げ」を可決 ・公共下水道（平均9.8%）及び農業集落排水施設（7.2%）の「使用料引き上げの改定」を可決 ・市議会議員補欠選挙で1人選出
平成13年 (2001年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会改選（投票率75.3%、議員数31人の内女性議員6人が誕生） ・第1回臨時会において、西尾喜好議長・牧内信臣副議長を選出 ・森林・林業・林産業の活性化と山村振興の推進を図ることを目的に「林業活性化推進飯田市議員連盟」が発足 ・飯田市地域交流センター設置条例（本町一丁目に建設中の「トップヒルズ本町」に「りんご庁舎」を設置、及びその管理について定めるもの）を可決 ・水道料金（上水道平均4.0%・簡易水道平均2.7%）の「引き上げの改定」を可決 ・アメリカでのテロの犠牲者に対し黙祷し、「同時多発テロを強く糾弾する決議」を採択
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関の保有する情報の公開に関する法律が施行されたのに伴い「飯田市情報公開条例」を可決 ・暴走運転をなくし平穏な地域社会を実現するための「飯田市暴走行為を根絶する条例」を可決

年	議会の動き
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯田市議会の議員の報酬等に関する条例」の一部を改正する条例を可決 (議員の月額報酬3%の引き下げ) ・「飯田市議会あり方研究会」を発足 ・「飯田市差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」を可決 ・菱田春草筆「菊慈童」及び「牧童」を取得することを承認(取得金額3億5千万円)
平成15年 (2003年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯田市福祉医療費給付金条例」を可決(全県統一の自動給付方式を導入) ・第1回臨時会において、議長に岩崎和男氏・副議長に渡淳氏を選出 ・「合併特別委員会」「土地利用特別委員会」「議員定数特別委員会」を設置 ・「住基ネット関連2議案」を可決(住基カードを希望者に、1枚500円で交付するための条例改正) ・「歴史研究所条例案」を可決(市民の教育及び文化の向上発展などに寄与するための研究所を設置) ・「ごみ処理手数料の改定案」を可決(環境保全対策により経費増のため、半分を利用者が負担)
平成16年 (2004年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「市議会議員定数を4人減の27人」にすることを可決 ・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」を5月に設置 ・「飯田市都市計画条例」の一部を改正する条例を可決 ・「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が11月8日、岩崎和男議長に中間報告を提出 ・「合併関連2議案」を可決(飯田市・上村・南信濃村合併協議会の設置について) ・市議会議員補欠選挙で2人選出
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「上村、南信濃村との合併関連6議案」を可決 ・市議会改選(投票率72.3%、議員数27人) ・第1回臨時会において、議長に熊谷富夫氏・副議長に林幸次氏を選出 ・「自治基本条例」「土地利用計画」の特別委員会を設置 ・「高等学校改革プランの検討に関する意見書」を県に提出(高等学校数の削減を行わないよう求める意見書) ・「個人情報保護条例」を可決 ・一般質問において一問一答方式を試験導入(一括質問一括答弁方式から、一問一答方式に変更) ・上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙(定数2、投票率82%、特例により議員定数27人から29人に)

年	議 会 の 動 き
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会本会議の映像生中継をスタート ・ 「男女共同参画推進条例」を可決
平成18年 (2006年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「国民保護法関連2条例」を可決（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律に関連する条例） ・ 飯田市における土地利用の基本的な指針を策定「国土利用計画」（第2次飯田市計画）を可決 ・ 第5次基本構想・基本計画の策定にあたり「基本構想基本計画検討委員会」を設置 ・ 市民・議会・行政の連携により研究を進めてきた「飯田市自治基本条例」を第3回定例会で議員提出議案として全会一致で議決 ・ 飯田市の各地区に平成19年度から設置される地域自治区について、「飯田市地域自治区の設置等に関する条例案、飯田市公民館条例の一部を改正する条例」を可決
平成19年 (2007年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温泉宿舎天竜峡を飯田市が購入することを承認 ・ 「飯田市土地利用基本条例」を可決 ・ 「環境文化都市宣言」を可決 ・ 第1回臨時会において、上澤義一議長・矢澤芳文副議長を選出 ・ 議員定数の削減に向けて「議員定数特別委員会」を設置し定数を23人に決定 ・ 「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞（飯田市自治基本条例の制定までの取組みが評価される）
平成20年 (2008年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「飯田市後期高齢者医療制度に関連した条例」を可決（75歳以上の高齢者に新たな負担となるため議論が集中） ・ 「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を小学6年生まで引上げ） ・ 「飯田市議会の議員の定数を定める条例」を可決（平成21年4月の選挙から定数23人に決定） ・ 議会議案検討委員会に置いて、ポイ捨ての規制に関する条例制定の必要性を調査 ・ 決算認定に結びつける議会の行政評価がスタート（行政評価の手法を用い決算を認定） ・ 「庁舎検討委員会」が発足（3回の委員会を経て市側の新庁舎建設の基本的な方針案を了承） ・ 市内20地区で初の議会活動報告会を開催（市政懇談会終了後30分間）

年	議会の動き
平成21年 (2009年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「副市長の定数を1から2に改める条例」を可決 ・「土地利用計画特別委員会」を廃止 ・市議会改選（投票率64・3%、上村・南信濃村との合併特例による議員数27人から議員定数23人に） ・第2回臨時会において初の立候補制による正副議長選挙を実施。中島武津雄議長・清水可晴副議長を選出 ・「リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議」を賛成多数で可決 ・市内を6ブロックに分け2回目の議会報告会を開催（市民487名が参加）
平成22年 (2010年)	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎の建替整備に向け調査研究を行うため「庁舎特別委員会」を設置 ・「飯田市リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金条例」を可決（リニア中央新幹線の実現に向けた取り組みを強化） ・年度内にルート決定が見込まれる中、調査研究を深めていくため「リニア推進対策特別委員会」を設置 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を中学3年生まで引上げ） ・第3回議会報告会を開催（市民469人が参加） ・「飯田市地域自治区の設置等に関する条例の一部改正条例」を可決（上村及び南信濃地区を地域自治区に移行）
平成23年 (2011年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回定例会において東日本大震災支援のための22年度補正予算を可決 ・第2回臨時会において、上澤義一議長・村松まり子副議長を選出 ・東日本大震災支援のための23年度補正予算を可決 ・「飯田市国民健康保険条例の一部改正条例」を可決 （2年連続平均7%の増額） ・損害賠償に係る議会未提出案件（110件）について議会を軽視するものとして市側に改善申し入れ ・「第5次基本構想基本計画後期計画」を可決（人口目標10万2千人に） ・第4回議会報告会を開催（市民444人が参加）
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「議会改革・運営ビジョン」を策定し新たな議会改革の取り組みとして常設の機関「議会改革推進会議」を設置 ・議会改革の一環として、初の「議長記者会見」を開催、委員会の自由傍聴の実現、本会議のインターネットによる映像配信を開始 ・新庁舎実施設計を了承

年	議 会 の 動 き
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「第7回マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞（行政評価や議会報告会の実践などが評価される） ・第5回議会報告会を開催（市民461人が参加）
平成25年 (2013年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会改選（投票率58・3%議員数23人） ・第1回臨時会において、林幸次議長・木下克志副議長を選出 ・常任委員会を3委員会とし、議員の複数所属をやめ単独所属とする ・より開かれた議会運営のため「広報広聴委員会」を設置 ・委員会審議において初の「議員間自由討議」を実施 ・初の政策討論会を開催（不法投棄対策について市長に提言） ・「ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」を可決 ・「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書」を国関係機関に提出 ・議会の行政評価で「天竜峡温泉交流館管理事業」について、廃止を含め指定管理委託など検討を行うよう提言 ・第6回議会報告会を開催（市民510人が参加）
平成26年 (2014年)	<ul style="list-style-type: none"> ・議会の行政評価において「農業課合同事務所事業」の廃止、「農作物被害対策事業」「リニア推進事業」「小中連携・一貫教育推進事業」の拡大などを提言 ・天龍峡温泉交流館の指定管理者管理委託を承認 ・「手話言語法(仮称)等の早期制定を求める意見書」を国及び県の関係機関に提出 ・第7回議会報告会を開催（市民543人が参加） ・第4回定例会終了後、議場の新庁舎移転に伴う「旧議場のお別れ会」を開催
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> ・初の議会出前講座を広報広聴委員会が実施（松尾小学校） ・県下初の対面式新議場で第1回定例会を開催 ・社会文教委員会が介護保険条例の一部改正に関して自由討議を実施。議案可決後に委員提案の附帯決議を可決。 ・第2回定例会から淡路結びの水引を議場に設置 ・第1回臨時会において、木下克志議長・木下容子副議長を選出 ・「長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例」を議決 ・「平和安全法制の慎重かつ適正な運用を求める意見書」を国及び関係機関に提出 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（支給対象を満15歳から満18歳に引上げ） ・木下克志議長が友好都市シャルルヴィル・メジェール市（フランス）を訪問

年	議 会 の 動 き
平成27年 (2015年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回議会報告会を開催（市民498人が参加） ・ 新教育委員会制度で初の教育長に代田昭久氏を任命することに同意
平成28年 (2016年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「飯田市議会パネル取扱要綱」、「飯田市議会災害対応指針」を制定 ・ 基本構想基本計画特別委員会を設置し、次期総合計画「いいだ未来デザイン2028」を審査 ・ 天龍峡温泉交流館建設に関し、産業建設委員会で自由討議実施後、附帯決議をつけて可決、本会議での委員長報告に対する討論を経て予算案を可決 ・ 地元産材のPRを目的に飯田市産ヒノキと遠山杉のネームプレートを作成し、全議員が着用を開始 ・ 議会だより200号記念号を発行 ・ 7月から9月にかけて議会による行政評価を実施（42施策、19事務事業） ・ インターネットで委員会の映像配信を開始（12月12日 総務委員会から） ・ 第9回議会報告会を開催（9月～10月、6会場で市民554人が参加） ・ 議会議案検討委員会を設置し、議員提出による「飯田産の地酒及び果実飲料で乾杯する条例」を議決 ・ 議会出前講座を松尾小学校で実施（2回目：2月、3回目：11月）
平成29年 (2017年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。藤山 浩氏を講師に迎え、「田園回帰1%戦略」を学ぶ（1月） ・ 社会文教委員会が「地域ケアシステムの構築」に関する調査研究を行い、議会全体の政策討論会を経て、議会から市長へ政策提言（3月） ・ 産業建設委員会は、「若者定住の促進について」ほか、5つのテーマについて2年間の調査研究活動をまとめ、所管部署へ提案（3月） ・ 飯田市スポーツの振興に寄与することを目的に「飯田市議会スポーツ振興議員連盟」が発足（3月） ・ 市議会改選（4月16日執行、投票率 57.95%、議員23名うち新人5名） ・ 議会出前講座を山本小学校で実施（6月） ・ 第5次基本構想の平成28年度分について議会による行政評価を実施（7月～）評価結果に基づく成果や課題を反映させるため、4月からスタートした総合計画「いいだ未来デザイン2028」の戦略計画に対して、市長へ提言（9月） ・ 第10回議会報告会を開催（10月、6会場で市民582人参加）
平成30年 (2018年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会出前講座を松尾小学校で実施（1月 6年生143人） ・ 飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。大森 彌氏を講師に迎え、「自治体議会の改革と議員の法的位置づけ」について学ぶ（1月）

年	議 会 の 動 き
平成30年 (2018年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備などをテーマとして、商工会議所支部や地域団体と意見交換会を実施（2－3月） ・ リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備を含むリニア関連事業の進め方等に対する要望書を所管部署へ提出（6月） ・ 飯田市議会（リニア推進特別委員会）主催による「リニアを活かしたまちづくり講演会」を開催（7月） ・ 飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価がスタート。各常任委員会や合同委員会での大局的な評価（森の評価）を経て政策提言を実施（7月－9月） ・ 社会文教員会が、「市内小中学校及び保育園等にエアコン設置を求める要望書」を所管部署へ提出（9月） ・ 第11回議会報告会を開催（10月 7会場で市民654人が参加） ・ 予算決算委員会の設置に向け、予算決算審査検討プロジェクトを発足（12月）
平成31年 (2019年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報広聴委員会、同委員会内の議会だより検討会議により、議会だよりの見直しを図り、リニューアルパイロット版を発行（1月） ・ 飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。山梨学院大学大学院の江藤俊昭教授を講師に招き議会改革について学ぶ（1月） ・ 一般質問等における執行機関側の議員に対する「反問権」の行使について定めた、改正飯田市議会会議規則が施行（2月） ・ 総務委員会が、市内3か所で「地域コミュニティーの在り方」について意見交換会を実施（2月） ・ 第1回定例会において市長が初の反問権を行使（3月）
令和元年 (2019年5月～)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回臨時会において、湯澤啓次議長・原和世副議長を選出（5月） ・ 第1回臨時会において、予算決算委員会を常任委員会として設置。予算・決算及び行政評価を所管し、今後は分割付託されてきた予算・決算議案について一括で付託を行うこととなった（5月） ・ 長野県市議会議長会総会を飯田市で開催。龍谷大学政策学部教授の土山希美枝氏を講師に招き「政策議会をつくる議員力・議会力」を学ぶ（7月） ・ 予算決算委員会所管による「議会による行政評価」を実施。9月定例会後、議長から市長に対し評価提言書を手交（7月－9月） ・ 議会出前講座を山本小学校で実施（10月） ・ 議会報告会を開催（10月 7会場で市民743人が参加） ・ 議長、副議長及び事務局長が「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」に参加（10月－3月）

年	議 会 の 動 き
令和2年 (2020年)	<ul style="list-style-type: none"> ・台風第19号で被災地となった長野市へ、長野県市議会議長会を通じて見舞金を送った（11月） ・議会報告会で出された「小学校のトイレ環境」に対する意見を受けて、社会文教委員会が市内の小中学校全てのトイレ環境の現状把握と学校職員への聞き取り調査を行い、予算決算委員会での審査、本会議での同意をもって市長に提言書を提出した（12月） ・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。(株)地方議会総合研究所代表取締役の廣瀬和彦氏を講師に招き「議会の活性化と議会運営」について学ぶ（1月） ・市議会災害対策会議を実施（1月ー） ・新型コロナウイルス感染症の影響で市の行事が開催中止（2月ー） ・第1回定例会で新型コロナウイルス感染症対策についての質問が複数あり（3月） ・第1回臨時会を開催し、新型コロナウイルス感染症対策に関する補正予算等を審議（5月）

VI 参考資料

1 都市宣言

① 安全都市宣言

わが国における産業経済の成長と生活文化の向上は、近年著しいものがあり、わが飯田市も近代的生産都市として発展の一翼をにない、市勢も各方面にわたり伸展しつつある。反面、産業災害、交通事故、火災などの各種災害が多発し、日常生活をおびやかされていることは、憂慮にたえないところである。

もとより、災害を防止するための措置は、それぞれの分野において積極的に実施されているが、われわれはさらに進んで市民の生命尊重と、産業文化伸展の理念のもとに、各種の災害をより効果的に防止するため、飯田市各階層を一丸とする市民運動を強力に推進し市民の安全意識の高揚をはかることこそ緊要であると確信する。

われわれは、この際「国民安全の日」制定の意義に沿い、本市における産業・労働・交通・消防・教育・文化・婦人団体など各界の連携をはかり、市民生活のあらゆる面において安全を確保し、明るく住みよい都市建設を目指して、ここに飯田市を「安全都市」とすることを宣言する。

昭和36年 6月26日

飯 田 市 議 会

② 明るい選挙都市宣言

民主政治の健全を期するためには、明るい選挙が行わなければならない。即ち、民主政治の基盤は選挙にある。

本市は、さきに公明選挙都市宣言をなし、これが運動を推進し、その実績をあげつつあるとはいえ、なお、遺憾な点なしとはいえない。

よって市民の代表である、本市議会はここに決意を新たにするとともに、市民の希望と熱意を結集し、これが現実を期するため、飯田市を「明るい選挙都市」とすることを宣言する。

昭和40年 6月29日

昭和61年 6月25日（一部変更）

飯 田 市 議 会

③ 青色申告都市宣言

本市は自主申告納税の理想郷を実現するため、また市民が青色申告の本質を再認識して国民の基本的義務である納税についての思いを新たにし、かつ、その納税意欲の向上をはかって、社会経済の発展に貢献するとともに、市民相互の繁栄と幸福を築くため、ここに飯田市を「青色申告都市」とすることを宣言する。

昭和52年9月21日

飯 田 市 議 会

④ 電波障害防止都市宣言

今日の情報化社会において、テレビ・ラジオは市民生活にとって不可欠のものとなっている。

しかるに、都市の近代化による高層建築物の増加、電気設備などの高度化は電波障害を誘発する要因となっている。

当市議会は、かつて昭和41年9月、他の市町村に先駆けて「電波無雑音都市宣言」を議決し、多大の成果を得て今日にいたっている。

今後、都市の近代化がさらに進む中で発生を免れない電波障害を一掃し、市民の快適な生活環境を築くため、その宣言の精神を一層敷延化して、ここに本市を電波障害防止都市とすることを宣言する。

昭和54年12月21日

飯 田 市 議 会

⑤ シートベルトヘルメット着用都市宣言

飯田市における交通事故は激増の一途をたどり、悲惨な事故のために多くの市民がその犠牲となっており、昭和56年度における人口1万人当りの事故率は55.3人で、県下17市中第1位という極めて憂慮される事態を迎え、事故絶滅は現下の緊急課題である。

交通事故の実態を見ると、シートベルト並びにヘルメットの着用は被害の防止、軽減を図る上で大きな効果が認められているが、その着用率は未だ十分といえない状況である。交通量の増加に伴い、ますます交通事故の危険が迫る現状にかんがみ、運転者のなご一層の交通安全意識を高めるため、ここに「シートベルト並びにヘルメットの着用」を宣言する。

昭和57年12月21日

飯 田 市 議 会

⑥ 非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。

しかるに、米・ソ超核大国による核軍拡競争は拡大均衡をめざすという口実でますます激化し、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしている。

わが国は、世界唯一の核被爆国としてこの地球上に広島、長崎の惨禍を再びくりかえしてはならないと訴えるものである。

飯田市は、平和憲法の精神にのっとり、「非核三原則」を将来ともに尊重し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、もって世界の恒久平和達成をめざすものである。

ここに、飯田市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

昭和59年6月28日

飯 田 市 議 会

⑦ 振替納税推進都市宣言

期限内完納の思想の高揚をはかるため、市民が振替納税の本質を理解して国民の基本的義務である納税意識が向上し、社会経済の発展と市民相互の繁栄に貢献することを願い、ここに飯田市を「振替納税推進都市」とすることを宣言する。

昭和60年6月29日

飯 田 市 議 会

⑧ 暴力団追放都市宣言

飯田市は、美しい自然と長い歴史と伝統文化につつまれた人情豊かなまちとして、平和で明るく住みよいまちづくりに積極的に取り組んでいるところである。

しかしながら、暴力団による不法行為は増加の一途を辿り、暴力団同志によるけん銃発砲事件も発生し、善良な市民生活が脅かされるなど、美しい郷土のイメージが損なわれことは、まことに遺憾であり、強い憤りを感じるものである。

善良な市民の平穏な日常生活と安全を守る立場から全市民の総意を結集し、暴力を是認しない地域づくりにつとめ、すべての暴力の根絶を図らなければならない。

よって、本市議会は、犯罪のない平和な住みよい郷土の建設をめざし、暴力行為を壊滅し、すべての暴力団を追放するため、ここに飯田市を「暴力団追放都市」とすることを宣言する。

昭和61年12月22日

飯 田 市 議 会

⑨ 人権尊重都市宣言

私たちは、だれもが人間らしく幸福に生きる権利を有し、だれからも尊重され、親しまれ、愛されながら豊かに暮らすことを求めています。そして、美しい自然と同様に、だれ隔てなく接する思いやりのある美しい心を持つ市民が明るく生活するまちちを目指して努力しています。

しかし、大変残念なことに、現実には偏見による差別など様々な人権侵害が存在しています。このことは、早急に解決しなければならない重要な課題です。

よって、私たちは基本的人権を正しく理解し、尊重し、人権擁護の良き実践者となるとともに、善意を広め、互いに励まし合い、手を取り合っであらゆる人権侵害を根絶することを誓うため、ここに飯田市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

平成8年6月24日

飯 田 市 議 会

⑩ 環境文化都市宣言

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

平成19年3月23日

飯 田 市 議 会

2 市政提携に関する覚書

長野県飯田市（以下「甲」という）と岡山県津山市（以下「乙」という）は、市政執行の面において相互に啓発し、いっそう市政の伸展と住民福祉の向上を期するため、緊密に提携することを協定し、当面、この目的達成のため、次の事項を実行することを確認する。

記

- 1 この目的達成のため、甲、乙において作成したあらゆる行政事務資料で、相手方の参考になると考えられるものは、相互に送付するものとする。この場合は窓口は、総務課扱いとする。
- 2 甲、乙は、必要に応じて協議の上、相互に研修のため職員を派遣することができる。この派遣職員の滞在に要する経費は、それぞれ派遣する側の負担とする。ただし、執務に要する事務的経費は、委託を受けた側が負担する。
- 3 この協定書以外の特別な事項で必要があると認めるときは、その都度双方協議のうえ、決定する。

以上この協定を証するため、覚書2通を作成し、甲・乙各1通を保有する。

昭和44年3月25日

甲	飯田市長	清水重美
乙	津山市長	生末敏夫

3 友好都市締結

盟 約 書

日本国長野県飯田市とフランス共和国アルデンヌ県シャルルヴィル・メジエール市は、共に古きよき伝統を有し、人形劇芸術において重要な役割を果たしつつある。

両市の市民と市民が構成するさまざまな組織間の相互理解と友情を深めることにより、日本国とフランス共和国の親善を促進し、世界の平和に貢献することを希求し、ここに両市が友好都市として提携することを盟約する。

昭和63年8月5日

日本国 長野県
飯田市
市長 松澤 太郎

フランス共和国アルデンヌ県
シャルルヴィル・メジエール市
市長 ロジェ・マス

4 飯田市の主要年表

年 月	事 項
昭和12. 4	飯田・上飯田町合併 飯田市誕生 人口31,289人
5	第1回市議会議員選挙
6	飯田市初議会で、市長に野原文四郎氏を推挙
14. 11	市瀬泰一氏第2代目市長に就任
17. 5	市議選翼賛選挙で無投票当選
18. 8	伊那電鉄など飯田線となる
19. 12	県立飯田保健所開所
21. 4	戦後初の衆議院選挙 飯田市の人口33,772人
7	飯田駅前大火
22. 4	公選による知事、市長選。高田茂氏当選 第4代目市長に
4	飯田市大火 市街地の3分の2を焼失
23. 3	飯田市消防本部、消防署発足
26. 12	飯田市立病院開院
28. 11	りんご並木の植付始まる
29. 4	飯田長姫高校全国高校野球選抜大会で優勝
10	飯田市公民館、復興記念館開館
30. 4	市長選に松井卓治氏当選、第5代目市長に就任
31. 9	飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村、下久堅村が合併、新飯田市発足
31. 10	合併初の市議会 飯田市公民館で開催、議員数145名 合併後の市長選 松井卓治氏無投票当選
32. 4	松井市長、鼎町と上郷村へ合併を申入れる
34. 7	飯田市下水処理場供用開始。県下初、全国で6番目
35. 7	飯田市民プール完成
36. 3	川路村を合併
6	梅雨前線豪雨伊那谷を襲う 死者11人 行方不明5人
37. 10	建設大臣伊那谷の災害地を視察
11	飯田市役所新庁舎落成
38. 10	低開発地域工業開発地区に指定される
12	りんご並木後援会発足
39. 3	龍江村、千代村、上久堅村を合併
40. 7	市立病院新館落成
9	組合立、飯田衛生センター落成
12	老人ホーム川路寮開設
41. 1	市議会、地財法準用を議決
10	中央自動車道杭打式（今宮球場附近）

年 月	事 項
昭和42. 5	飯田勤労者福祉センター開館
9	飯田市議会 財政再建のため議員報酬5割削減可決
11	りんご並木15周年記念式典を行う
11	市制施行30周年記念式典を行う
43. 4	飯田市・鼎町・上郷村消防組合発足
5	りんご並木、NHK総合テレビで放映される
8	飯田市・鼎町・上郷村下水道組合発足
10	市長選に清水重美氏当選 第6代目市長に
44. 3	岡山県津山市と市政業務提携
8	36年災害復旧状況視察のため皇太子御夫妻来飯
11	飯伊地域広域行政市町村圏協議会設立
45. 2	飯田市・鼎町・上郷村上下水道組合発足
11	大平部落解散式
11	飯田卸売団地開設
46. 3	飯田・鼎・上郷消防組合発足
6	名誉市民日夏耿之介氏死去 行年81才
6	市議会、生活改善推進を議決
8	りんご並木の碑除幕式
47. 4	飯田文化会館竣工
10	市長選に松澤太郎氏当選 第7代目市長に
49. 3	飯田市農業協同組合発足
5	松川ダム完成、妙琴浄水場通水式
50. 1	飯田中央農業協同組合発足
6	飯伊特別養護老人ホーム「飯田荘」完成
8	中央自動車道西の宮線開通（中津川一駒ヶ根間）
51. 2	鼎町・上郷町へ合併の申し入れをする
3	市議会議員定数を30人に削減
10	松尾終末処理場供用開始
11	飯田市公民館竣工
52. 5	飯田市総合運動場、勤労者体育センター完成
6	市民憲章制定
53. 10	第33回国民体育大会「やまびこ国体」開催（ラグビー会場）
12	飯田市基本構想、基本計画策定
54. 7	飯伊モデル定住圏地域の指定を受ける
8	人形劇カーニバル始まる
12	飯田市墓地霊園、桐林に完成

年 月	事 項
昭和55. 3	市営弓道場移転完成
4	橋北コミュニティ防災センター完成
56. 4	飯田地区広域消防組合発足（松川町・喬木村・大鹿村・豊丘村・高森町・清内路村・阿智村が加入）
9	鼎町早期に合併したいとの回答
57. 3	飯田市武道館完成
7	上郷町に再度合併の要請
8	飯田まつりに新曲「りんごん」を踊る
11	中央自動車道西宮線全線開通
12	飯田市・鼎町両議会合併協議会設置を可決
58. 1	第1回飯田市・鼎町合併協議会開かれる
3	飯田市保健センター完成
9	台風10号大きな被害を受ける
59. 2	座光寺小学校完成
3	橋南にコミュニティ防災センター完成 龍江公民館、支所完成
8	飯田市と鼎町との合併調印式
12	鼎町と合併
60. 3	天竜川治水基本協定の調印
4	旭ヶ丘中学校の開校
4	鼎町と合併後初の市議選
5	「三遠南信道路」3県レベル同盟会の設立
10	「美術博物館」基本構想委員会発足
61. 3	座光寺公民館・支所完成
8	人形劇アジア会議開催
10	飯田消防署新庁舎完成
12	北方地区土地区画整理事業着工
62. 1	飯田市立病院新副院長人事発令
2	飯田工業技術センター完成
3	イタチガ沢埋立地完成 丸山地区土地区画整理事業着工
4	飯田コンピュータ専門学校開校
8	飯田市子ども議会開催
10	市制施行50周年記念式典
11	りんご並木ヘニュートンのりんごの木、国道153号線バイパスへりんご植付
12	飯田市基本構想、基本計画策定

年 月	事 項
昭和63.	3 市道知久町中村線・国道153号線バイパス第1工区竣工
	6 飯田市・上郷町両議会合併協議会設置可決
	7 第1回飯田市・上郷町合併協議会開かれる 人形とけい塔ハミングパル並木通りに設置
	8 シャルルビル・メジェール市と友好都市提携 飯田人形劇場開館 世界人形劇フェスティバル開催
	10 飯田市美術博物館10月1日落成式 市長選に田中秀典氏当選 第8代目市長に
平成元.	3 飯田衛生施設組合 桐林クリーンセンター完成 飯田運動公園県営飯田野球場完成
	6 桐林運動広場完成
	8 アフィニスセミナー開催 山梨リニア実験線、建設正式決定 三遠南信自動車道、程野・飯田東IC間のルート公表
1.	9 伊那谷高速交通フェア開催 第2. 4土曜日の閉庁実施
	10 飯田市美術博物館開館
	11 飯田市立病院、総合病院となる
	12 飯田勤労者総合福祉センター完成
2.	3 松尾公民館・支所完成
	4 名勝天竜峡温泉利用開始
	8 新病院本体建設着工
	11 新し尿処理場着工
	12 県議定数（飯田地区）2人から3人に
3.	1 市営駐車場30分無料化
	2 テレトピアモデル都市に指定
	3 千代診療所完成
	7 飯田市斎苑完成、動物炉が新設される
	9 今田人形座が仏国で開催の人形劇世界フェスに出演
	10 飯田工業高校跡地一帯が建設省「平成記念子供のもり公園」に指定される
	12 飯田農協と飯田中央農協が合併「信州いいだ農協」が誕生
4.	2 天竜川治水対策事業起工式が行われる
	3 飯田市で初の「かなえデイサービスセンター」完成 国道153号線バイパス第2工区と飯田下山線開通 飯田運動公園弓道場竣工

年 月	事 項
平成4. 3	飯田市有線放送局閉局
4	オフトーク通信事業開始 かなえデイサービスセンター開所 飯田ふれあい農園開園
6	オフトーク通信による議会本会議生中継開始 緑ヶ丘中学校プール完成
7	新し尿処理場「飯田竜水園」運転開始 伊賀良「育良町」誕生
9	新市立病院竣工式
10	国道153号線バイパス新市立病院まで開通 新市立病院開院（外来診療開始）
12	飯田市・上郷町合併調印式 飯伊地域が地方拠点都市第一次指定される
5. 1	地方拠点都市整備計画策定室設置
2	丸山羽場第2地区区画整理事業起工式
3	男女共同参画型社会をめざして「信州飯田女性プラン」（女性行動計画） まとまる 上久堅福祉企業センター竣工
4	市役所の業務が毎週土曜日閉庁となる
6	飯田駅前にアイパーク竣工
7	上郷町と合併し、人口が106千人となる
8	人形劇カーニバル15周年を迎える アフィニスセミナー5周年を迎える
10	飯田のシンボル「りんご並木」が40周年を迎える 浜松市のフルーツパークに飯田のりんごの苗木が植樹される また両市の美術館で所蔵品の交換展を開催 特別養護老人ホーム第二飯田荘が開所
12	飯伊地方拠点都市地域基本計画が知事承認を受ける
6. 2	三遠南信地域の振興を考える「三遠南信サミット」が浜松で開かれる 天竜川治水対策事業、龍江側で盛土工事本格着工
3	三遠南信自動車道「矢筈トンネル」供用開始 山本公民館、支所竣工
4	今田人形の館竣工 飯伊広域行政組合発足 オフトーク通信事業の放送業務を民間委託
6	ゆとり宣言都市指定モニュメント「ゆとり創造の樹」完成

年 月	事 項
平成6. 9	飯田市議長が友好都市フランスのシャルルヴィル・メジエール市を訪問
10	飯田市議会だより100号記念発行 飯田市総合運動場全面改修工事竣工
12	国土利用計画（飯田市計画）策定議決
7. 2	中心市街地から「西友」撤退 阪神大震災被災地へ支援 飯田市下水道整備計画策定
4	北部・竜東デイサービスセンター開所 天竜峡活性化センター「あざれあ」開館
7	飯田運動公園プール「アクアパーク I I D A」竣工 飯田市立病院に併設の伝染病棟隔離病舎（飯伊広域行政組合）供用開始
8	戦後50年平和祈念事業を開催（8～11月）
10	「三遠南信サミット&シンポジウム i n 飯田」開催 第41回風越登山マラソン開催（7年ぶりに復活）
12	飯田市議会12月定例会で条例定数は現行31人で議決 飯田農業振興地域整備計画を変更、都市計画の用途地域も変更
8. 2	天竜川治水対策事業、川路、竜丘側築堤工事起工式 市民構成劇「かざこし姫となかまたち」上演
3	市議会本会議で「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」否決
4	飯田市農政プラン策定 第4次基本構想・基本計画「環境文化都市をめざして」策定 飯田市工業振興マスタープラン策定 飯田やまびこマーチ10周年
5	矢高共同調理場竣工
6	人権尊重都市宣言 「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」可決
7	市役所組織機構改革が実施される（7月1日より）
12	さんとびあ飯田竣工 信州飯田ふるさと大使館開館 21' いいだ環境プラン策定
9. 2	ハートヒル川路竣工
4	市制施行60周年
5	市議会改選
5	市誌編さん委員会誕生
7	太陽光発電に無利子融資

年 月	事 項
平成9. 7	エコタウン地域に指定される
8	全国夏期巡回ラジオ体操会
10	世界地方都市十字路口会議
12	J Aみなみ信州発足
平成10. 2	市民バス運行開始
2	長野オリンピック冬季競技大会開催
3	長野パラリンピック冬季競技大会開催、飯田市より2人参加
3	議員の各種審議会報酬辞退を全会一致で可決
4	天竜川治水対策・龍江側工事完成
6	飯田市役所ISO14001を取得する方針決定
	第1回飯田市藤本四八写真文化賞 (芳賀日出男さん、宮島功さん、南島孝さん受賞)
8	第20回人形劇カーニバル (20回を記念して世界人形劇フェステバル開催)
	第10回アフィニス夏の音楽祭ロストロ・ポーヰチ氏を迎え開催
平成11. 3	市議会「政策調査研究部会」報告(農業振興・交通施策・観光施策3部会の平成9年・10年度の2カ年の研究報告)
	病院問題特別委員会審査終了
	飯田工業技術研修施設・EMCセンターオープン
	りんご並木リニューアル
4	飯伊広域行政組合を継承、発展する形で南信州広域連合設立
7	よこね田んぼ「日本の棚田100選」に選ばれる
12	ごみ処理費用負担制度開始
平成12. 1	I S O 14001認証取得
3	市議会「政策調査研究部会」報告(地方分権・I S O・工業振興3部会の平成12年度の1カ年の研究報告)
4	介護保険制度がスタート
7	丸山羽場地区区画整理事業第1地区完成
10	三遠南信パテントメッセ・EMCシンポジウムと工業技術交流相次ぐ
平成13. 1	観測開始以来の大雪に見舞われ市民生活に大きな影響が出る
3	政務調査費の交付に関する条例の制定
4	市議会改選
7	橋南第1地区再開発ビル「トップヒルズ本町」完成
8	地域交流センター「りんご庁舎」オープン
10	いいだFM開局
11	りんご並木「かおり風景100選」に選ばれる

年 月	事 項
平成14. 4	平成記念かざこし子どもの森公園開園
9	天竜川治水対策事業完成
10	菱田春草作「菊慈童」を購入
平成15. 1	ISO14001自己適合宣言
3	市議会「在り方研究会」「合併問題調査研究会」報告(半年間の研究報告) 「環境首都コンテスト」人口規模別第1位、総合第4位
5	南信州グリーンツーリズム特区取得
8	飯田市・喬木村・上村・南信濃村の4市村、任意合併協議会設立
10	りんご並木50周年記念事業
12	飯田市歴史研究所オープン
平成16. 1	橋南第2地区市街地再開発ビル着工
2	第1回ほんもの体験フォーラムin南信州の開催
3	オーライ!ニッポン大賞グランプリ内閣総理大臣賞受賞
3	飯田お練りまつり盛大に開催
5	「わがまちの“憲法”を考える市民会議」の発足
5	第12回環境自治体会議「いいだ会議」開催
6	自治体環境グランプリ環境大臣賞受賞
7	市立病院が地域医療支援病院として県から承認を受ける
10	飯田市長選で、牧野光朗新市長誕生
平成17. 4	地域経済活性化プログラム2005を策定、農業課と農業委員会の事務所移転
6	国際自転車レース「第9回ツアー・オブ・ジャパン南信州ステージ」を開催
7	高校統廃合問題に関連し、鼎公民館で「高校改革シンポジウム」を開催
10	上村及び南信濃村と合併
10	日独地域国際化サミットを飯田市で開催
平成18. 4	飯田やまびこマーチ20回記念大会 結いターンキャリアデザイン室を設置
6	一般廃棄物最終処分場(千代地区)の建設工事開始
9	飯田市自治基本条例の制定
10	橋南第二地区市街地再開発ビル トップヒルズ第二オープン
平成19. 3	第5次基本構想基本計画と環境文化都市宣言を可決 川本喜八郎人形美術館オープン 市制70周年記念式典を開催
4	飯田市自治基本条例、地域自治区、第5次基本構想基本計画、総合的土地利用計画、行財政改革大綱など地域の自立に向けた新しい枠組みスタート 全国さくらシンポジウムin飯田開催
11	南信濃地域交流センター完成

年 月	事 項
平成19. 11	市議会が、「第2回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞 飯田市自治基本条例の制定の取り組みが評価される
平成20. 4	三遠南信自動車道飯橋道路1工区(飯田山本IC~天竜峡IC)が供用開始
6	天龍峡再生元年として天龍峡百年再生館オープン
7	市政懇談会に合わせて、初の議会活動報告会を市内20地区で開催
8	北京オリンピックに、飯田市出身初の選手として矢澤一輝選手がカヌースラローム競技に出場 人形劇のまち30年を記念して「世界人形劇フェスティバル・いいだ人形劇フェスタ2008」を開催 アフィニス夏の音楽祭が20回をもって終了
9	市議会による行政評価が初めて行われ「施策及び事務事業に対する提言書」を市長に提出
10	飯田市・南信州広域連合・みなみ信州農協が共同で運営するマーケティングショップ「南信州ファームプロダクツマーケット」を名古屋市内にオープン、地元旬の農産物の販売や地域への産地ツアーを企画
11	市内を6ブロックに分け、2回目の議会報告会を開催、市民487名が参加
平成21. 1	飯田市が内閣府から環境モデル都市に選定
3	グリーンバレー千代(最終処分場)竣工
4	市内の商工会議所、商工会が統合され新しい飯田商工会議所が誕生
5	オーケストラと友に音楽祭開催
7	飯田下伊那市町村による定住自立圏形成協定書の合同調印式
8	市企画部内に「リニア推進対策室」が設置される
10	飯田北部地区の農免道路が開通(上郷丹保地区~高森町下市田地区) 低炭素社会実現に向け「レンタサイクル事業」開始
11	新型インフルエンザが流行
平成22. 2	メガソーラーいいだ太陽光発電所 飯田市と中部電力(株)で共同建設することについて協定を締結
3	飯田お練りまつり 約32万人 42団体が参加
4	リニア中央新幹線推進本部設置(市役所内)
5	介護保健施設ゆうゆう 竣工
6	日本の環境首都コンテスト2009(第9回)で飯田市が総合2位(昨年3位)
7	集中豪雨による土砂災害(南信濃で昭和58年に次ぐ観測史上2番目となる223mmの降水量 土砂崩れや建物の全壊、床下浸水などの被害)
9	天龍峡盆踊りが25年ぶりに復活
10	定住自立圏全国市町村長サミット2010in南信州が開催
平成23. 1	メガソーラーいいだ太陽光発電所 運用開始

年 月	事 項
平成23. 1	飯田大学連携会議「学輪IIDA」の設立
3	東日本大震災発生。避難者の受け入れ
3	飯田市美術博物館デジタルプラネタリウムを導入
5	国土交通大臣が全国新幹線鉄道整備法に基づき、 リニア中央新幹線の整備計画を決定
平成23. 6	三六災害から50年。三六災害50年シンポジウム開催
	日本の環境首都コンテストで「明日の環境首都賞」を受賞
9	フランス シャルルヴィル・メジエール市に「飯田通り」誕生
9	菱田春草没後百年 飯田市美術博物館で「没後百年記念特別展」開催
12	第5次飯田市基本構想後期基本計画策定
平成24. 4	飯田市立動物園リニューアルオープン（ちびっこランド） 8月にはペンギン舎、10月にはコンドル舎がリニューアル
5	エコハウスがJIA環境建築賞住宅部門で優秀賞を受賞
7	第10回スローライフまちづくり全国都市会議（スローライフサミット）開催
8	ロンドンオリンピックに、飯田市出身の矢澤一輝選手がカヌースラローム 男子カヤックシングルで、北京大会に続き出場
11	市議会が、第7回マニフェスト大賞地方議会部門最優秀成果賞受賞 議会による行政評価及び議会報告会の実施が評価される
平成25. 3	東和町交差点を周辺の改良工事にあわせ、全国で初めて信号機付交差点か らラウンドアバウト方式に変更して整備
4	「地域環境権」をうたう飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能 な地域づくりに関する条例が施行
4	市役所新庁舎建設工事着工
8	人形劇フェスタ15周年を記念しアジア人形劇フェスティバルを開催
9	リニア中央新幹線のルート及び飯田市内への駅設置の決定が発表される
平成26. 2	観測史上最多の積雪深81cmを記録 中央自動車道の通行止め、農業生産 施設の被害等市民生活に多大な影響を及ぼす
3	恒川官衙遺跡（座光寺地区）が、国史跡に指定される 飯田市立病院周産期センター、がん診療・緩和ケアセンター竣工
6	南アルプス（飯田市では上村、南信濃地区）がユネスコエコパークに登録さ れる
10	航空宇宙産業クラスター拠点工場完成 リニア中央新幹線（品川・名古屋間）の工事実施計画が認可される
12	市役所新庁舎完成
平成27. 1	市役所新庁舎開庁し業務を開始
2	長野県内初の左右対面式議席の新たな議場で初めての市議会定例会を開催）

年 月	事 項
3	菱田春草生誕140周年記念事業が行われる、菱田春草生誕地公園が仲ノ町に完成、美術博物館では菱田春草の特別展、ワークショップ、シンポジウム等を開催
4	パスポート窓口を市役所庁舎内に開設
4	リニア中央新幹線中心線測量開始
7	こども家庭応援センター「ゆいきっず」が開所
9	飯田市長、市議会議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジュール市を訪問し、A V I A M A（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を招致、平成30年に飯田市で開催されることが決定
10	マイナンバー制度が始まる
10	国道152号小道木バイパスが開通
平成28. 3	数えて7年に1度の飯田お練りまつりが開催され、35万の人出で賑わう
4	教育長に代田昭久教育長が就任
4	高校生世代までの医療費が無料に（年度末年齢18歳以下の子ども）
5	飯田市リニア関連事業現地事務所（相談窓口）を上郷飯沼に設置
6	農地転用許可が市に権限移譲（6月1日付で指定市町村に指定）
7	「市田柿」が地理的表示（G I）保護制度に県内で初めて登録される
9	飯田産の地酒および果実飲料で乾杯する条例を市議会が提案し制定
10	飯田古墳群が国史跡指定、恒川官衙遺跡が追加指定
10	52年ぶり2期連続無投票で牧野光朗市長が当選。4期目の市政をスタート
11	市役所庁舎整備事業が全て完了（平成25年4月着工）
11	天皇皇后両陛下が私的御旅行のため飯田下伊那地域をご訪問（天龍峡、りんご並木、阿智村 満蒙開拓平和記念館）
12	「地域ぐるみ環境 I S O 研究会」設立20周年記念
平成29. 4	飯田市総合計画「いいだ未来デザイン2028」スタート
4	旧飯田工業高校施設を活用した「産業振興と人材育成の拠点」において、信州大学航空機システム共同研究講座が開講される
4	天龍峡温泉交流館リニューアルオープン
5	上郷北条地区のリニア駅予定地への幅杭設置が開始される
6	「信州・伊那谷(ローカル)の個性で世界(グローバル)を惹きつけ、世界へ発信する玄関口(ゲートウェイ)」を基本理念としたリニア駅周辺整備基本計画が策定される
8	市制施行80周年記念事業としてタイムカプセルを掘り起こし
9	飯田市美術博物館で菱田春草記念常設展示がスタート
10	市制施行80周年記念式典が開催される
12	南信州広域連合稲葉クリーンセンター竣工(燃やすごみの処理が桐林クリーンセンターから移行)

年 月	事 項
平成30.	<p>2 市内で最初のリニア工事（中央アルプストンネル松川工区）が着工</p> <p>3 三遠南信自動車道飯喬道路の龍江～上久堅間が開通</p> <p>3 飯田市立病院に放射線治療専門棟（リニアック棟）が竣工し、新たに導入したがん放射線治療装置（リニアック）が稼働</p> <p>4 上村小学校が小規模特認校に認定され、区域外からの児童の通学が始まる</p> <p>8 満18歳までの子どもの医療費の窓口無料化を開始</p> <p>8 新人形とけい塔「ハミングパル」が完成</p> <p>8 世界人形劇フェスティバル開催 （いいだ人形劇フェスタ20周年・前身の人形劇カーニバル飯田から40周年）</p> <p>8 AVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を飯田市で初開催</p> <p>8 シャルルヴィル・メジェール市との友好都市提携30周年を記念して、「シャルルヴィル・メジェール通り」命名式等の記念式典を開催</p> <p>10 吾妻町と東和町の2つのランドアバウトが2018年度グッドデザイン賞を受賞</p> <p>11 特養飯田荘が「ゆとびいいだ」としてリニューアルオープン</p>
平成31. (2019)	<p>1 南信州広域連合が座光寺の旧飯田工業高校施設を改修・整備し、公益財団法人南信州・飯田産業センターが指定管理者となった、産業振興と人材育成の拠点「エス・バード」が開所 3月にオープニングイベントを開催</p> <p>2 下久堅ふれあい交流館が完成</p> <p>3 上郷自治振興センター・保健センターが完成</p>
令和元. (2019)	<p>7 美術博物館開館30周年 自然・文化展示室がリニューアル</p> <p>9 市長ほか関係者がシャルルヴィル・メジェール市を訪問し、AVIAMA総会に出席 リニア駅周辺整備基本設計（案）が公表 災害時の相互応援協定に基づき台風第15号の被災地である千葉県君津市に災害支援を実施</p> <p>10 飯田市総合運動場がリニューアルオープン 消費税率の引上げにともない飯田市プレミアム付き商品券の販売事業を実施</p> <p>11 三遠南信自動車道天龍峡IC・千代IC・龍江ICが開通 「そらさんぽ天龍峡」「よって館天龍峡」を整備 台風第19号の県内被災地に対して災害支援を実施</p>

飯田市市歌

堀内 敬三 作曲
宮脇 至 作詞
西條 八十 補

一、山はアルプス赤石の

峰にかがやくしらゆきを

高き心のすがたとあおぎ

かける理想よ我らが飯田

二、谷は伊那谷天竜の

あぐるしぶきにたつ虹を

清き命の泉となして

希望もえたつ我らが飯田

三、南信濃に伝統の

文化花咲く美し町

協す力にいぶきも新た

のびよ久遠に我らが飯田

飯田市歌

犬塚 利国 作詞
飯田 景広 編曲

一、山紫に 水明らかに

生業栄え 人皆和して

希望の光 遍く充てり

げに飯田市の 輝く天地

二、南信濃の 陽は照り映えて

四季行楽に 名を負うところ

観光都市の 誉れも添ひて

げに飯田市の 輝く前途

三、落葉に残す 千古の偉業

烈婦偲ぶ 不断の煙り

大儒の松風 今なお高し

げに飯田市の 輝く誇り

四、ああ天恵に 幸負う我等

協同進取の 旗なびかせて

目指すは彼方 久遠の理想

げに飯田市の 輝く使命

飯田市議会要覧 令和2年度版

発行日 令和2年6月発行

編集・発行 飯田市議会事務局
〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地

TEL 0265-22-4523 (直通)
0265-22-4511 (代表 内線5611)

FAX 0265-53-8821

E-mail igikai@city.iida.nagano.jp

URL <https://www.city.iida.lg.jp/>